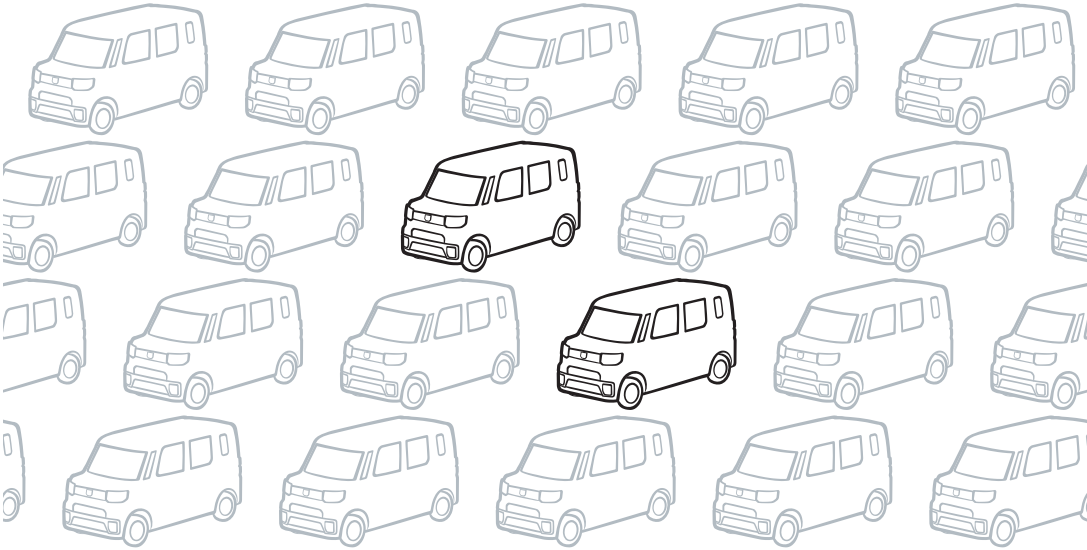
01999-B2533

Light you up

DAIHATSU

WAKE
取扱説明書



ご使用の前によくお読みください

DAIHATSU

このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、ウェイクの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

⚠ 警告	**警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。**
⚠ 注意	**注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。**
知識	**お車を使ううえで守っていただきたい、または知っておいていただきたい事項です。**
オプション / グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

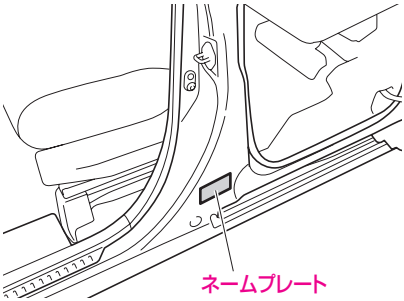
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF-　　型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	CVT

ネームプレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



MEMO

目次

絵目次 …… 2
こんなときは …… 10

必読！ドライバーのみなさまへ

走行する前に …… 14
エンジンをかけるときは …… 17
走行しているときは …… 18
駐停車するときは …… 21
お子さまを乗せるときは …… 23
こんなときは …… 26
お車を長持ちさせるには …… 29
知っておいていただきたいこと …… 31

安全なドライブのために

正しい運転姿勢 …… 34
正しい運転姿勢 …… 34
シートベルト …… 35
正しいシートベルトの着用 …… 35
シートベルトの使いかた …… 35
お子さま専用シート …… 40
チャイルドシート …… 40
チャイルドシートの選びかた …… 42
チャイルドシートの固定のしかた …… 47
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグコンピューター …… 62
セキュリティ機能 …… 64
イモビライザー機能 …… 64
セキュリティアラーム …… 65

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉 …… 72
キー …… 72
キーレスエントリー …… 77
キーフリーシステム …… 78
ドア …… 88
スライドドア …… 100
パワースライドドア
（ワンタッチオープン機能・
予約ロック機能付） …… 105
バックドア …… 116
パワーウインド …… 120
給油のしかた …… 125
車体各部の調整 …… 128
フロントシート …… 128
リヤシート …… 130
ヘッドレスト …… 133
シートアレンジ …… 135
ルームミラー …… 145
ドアミラー …… 145
リヤアンダーミラー …… 149
チルトステアリング …… 150

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯 …… 152
警告灯 …… 153
表示灯 …… 164
メーターのはたらき …… 172
メーター …… 172
スイッチの使いかた …… 184
ライトスイッチ …… 184
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 192
フォグランプスイッチ …… 193
ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 193
ホーンスイッチ …… 196
方向指示スイッチ …… 196
非常点滅灯スイッチ …… 197

車を運転するにあたって

運転するときは …… 200
運転をする前に …… 200
運転のしかた …… 202
運転するときの注意事項 …… 205
運転装置の使いかた …… 209
エンジンスイッチ
（キーレスエントリー装着車）… 209
エンジンスイッチ
（キーフリーシステム装着車）… 211
駐車ブレーキ …… 216
シフトレバー …… 217
D assist 切替ステアリング
スイッチ …… 219
ABS …… 221
ABS（EBD 機能付）…… 221
VSC & TRC …… 223
VSC …… 223
TRC …… 224
メーター表示 …… 226
VSC & TRC OFF スイッチ … 228
ヒルホールドシステム …… 229
ヒルホールドシステム …… 229
スマートアシストⅢ …… 231
スマートアシストⅢ …… 231
ステレオカメラ …… 234
ソナー …… 237
衝突警報機能
（対車両・対歩行者）、
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者） …… 238
誤発進抑制制御機能
（前方・後方） …… 249
車線逸脱警報機能 …… 257
先行車発進お知らせ機能 …… 261
メーター表示 …… 264
スマートアシスト OFF
スイッチ …… 272
コーナーセンサー …… 273
コーナーセンサー（リヤ） …… 273
ブザー …… 277

エマージェンシーストップシグナル …… 278
エマージェンシーストップシグナル …… 278
アイドリングストップシステム …… 279
eco IDLE（エコアイドル）…… 279
エコ発電制御 …… 292
エコ発電制御 …… 292

装備品の使いかた

空調 …… 294
マニュアルエアコン …… 294
オートエアコン …… 302
リヤウインドデフォッガースイッチ …… 311
オーディオ …… 312
ルーフアンテナ …… 312
オーディオ操作用ステアリングスイッチ …… 313
バックカメラ …… 314
パノラマモニター …… 318
室内装備品 …… 325
室内照明 …… 325
アクセサリーソケット …… 328
アームレスト …… 329
運転席シートヒーター …… 330
サンバイザー …… 331
格納式リヤドアサンシェード …… 333
格納式アシストグリップ …… 334
収納装備 …… 335
ラゲージルーム内装備 …… 339
ドリンクホルダー …… 349
ショッピングフック …… 351
助手席シートバックテーブル …… 351

車のお手入れ

日常のお手入れ …… 354
ボデー、塗装面のお手入れ …… 354
室内のお手入れ …… 356
簡単な点検・部品の交換 …… 358
エンジンルーム内の点検 …… 358
消耗品の補給、交換 …… 362
タイヤの点検 …… 365
ワイパーの交換 …… 372
エアコンガス、フィルターの交換 …… 376
ヒューズの交換 …… 377
電球（バルブ）交換 …… 380
キーの電池交換 …… 393

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い …… 398
冬に向かってのお手入れ …… 398
走行前点検と準備 …… 399
積雪、寒冷時の走行 …… 400
走行中の点検と注意 …… 401
走行後の取り扱い …… 402

いざというときに

工具類 …… 404
格納場所 …… 404
ジャッキの使いかた …… 406
タイヤパンク応急修理セット … 410
いざというときの処置 …… 419
エンジンがかからないとき …… 419
スタック（立ち往生）
したとき …… 419
故障したとき …… 420
けん引されるとき …… 422
パンクしたとき …… 425
バッテリーあがりの処置 …… 425
オーバーヒートの処置 …… 429
電子カードキーが
使用できないとき …… 431
キーを閉じ込めたとき …… 434
車両を緊急停止するには …… 435
水没・冠水したときは …… 436
事故が起きたとき …… 436

サービスデータ

サービスデータ …… 438

さくいん

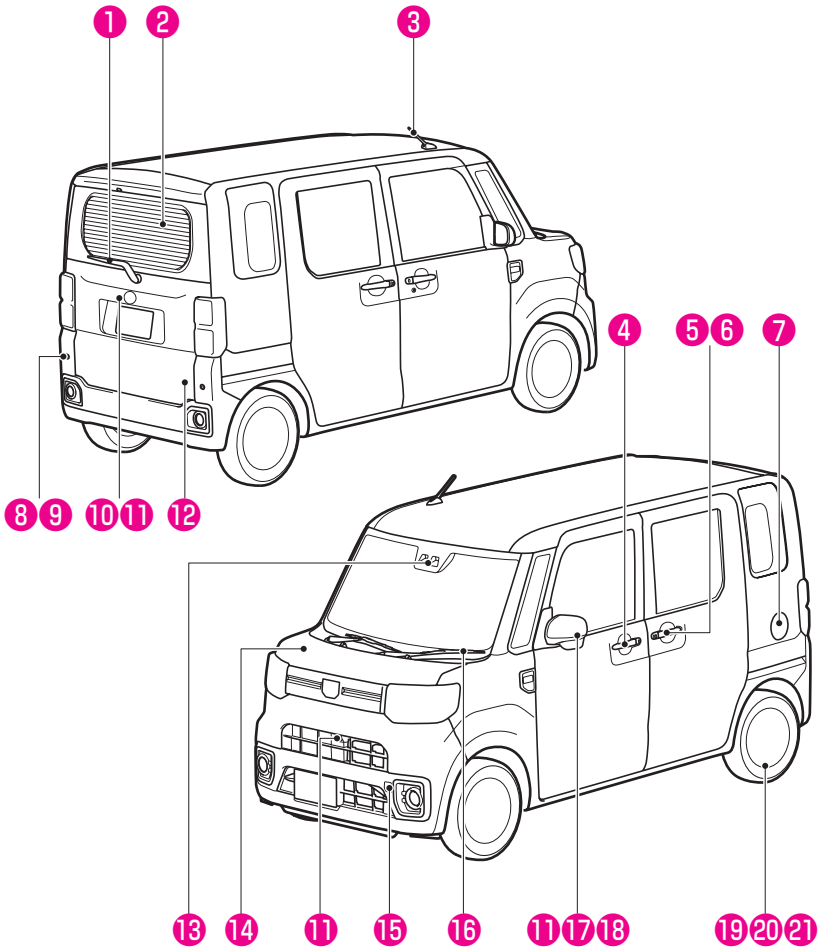
さくいん …… 444

MEMO

絵目次

外観

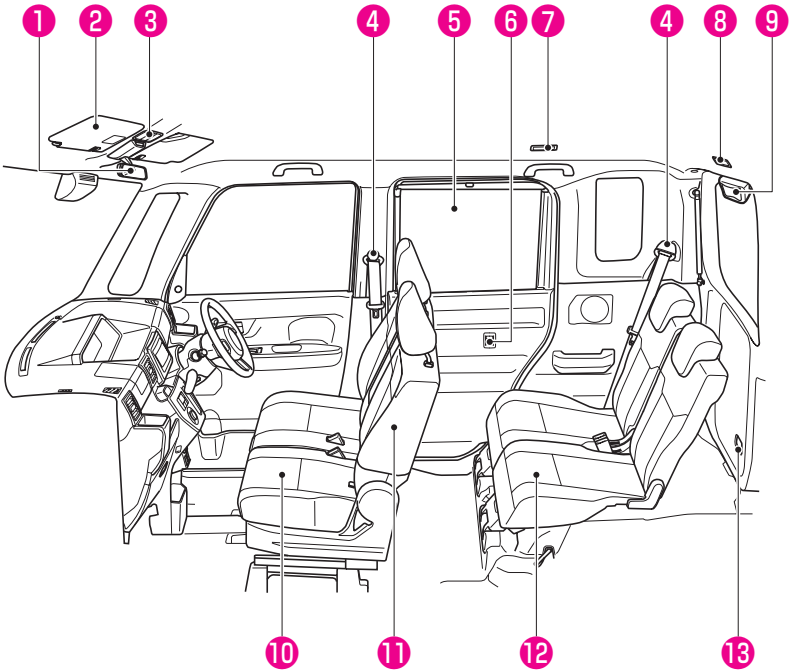
グレードの違い、注文装備も記載しています。



❶ リヤワイパー …… 195
❷ リヤウインドデフォッガー …… 311
❸ ルーフアンテナ …… 312
❹ ドアの開閉 …… 88
❺ スライドドア …… 100
❻ パワースライドドア …… 105
❼ フューエルリッド …… 126
❽ ソナー …… 237
❾ コーナーセンサー（リヤ） …… 273
❿ バックカメラ …… 314
⓫ パノラマモニター用カメラ …… 318
⓬ バックドア …… 116
⓭ ステレオカメラ …… 234
⓮ ボンネット …… 360
⓯ けん引フック …… 424
⓰ フロントワイパー …… 194
⓱ 電動格納式ドアミラー …… 145
⓲ サイドアンダーミラー …… 148
⓳ タイヤの交換 …… 367
⓴ タイヤローテーション …… 366
㉑ タイヤパンク応急修理セット …… 410

内装（1）

グレードの違い、注文装備も記載しています。



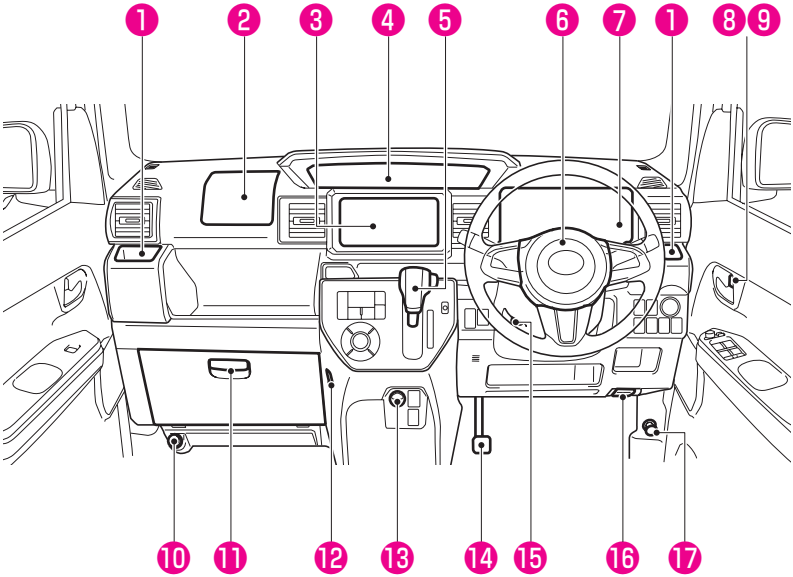
助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（チャイルドシートの固定のしかた→ 47 ページ）

❶ ルームミラー…… 145
❷ サンバイザー…… 331
❸ フロントパーソナルランプ …… 325
❹ シートベルト …… 35
❺ 格納式リヤドアサンシェード…… 333
❻ パワーウインドスイッチ …… 122
❼ リヤパーソナルランプ …… 325
❽ ラゲージルームランプ …… 326
❾ リヤアンダーミラー …… 149
❿ フロントシート …… 128
⓫ SRS サイドエアバッグ…… 53
⓬ リヤシート …… 130
⓭ バックドアランプ …… 326

内装（2）

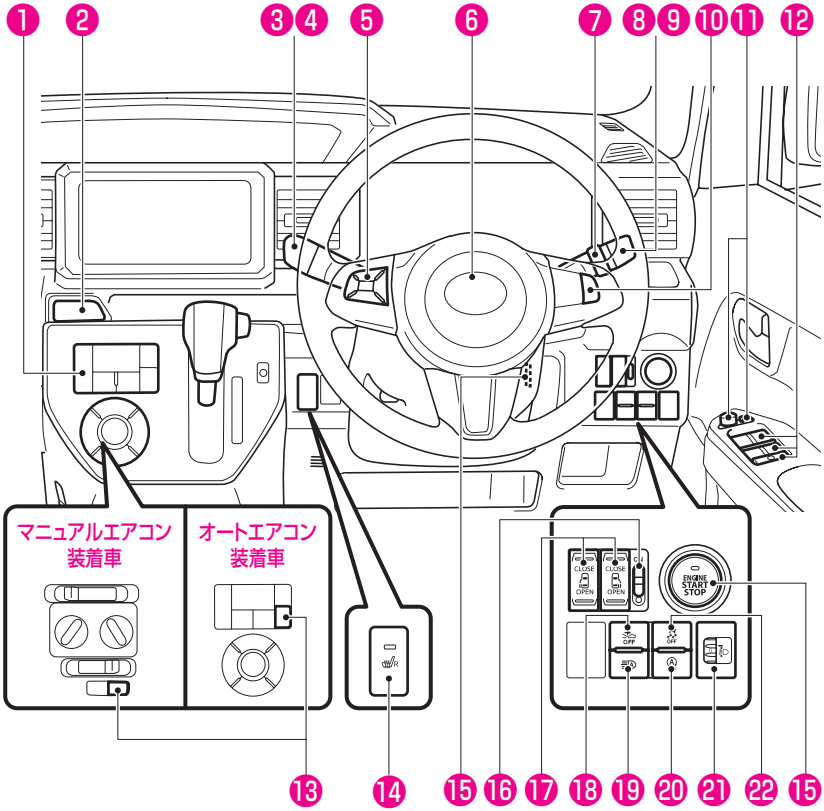
グレードの違い、注文装備も記載しています。



❶ ドリンクホルダー …… 349
❷ 助手席 SRS エアバッグ …… 53
❸ オーディオ …… 312
❹ メーター …… 172
❺ シフトレバー …… 217
❻ 運転席 SRS エアバッグ …… 53
❼ インパネアッパーボックス（運転席）…… 336
❽ 車内からの施錠・解錠 …… 93
❾ パワードアロック …… 95
❿ 発炎筒 …… 421
⓫ グローブボックス …… 336
⓬ ショッピングフック …… 351
⓭ アクセサリーソケット …… 328
⓮ 駐車ブレーキ …… 216
⓯ チルトステアリングレバー …… 150
⓰ フューエルリッドオープナー …… 126
⓱ ボンネットオープナー …… 360

運転席まわり

グレードの違い、注文装備も記載しています。



❶ エアコン
マニュアルエアコン …… 294
オートエアコン …… 302
❷ 非常点滅灯スイッチ …… 197
❸ フロントワイパー・ウォッシャースイッチ …… 193
❹ リヤワイパー・ウォッシャースイッチ …… 195
❺ オーディオ操作用ステアリングスイッチ …… 313
❻ ホーンスイッチ …… 196
❼ フォグランプスイッチ …… 193
❽ ライトスイッチ …… 184
❾ 方向指示スイッチ …… 196
❿ D assist 切替ステアリングスイッチ …… 219
⓫ ドアミラースイッチ …… 145
⓬ パワーウインドスイッチ …… 121
⓭ リヤウインドデフォッガースイッチ …… 311
⓮ 運転席シートヒータースイッチ …… 330
⓯ エンジンスイッチ
プッシュボタンスタートスイッチ …… 211
キー差込みタイプ …… 209
⓰ パワースライドドアメインスイッチ …… 111
⓱ パワースライドドアスイッチ（左側／右側） …… 109
⓲ スマートアシスト OFF スイッチ …… 272
⓳ オートハイビームスイッチ …… 186
⓴ eco IDLE OFF スイッチ …… 289
㉑ ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ …… 192
㉒ VSC & TRC OFF スイッチ …… 228

お困りの際は、次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

● （キーレスエントリー装着車）メインキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？

● （キーフリーシステム装着車）電子カードキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？

症状を確認して、該当すれば電池を交換してください。

→ 393 ページ（キーの電池交換）

● 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

→ キーレスエントリー装着車：77 ページ
→ キーフリーシステム装着車：80 ページ
（作動範囲）

エンジンがかからない

● ブレーキペダルをしっかり踏めていますか？

● シフトレバーは P レンジになっていますか？

「エンジンのかけかた」を参照して、もう一度操作してください。

→ キーレスエントリー装着車：209 ページ
→ キーフリーシステム装着車：211 ページ
（エンジンのかけかた）

● ハンドルがロックされていませんか？

ハンドルを軽く左右に回しながら、キーを回してください。

（キーフリーシステム装着車）

● 電子カードキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？

電子カードキーの電池が切れているときは、一時的な対処として、
キーをエンジンスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です。

→ 433 ページ
（電子カードキーが使用できないとき－エンジンのかけかた）
→ 434 ページ
（電子カードキーが使用できないとき－ハンドルロックを解除するには）

パワースライドドアが開閉できない

● 作動条件を満たしていますか？

作動条件について、以下のページを参照してください。

→ 111 ページ（作動条件）

eco IDLE によるアイドリングストップをしない
eco IDLE によるアイドリングストップ中にエンジンが再始動した

● eco IDLE には作動する条件、また再始動する条件があります。

以下のページを参照してください。

→ 282 ページ（システムの作動条件について）

警告灯が表示された

● 以下のページを参照してください。

→ 153 ページ（警告灯）

MEMO

安全のためにぜひ守りましょう

必読！
ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

警告に値する項目です

注意に値する項目です

走行する前に …… 14
エンジンをかけるときは …… 17
走行しているときは …… 18
駐停車するときは …… 21
お子さまを乗せるときは …… 23
こんなときは …… 26
お車を長持ちさせるには …… 29
知っておいていただきたいこと …… 31

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをかかさず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
点検・整備はメンテナンスノートにしたがって実施してください。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

（車体各部の調整→ 128 ページ）

シートベルトは乗員全員が必ず着用してください

「正しいシートベルトの着用」をよくお読みいただき、正しく着用してください。

（正しいシートベルトの着用→ 35 ページ）

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

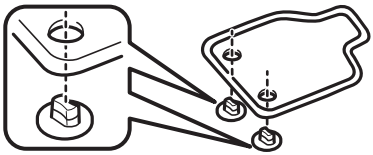
荷物を積み過ぎないでください

- 助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フロアマットはこの車（年式）専用のダイハツ純正品を使用してください

- 運転席にフロアマットを使用するときは、以下の項目を必ず守って正しく装着してください。これらを守らないと、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

  - この車（年式）専用のダイハツ純正品を使用してください。
  - 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
  - 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
  - ずれないようにフロアマット付属の専用クリップで必ず固定してください。
  - フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返したりして使用しないでください。



- クリップの破損などにより、フロアマットが固定できなくなったときは、すみやかにフロアマットの使用を中止してください。
- 運転する前に、下記のことを確認してください。
  - フロアマットがすべての固定クリップで正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。
  - エンジンを停止状態にして、シフトレバーが Ⓟ レンジの位置で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

タイヤ空気圧の点検をしてください

「タイヤ空気圧の点検」をお読みいただき、定期的に点検を実施して指定空気圧に調整してください。

（タイヤ空気圧の点検→ 365 ページ）

安全な燃料給油のために

燃料給油する場合に知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、特にセルフガソリンスタンドなどでお客様自身で燃料給油する場合に注意していただきたいことがあります。
「給油のしかた」をよくお読みいただき、安全に給油を行ってください。

（給油のしかた→ 125 ページ）

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグについて知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、ご注意いただきたいことがあります。
「SRS エアバッグ」をよくお読みください。

（SRS エアバッグ→ 53 ページ）

CVT 車について

CVT 車の特性や操作上で注意していただきたいことがあります。
「運転するときは」をよくお読みください。

（運転するときは→ 200 ページ）

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

排気ガスにご注意ください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。
排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。
車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

CVT 車で注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でシフトレバーを必ず P レンジにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

（エンジンスイッチ（キーレスエントリー装着車）→ 209 ページ）
（エンジンスイッチ（キーフリーシステム装着車）→ 211 ページ）

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作動しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→ 435 ページ）

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

路面状態やスピードに応じてシフトダウンしてエンジンブレーキを併用しましょう。

- シフトレバーを Ⓢ レンジに入れる
  また、より強いエンジンブレーキが必要な場合は Ⓑ レンジに入れる

その際には、急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確かめてください。
効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき→ 419 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジンオイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。
また、リヤシートの背もたれを前倒しした状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。
人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジンブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルームミラーやドアミラー、サイドアンダーミラー、リヤアンダーミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを Ⓟ レンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30cm 以上離して止めてください。隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

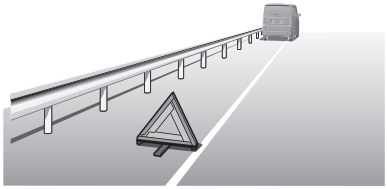
車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。
車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。
また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、風通しの良くない所や風向きによっては排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。
万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1 分程度アイドリング運転でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。（ただし、eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

お子さまを乗せるときは

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。
必ずお子さまと一緒に車を離れてください。

ドアやウインドなどの開閉、シートの調整は大人が注意しながら操作してください

- ドアやウインドの開閉、シート、アームレストの調整など、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。また、お子さまが作動部に触れないように注意しましょう。
- ドアやウインドの開閉、シート、アームレストの調整などは大人が操作してください。
  また、安全のためにチャイルドセーフティを使用してください。
- パワーウインドは、お子さまが自分で操作できないようにパワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

（パワーウインド OFF スイッチ→ 123 ページ）

お子さまは大人と一緒に後部座席にお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、万一のとき、お子さまがインストルメントパネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

シートベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。

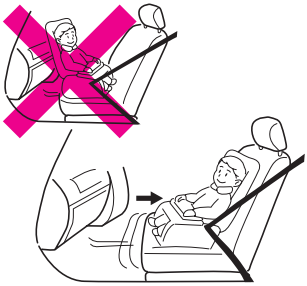
お子さまにもシートベルトを着用させてください

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。衝突したときなど十分に支えることができず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。
  通常のシートベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
  また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
- ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

（チャイルドシート→ 40 ページ）

チャイルドシートは正しく取り付けてください

助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。SRS エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。
絶対に身を乗り出したり、シートの上に立たせたりしないでください。転落などして重大な傷害を受けるおそれがあります。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

（警告灯→ 153 ページ）

オーバーヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。
また、あわててラジエーターキャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

（オーバーヒートの処置→ 429 ページ）

エンストしたとき

落ち着いて操作してください。
ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、通常より強い力でハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤパンク応急修理セット→ 410 ページ）
（タイヤの交換→ 367 ページ）

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメントパネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。
- ウインドガラスには吸盤を付けたり、インストルメントパネルに芳香剤の容器などを置いたりしないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインドガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジンルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
  また、走行中にエンジンルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

● インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにダイハツサービス工場にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

● 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
● インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
● 運転者はハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
● 運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
● シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
● タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、バンパーや床下などを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。
● 車止めのある場所への駐車、路肩に沿っての駐車
● 路肩など段差のある場所への乗り降り
● 駐車場など急な坂道への出入り
● 凹凸やわだちのある道路の走行
● くぼみ（穴）のある場所の通過

お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、ダイハツが推奨するものに基づいています。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態で、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機やダイハツ純正部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ダイハツサービス工場にご相談ください。
- バッテリー端子にダイハツ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

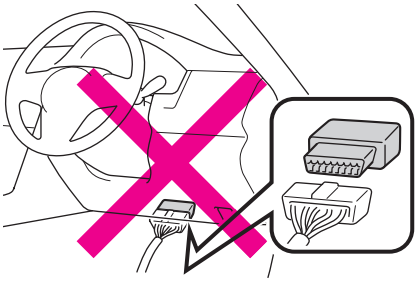
純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「ダイハツ純正部品」のご使用をおすすめします。

知っておいていただきたいこと

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。
EDR は次のようなデータを記録します。
- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意

EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合せて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは
- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーやバックドアなど）に取り付けることはできません。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

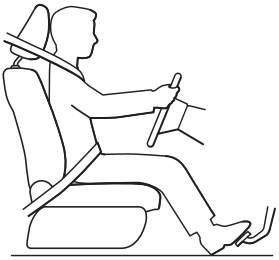
安全なドライブのために

正しい運転姿勢
正しい運転姿勢 …… 34
シートベルト
正しいシートベルトの着用 … 35
シートベルトの使いかた …… 35
お子さま専用シート
チャイルドシート …… 40
チャイルドシートの
選びかた …… 42
チャイルドシートの
固定のしかた …… 47
SRS エアバッグ
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ
コンピューター …… 62
セキュリティ機能
イモビライザー機能 …… 64
セキュリティアラーム …… 65

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意して走行前にシートやミラーなどを調整してください。



- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること

（フロントシート→ 128 ページ）

- シートベルトが正しく着用できること

（シートベルト→ 35 ページ）

- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること

（ヘッドレスト→ 133 ページ）

⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（シートベルト→ 35 ページ）

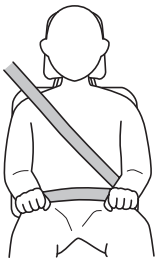
シートベルト

正しいシートベルトの着用

運転者は車を運転する前に、下記のことに注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

▼ 正しい着用のしかた



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

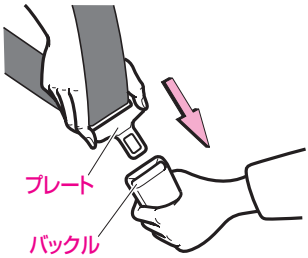
⚠ 警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。

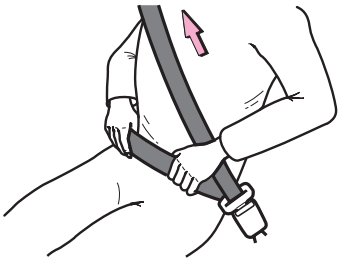
シートベルトの使いかた

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着けるとき

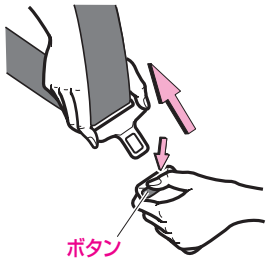


1 プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む



2 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させる

▼ 外すとき



バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻します。

⚠ 注意

プレートを差し込むときは

● プレートでバックルを無理にこじらないでください。

知識

ベルトがロックし引き出せないときは

● ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シートベルトブザーについて

● フロントシートベルトを着用していない状態（運転席・助手席警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

（シートベルト締め忘れ警告灯（運転席・助手席）→ 157 ページ）

● 約 5km/h 以上で走行中に、後席の乗員がシートベルトを外すと、ブザーが約 30 秒間鳴ります。

（シートベルト締め忘れ警告灯（後席）→ 158 ページ）

プリテンショナー & フォースリミッター機構

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けると、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトや SRS エアバッグの効果をいっそう高めます。

フォースリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠ 警告

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外したり、分解、改造をしないでください。
- 下記のような場合は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 無線機を取り付けるとき
  - 廃車にするとき

⚠ 注意

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのダイハツサービス工場で交換してください。

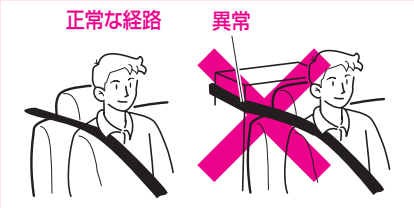
知識

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

シートベルトの取扱いとお手入れ

⚠ 警告

- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



⚠ 警告

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
  ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 1 人で座ることのできない乳幼児の場合はベビーシート（別売）を使用してください。
- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルドシートやジュニアシート（別売）を使用してください。

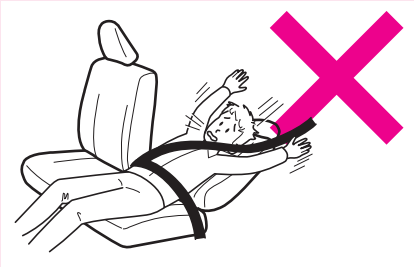
（チャイルドシート→ 40 ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた→ 47 ページ）

- シートベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
  - 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させます。
  - 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用します。

⚠ 警告

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。
- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、ダイハツサービス工場でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、ダイハツサービス工場で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

お子さま専用シート

チャイルドシート

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをご使用ください。

車両に固定するチャイルドシートには、シートベルトで固定するタイプと ISO* FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーで固定するタイプがあります。

（チャイルドシートの固定のしかた→ 47 ページ）

チャイルドシートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルドシートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルドシートが不必要なお子さまは、シートベルトを着用させてください。

チャイルドシートについて

- ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

（チャイルドシートの種類→ 41 ページ）

* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

チャイルドシートの質量グループについて

UN（ECE）R44* の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

チャイルドシートの種類

ベビーシート

質量グループ 0、0+に相当します。

チャイルドシート

質量グループ 0+、Ⅰに相当します。

ジュニアシート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

* チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

チャイルドシートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

知識

- お子さまに適切なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0(10kgまで)	×	U※1
0+(13kgまで)	×	U※1
Ⅰ(9～18kg)	UF※2	U※1※2
Ⅱ(15～25kg)	UF※2	U※1※2
Ⅲ(22～36kg)	UF※2	U※1※2

●記号の説明

U　：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートが取り付け可能です。

UF　：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの前向きチャイルドシートが取り付け可能です。

×　：チャイルドシートを取り付けることはできません。

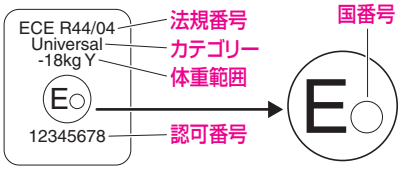
※1　リヤシートの背もたれを直立状態にしてください。

※2　ヘッドレストとチャイルドシートが干渉して、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。
チャイルド シートの装着に際しては、チャイルドシートの取扱説明書もご確認ください。

知識

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- UN（ECE）R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。
  - カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。



ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー＆トップテザーアンカーで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0(10kgまで)	E	ISO/R1	IL※1※2
0+(13kgまで)	E	ISO/R1	IL※1※2
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I(9～18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF※1※2
	B1	ISO/F2X	IUF※1※2
	A	ISO/F3	IUF※1※2
Ⅱ(15～25kg)		―	×
Ⅲ(22～36kg)		―	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルドシートのみ取り付け可能です。

IL ：この質量グループでの使用を許可された下記「ISO FIX対応チャイルドシートのリスト」に示す準汎用カテゴリーのチャイルドシートのみ取り付け可能です。

× ：ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 リヤシートの背もたれを直立状態にしてください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉して、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外してください。

●ISO FIX対応チャイルドシートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルドシート	カテゴリー
0(10kgまで)	E	ISO/R1	ダイハツ純正ISO FIXベビーシート(ユニバーサル)	準汎用
0+(13kgまで)	E	ISO/R1		

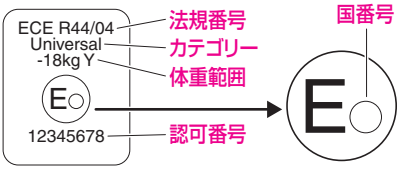
表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。
チャイルドシートの装着に際しては、チャイルドシートの取扱説明書もご確認ください。

知識

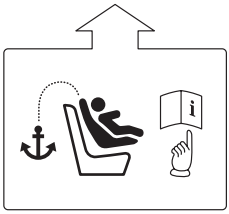
- この車の ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーは、2006 年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合しています。
  これには、UN（ECE）R44 に適合している ISO FIX 対応チャイルドシートしか取り付けることができません。
- UN（ECE）R44 に適合している ISO FIX 対応チャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。（表示されているマークや文字は、製品により異なります）
  - ISO FIX 対応チャイルドシートであることを示す表示です。
    文字はサイズ等級を表します。

A —— サイズ等級

  - UN（ECE）R44 の認可マークです。
    汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



  - ISO FIX 対応トップテザーアンカーの位置を示すマークです。
    トップテザーアンカーの位置により、意匠は異なります。



知識

- ダイハツ純正の汎用（ユニバーサル）、および準汎用カテゴリーのチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはダイハツサービス工場にご相談ください。
- チャイルドシートを購入するときは、ISO FIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	仕様
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2と別形状のもの）
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

- キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくはチャイルドシートの製造業者、または販売業者にご相談ください。

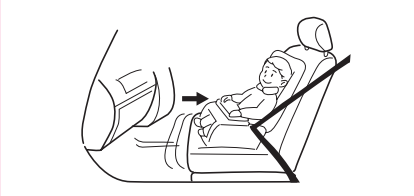
チャイルドシートの固定のしかた

⚠ 警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルドシートを使用してください。
  また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジュニアシートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを取り付けたときは、チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートに固定しておいてください。また、ラゲージルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRS エアバッグに近すぎるため、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。



SRS サイドエアバッグ

● チャイルドシートに座らせている場合でも、ドアやシート部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

● 標準装備のシートベルトは大人用です。肩部ベルトが首にかかるような小さなお子さまにはシートベルトの着用はさけ、チャイルドシートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。

● シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

チャイルドシートを使用しないときは

● チャイルドシートを長時間使用しない場合は、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

知識

チャイルドシートをリヤシートに取り付けたときは

● 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）

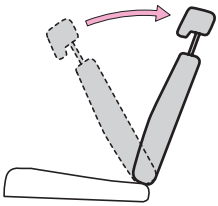
シートベルトによる固定

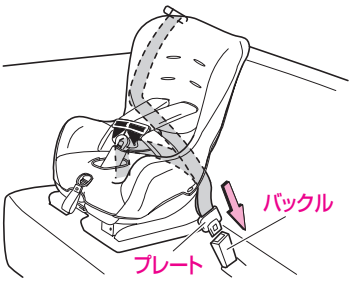
▼ 取り付けかた

1 リヤシートを後方いっぱいまでスライドする

2 リヤシートの背もたれの角度を調整する

- 背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置に起こします。





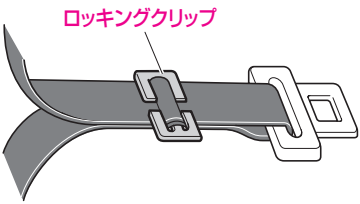
3 チャイルドシートをリヤシートに置く

- ヘッドレストにチャイルドシートが干渉するときは、ヘッドレストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

4 シートベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルドシートの中に通す

5 バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む

6 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキングクリップを使用して固定する



7 チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

【固定のしかたは代表例です。また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルドシートの形状とは異なります。】

⚠ 注意

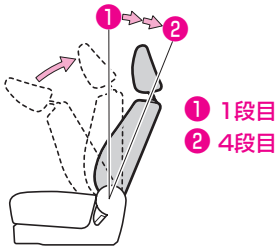
- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。
- チャイルドシートを固定したあと、シートベルトでチャイルドシートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

知識

- ロッキングクリップの取り付けは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
  また、ロッキングクリップの購入については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

助手席にチャイルドシートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席シートを以下のように調整し、必ず前向きにチャイルドシートを取り付けてください。

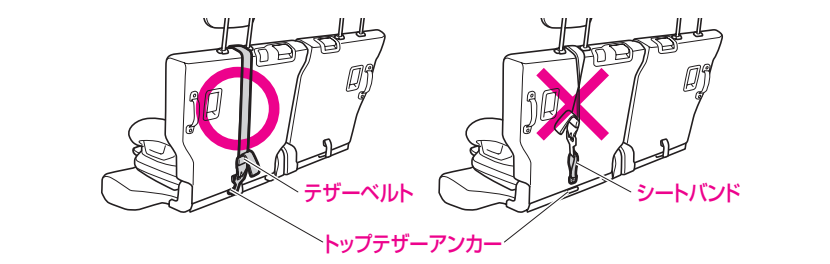


- シートを後方いっぱいまでスライドさせる
- 背もたれをいったん前に倒し、1 段目（❶）の固定位置に起こしてから、4 段目（❷）の固定位置まで調整する
- ヘッドレストにチャイルドシートが干渉するときは、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく

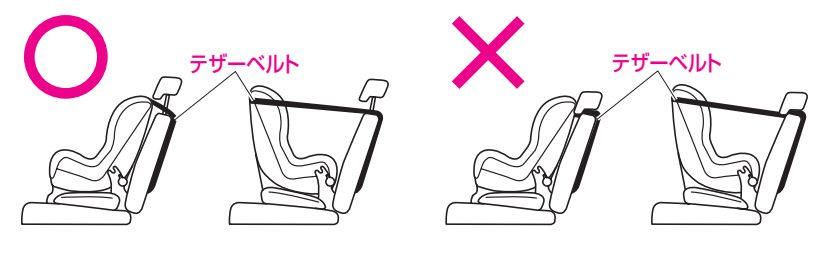
ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー＆トップテザーアンカーによる固定

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- テザーベルトのフックは、必ずトップテザーアンカーに固定してください。
誤ってシートバンドなどで固定すると、衝突したときなどにシートが損傷したり、チャイルドシートが正しく固定されず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



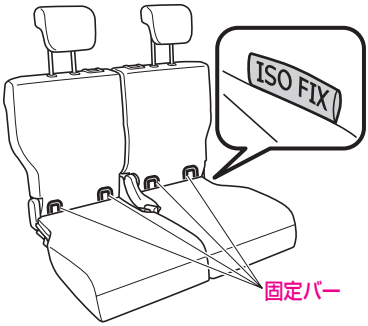
- チャイルドシートのテザーベルトがヘッドレストに干渉しないように、ヘッドレストを「カチッ」と音がする位置まで引き上げてからトップテザーアンカーに固定してください。それでもヘッドレストに干渉する場合は、ヘッドレストを取り外して安全な場所に固定しておいてください。ヘッドレストを下げたままだと、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

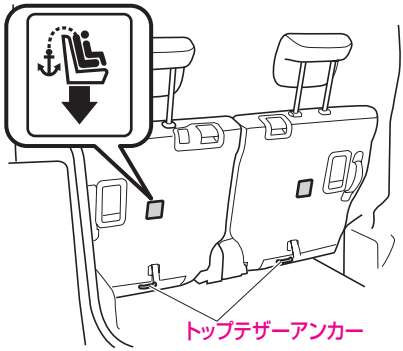


▼ 取り付けかた

1 ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーの位置を確認する

- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。
- トップテザーアンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。

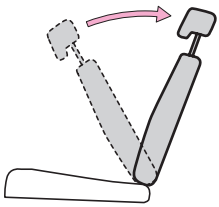




2 リヤシートを後方いっぱいまでスライドする

3 リヤシートの背もたれの角度を調整する

- 背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置まで起こします。



4 適合するチャイルドシートの取り付け金具を ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーに連結して取り付ける（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください）

- ヘッドレストにチャイルドシートやテザーベルトが干渉するときは、ヘッドレストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

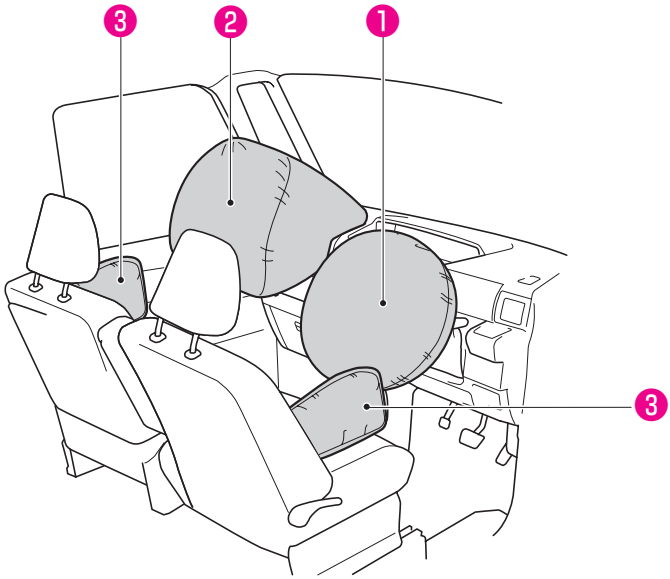
5 取り付けたチャイルドシートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認する

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

【SRS：Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です】



❶ 運転席 SRS エアバッグ

運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

❷ 助手席 SRS エアバッグ

助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

❸ SRS サイドエアバッグ

運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。

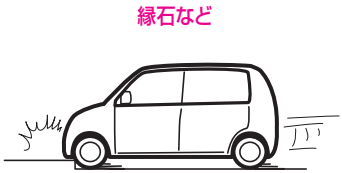
作動する場合

運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

SRS エアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。（同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します）

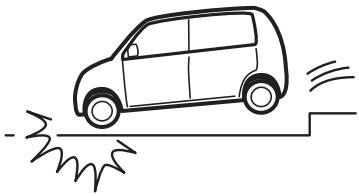
また、下記のように走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRS エアバッグが作動することがあります。

● 高速で縁石などに衝突したとき



● 深い穴や溝に落ち込んだとき

● ジャンプして地面に衝突したとき



SRS サイドエアバッグ

SRS サイドエアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しない場合

下記のときは、SRS エアバッグが作動しません。

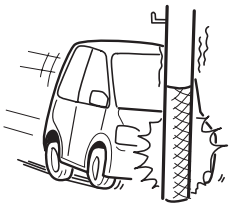
- エンジンスイッチが“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯点灯時

運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

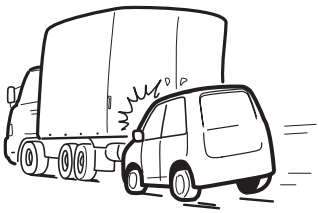
下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

- コンクリートの壁に約 20km/h 以下の速度で正面衝突したとき

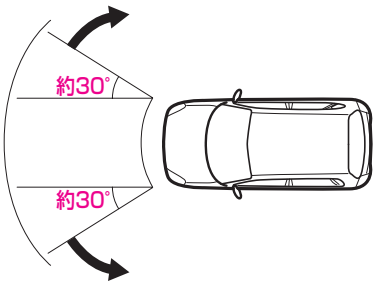
- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき

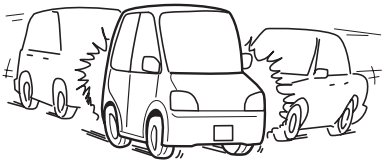


- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

● 側面や後方から衝撃を受けたとき

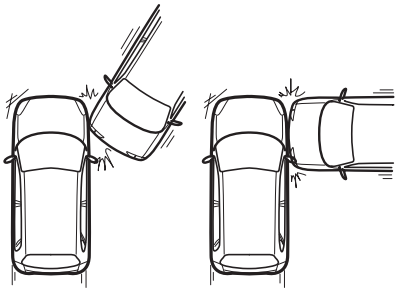


● 車両が横転、転覆したとき

SRS サイドエアバッグ

下記のような側面からの衝撃を受けたときは、作動しないことがあります。

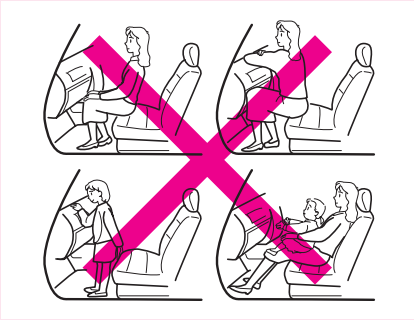
● 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき



SRS エアバッグの取り扱い

⚠ 警告

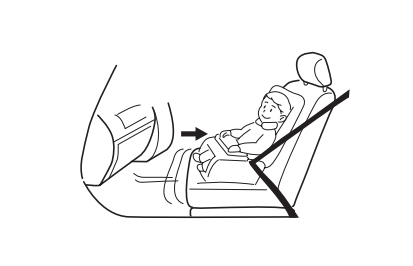
- シートベルトは必ず着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時に SRS エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
  （正しいシートベルトの着用→ 35 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRS エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS エアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席 SRS エアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRS エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席 SRS エアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 警告

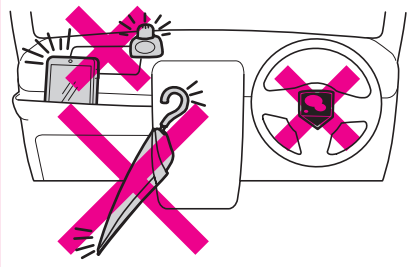
- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートなどをリヤシートに装着して使用してください。
- 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRS エアバッグに近すぎるため、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。
  （チャイルドシート→ 40 ページ）



⚠ 警告

- SRS エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かず SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグの上やその周辺に物を置いたり、取り付けたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリングパッド、インストルメントパネルの上など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリルガードなどを装着する場合は、最寄りのダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠ 警告

SRS サイドエアバッグ

- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS サイドエアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRS サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- フロントシート表皮の張り替えをしたり、フロントシート、センターピラー部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントシートに SRS サイドエアバッグ専用のダイハツ純正シートカバー以外は取り付けないでください。フロントシート側面の SRS サイドエアバッグ展開部をおおうと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ドアやその周辺に専用のダイハツ純正用品以外を取り付けないでください。SRS サイドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRS サイドエアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

- フロントシート側部など SRS サイドエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- SRS エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席 SRS エアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドガラスが破損することがあります。
- SRS エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずダイハツサービス工場で交換してください。
- 下記のような場合は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRS エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき
  - フロントシート、センターピラー部を取り外すとき（SRS サイドエアバッグ）
  - 車両側部を修理するとき（SRS サイドエアバッグ）
- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずダイハツサービス工場にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

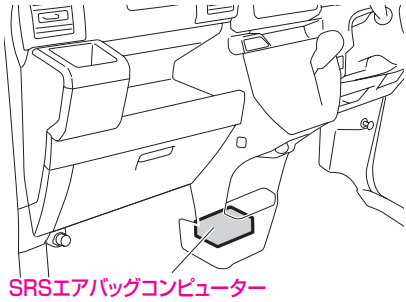
📖 知識

SRS サイドエアバッグについて

- SRS エアバッグ（運転席・助手席）と SRS サイドエアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
  - SRS エアバッグ（運転席・助手席）のみ作動
  - SRS サイドエアバッグのみ作動

SRS エアバッグコンピューター

SRS エアバッグを制御する装置です。

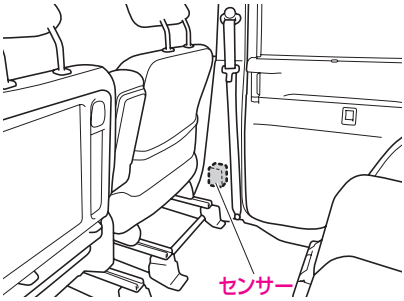


⚠ 注意

- SRS エアバッグコンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRS エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグコンピューターには、水、飲み物などをかけないでください。
- SRS エアバッグコンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRS エアバッグが一度作動すると再使用できません。ダイハツサービス工場で交換してください。

SRS サイドエアバッグセンサー

SRS サイドエアバッグセンサーはフロントシート付近の車体左右両側に取り付けられています。



⚠ 注意

- SRS サイドエアバッグセンサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRS サイドエアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS サイドエアバッグセンサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。

セキュリティ機能

イモビライザー機能

キーフリーシステム装着車

車両の盗難防止のため、電子カードキーには信号発信機が内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼ 操作方法

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティインジケーターが点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティインジケーターが消灯します。

（セキュリティインジケーター→ 167 ページ）

知識

- セキュリティインジケーターはセキュリティアラームと兼用しているため、リクエストスイッチ操作・電子カードキーのリモコン操作により施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
- セキュリティアラームが解除されていない場合は、エンジンスイッチを“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- 電子カードキーに登録された信号はキーごとに異なります。

イモビライザー機能のメンテナンスについて

イモビライザー機能のメンテナンスは不要です。

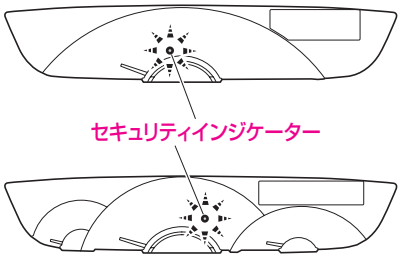
⚠ 注意

イモビライザー機能を正常に作動させるために

- イモビライザー機能の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームは、不正な侵入を検知した場合に、音と光で周囲に異常を知らせる機能です。



知識

セキュリティアラームについて

- セキュリティアラームは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入・盗難を防ぐ機能ではありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、セキュリティアラームの作動について知らない方が運転するときは、セキュリティアラームについて十分ご説明ください。
  セキュリティアラームの作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。

ドアを施錠する前の確認

- セキュリティアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため以下のことを必ず確認してください。
  - 車内に人が乗っていないか
  - ドアガラスが閉じているか
  - 車内に貴重品などを放置していないか

セキュリティアラームのセット方法

1 すべてのドアを閉める

2 次のいずれかの方法ですべてのドアを施錠する（セキュリティインジケーターが点灯）

キーレスエントリー装着車

●メインキーのリモコン操作

（キーレスエントリーによる施錠・解錠 → 90 ページ）

キーフリーシステム装着車

●リクエストスイッチ操作

（リクエストスイッチ・ワンタッチスイッチ操作→ 91 ページ）

●電子カードキーのリモコン操作

（リモコン操作→ 92 ページ）

3 30 秒以上経過すると、自動的にセットされる
（セットされると警戒状態になり、セキュリティインジケーターが点灯から点滅に変わる）

知識

●上記のセット方法以外で施錠した場合、セキュリティアラームはセットされません。
（タイマーロック機能で施錠された場合は、セットされます）

●セキュリティインジケーターが点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をしたときは、セキュリティアラームのセットが中断されます。

- 運転席ドアを解錠したとき
- ドアを開けたとき
- キーレスエントリー装着車で、キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれたとき
- キーフリーシステム装着車で、エンジンスイッチを“ON”にしたとき

セキュリティアラームのセット解除

下記のいずれかの操作でセキュリティアラームのセット（警戒状態）を解除します。

キーレスエントリー装着車

- メインキーのリモコン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

キーフリーシステム装着車

- リクエストスイッチ操作、またはワンタッチスイッチ操作でドアを解錠する
- 電子カードキーのリモコン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

知識

セキュリティインジケーターについて

キーフリーシステム装着車

- イモビライザー機能のインジケーターを兼ねているため、セキュリティアラームのセットを解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。
  また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

セキュリティアラーム作動

セキュリティアラームがセットされた状態で下記の操作以外で解錠し、ドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。

キーレスエントリー装着車

- メインキーのリモコン操作

キーフリーシステム装着車

- リクエストスイッチ操作
- ワンタッチスイッチ操作
- 電子カードキーのリモコン操作

セキュリティアラームは 2 段階で作動します。

▼ 1 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

1 次作動の間に警報が解除されなかった場合、2 次作動に入ります。

▼ 2 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る

知識

- セキュリティアラーム作動中にドアを閉めても、作動は停止しません。
- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

セキュリティアラーム作動の停止方法

以下のいずれかの操作でアラーム作動を停止できます。

キーレスエントリー装着車

- メインキーの“LOCK”または“UNLOCK”ボタンを押す
- エンジンスイッチを“ON”の位置にする

キーフリーシステム装着車

- 電子カードキーの“LOCK”または“UNLOCK”スイッチを押す
- 電子カードキーを携帯してリクエストスイッチを押す
- 電子カードキーを携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

電子カードキーが使用できないとき

キーフリーシステム装着車

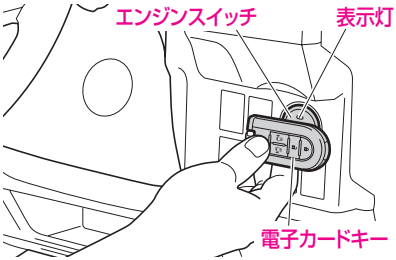
電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは、次の操作でアラーム作動を停止してください。

▼ 操作方法

1 ブレーキペダルをしっかりと踏む

2 ペダルを踏んだまま、電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる

- 電子カードキーの中心をスイッチの中心に接触させます。



3 キーが認識されて警報が停止する

- 表示灯が点灯します。

知識

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは

- エマージェンシーキーでドアの施錠、解錠、電子カードキーでエンジンスイッチの操作を行うことができます。

（電子カードキーが使用できないとき→ 431 ページ）

セキュリティアラーム作動履歴の確認

セキュリティアラームのセット中にアラームが作動したことを確認することができます。（2 次作動までした場合のみ）

▼ 確認方法

エンジンスイッチを“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴ります。

知識

- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ行うことができます。

セキュリティアラームのメンテナンスについて

セキュリティアラームのメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

セキュリティアラームを正常に作動させるために

- セキュリティアラームの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉

キー …… 72
キーレスエントリー …… 77
キーフリーシステム …… 78
ドア …… 88
スライドドア …… 100
パワースライドドア
（ワンタッチオープン機能・
予約ロック機能付）…… 105
バックドア …… 116
パワーウインド …… 120
給油のしかた …… 125

車体各部の調整

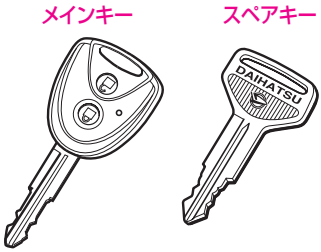
フロントシート …… 128
リヤシート …… 130
ヘッドレスト …… 133
シートアレンジ …… 135
ルームミラー …… 145
ドアミラー …… 145
リヤアンダーミラー …… 149
チルトステアリング …… 150

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほかに、ドアの施錠・解錠など車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。

キーレスエントリー装着車

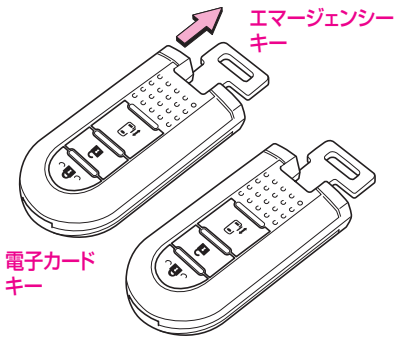


▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、メインキー 1 枚とスペアキー 1 枚が付いています。

キーフリーシステム装着車

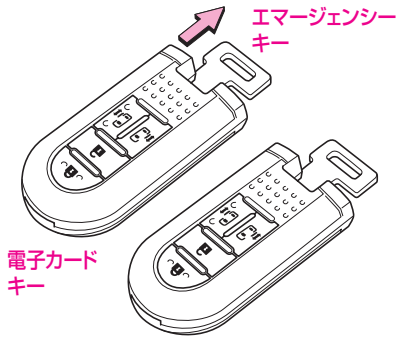
左側パワースライドドア装着車



▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、電子カードキー（エマージェンシーキー内蔵）が 2 つ付いています。

両側パワースライドドア装着車



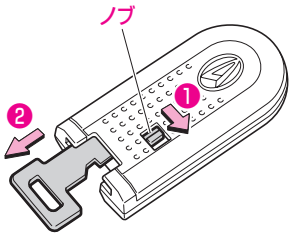
▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、電子カードキー（エマージェンシーキー内蔵）が 2 つ付いています。

知識

● 電子カードキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

エマージェンシーキー



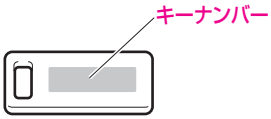
▼ エマージェンシーキーの取り出しかた

● 電子カードキーのノブを（❶）の方向にスライドさせたまま、エマージェンシーキーを（❷）の方向に引いて取り出します。

知識

● 使用後は元に戻し、必ず電子カードキーと一緒に携帯してください。
電子カードキーが電池の消耗などで使用できなくなったときに必要になります。

キーナンバープレート



キーナンバーは、キーではなくプレートに打刻しています。

● プレートは、お客様以外にキーナンバーがわからないように、車両以外の場所に大切に保管してください。

キーの取扱い

キーレスエントリー装着車

⚠ 注意

故障を防ぐために

- メインキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 直射日光や高温下に放置しない
  - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
  - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

知識

航空機に乗るときは

- 航空機にメインキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電池の寿命について

- メインキーの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 393 ページ）

スペアキーについて

- 大切に保管しておいてください。

キーのご購入について

- キーレスエントリー装着車のメインキーは 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

万一キーを紛失したときは

- キーナンバーをダイハツサービス工場にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

キーフリーシステム装着車

⚠ 注意

故障を防ぐために

● 電子カードキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
- 電子カードキーをズボンなどの後ろポケットに入れない
- 直射日光や高温下に放置しない
- 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
- 水にぬらさない
- 分解をしない
- 超音波洗浄機などにかけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

知識

● 電子カードキーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

航空機に乗るときは

● 航空機に電子カードキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子カードキーが使用できないときは

● 電池の消耗などにより電子カードキーが使用できないときは、エマージェンシーキーを使用してください。

（電子カードキーが使用できないとき→ 431 ページ）

知識

電子カードキーの電池寿命について

- 1 日 10 回程度の乗降で約 2 年です。（電子カードキーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています）
  ただし、電子カードキーのスイッチ操作（ドアの施錠・解錠など）の使用頻度が高い場合、または電子カードキーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。
- 電子カードキーの電池残量が少なくなると、警告灯とブザー音でお知らせします。
  （キーフリー電池残量警告→ 85 ページ）
- 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くに電子カードキーを置かないでください。電子カードキーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
  - テレビ
  - オーディオ
  - パソコン
  - AC アダプター
  - 携帯電話、コードレス電話
  - 充電器
  - 電気スタンド
  - 低周波治療器などの医療用電気機器
  - 液晶表示器
  - モーター類
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。
  （キーの電池交換→ 393 ページ）

キーのご購入について

- 電子カードキーは最大 4 枚まで設定することができます。
  ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

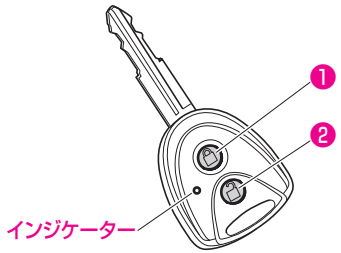
万一キーを紛失したときは

- キーナンバーをダイハツサービス工場にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

キーレスエントリー

オプション／グレード別装備

メインキーのスイッチを押すことで、ドアの施錠・解錠ができます。



▼ リモコン操作

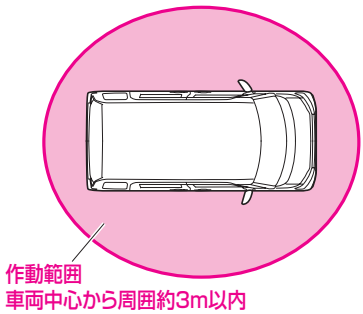
● スイッチを押すと、以下の操作ができます。

❶ ドアの施錠

❷ ドアの解錠

（リモコン操作→ 90 ページ）

作動範囲



知識

● 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

キーレスエントリーが正常に作動しないおそれのある状況

● 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき

- TV 塔
- 発電所
- 放送局

キーフリーシステム

オプション／グレード別装備

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。

●ドアを施錠・解錠する

●スライドドアを開閉する

●エンジンの始動・モード切り替えをする

また、電子カードキーのスイッチを操作すると、次の操作が行えます。

●ドアを施錠・解錠する

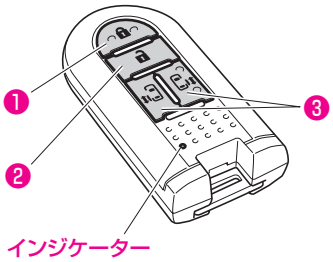
●スライドドアを開閉する

（キーフリーシステムによる施錠・解錠 → 91 ページ）
（エンジンスイッチ→ 211 ページ）
（パワースライドドアの自動開閉→ 107 ページ）

知識

●電子カードキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

電子カードキー



▼ リモコン操作

●スイッチを押すと、以下の操作ができます。

❶ ドアの施錠

❷ ドアの解錠

（リモコン操作→ 92 ページ）

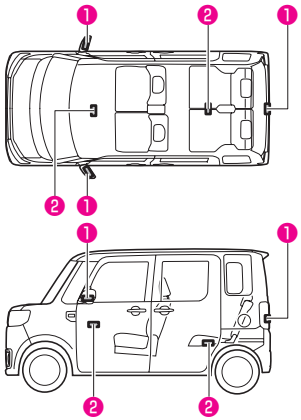
❸ パワースライドドアの自動開閉

（スライドドアのリモコン操作
→ 108 ページ）

発信機

車両の発信機から発せられる電波を電子カードキーが感知することによって、キーフリーシステムが作動します。

▼ 発信機の位置



❶ 車外発信機

❷ 車内発信機

⚠ 警告

植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車外発信機・車内発信機から約 22㎝以内に近付かないようにしてください。ドア開閉時、各ドアのリクエストスイッチ・ワンタッチスイッチ操作時、エンジン始動時などに車両の発信機から発せられる電波により、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
  電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

知識

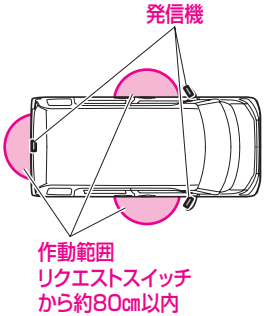
発信機の電波を停止したいときは

- 発信機から発する電波を停止（キーフリーシステムを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのダイハツサービス工場にご相談ください。
- 発信機から発する電波を停止させたときは、エンジンスイッチに電子カードキーを接触させなければエンジンを始動できません。（電子カードキーのリモコン操作は行えます）

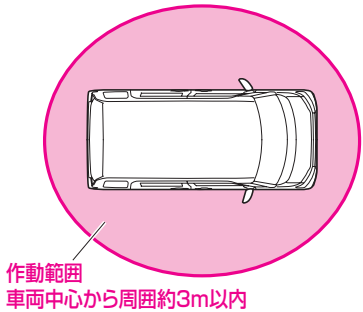
（エンジンのかけかた→ 433 ページ）

作動範囲

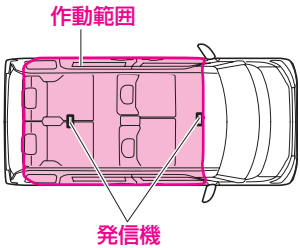
▼ リクエストスイッチ・ワンタッチスイッチ作動



▼ リモコン作動



▼ エンジンスイッチ作動



（リクエストスイッチ・ワンタッチスイッチ操作→ 91 ページ）

知識

● 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

リクエストスイッチ作動、またはワンタッチスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

● 電子カードキーの携帯のしかたにより、リクエストスイッチ、またはワンタッチスイッチを押しても作動しない場合があります。

● 下記のような場合は、電子カードキーが作動範囲にあっても、正常に作動しない場合があります。

- ドアの施錠・解錠時に、電子カードキーをドアガラスやドアハンドル周辺に近付けすぎたとき
- 地面の近く、もしくは高い場所に電子カードキーがあるとき

知識

エンジンスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

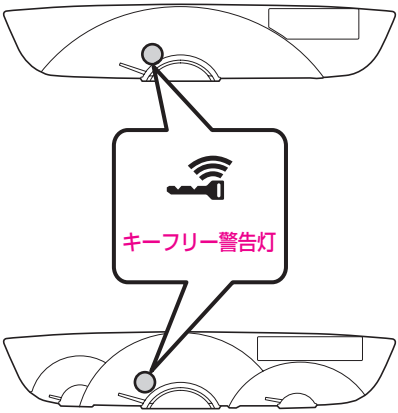
- インストルメントパネルの上や中（グローブボックス内など）・荷室・ドアポケット・アームレスト内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドアハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。

キーフリーシステムが正常に作動しないおそれのある状況

- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
  - TV 塔
  - 発電所
  - 放送局
  - 電光掲示板
  - ガソリンスタンド
  - コインパーキング
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブルオーディオ、または他車の電子カードキーと一緒に携行したとき
- 電子カードキー本体が金属製の物と接していたり、覆われたりしているとき
- 電子カードキーの電池が消耗しているとき

警告ブザー、メーター表示による警告

キーフリーシステムでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとメーター表示で警告を行います。



電子カードキー持ち出し警告

▼ 原因

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉める

▼ 警告音

- 車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

- キーフリー警告灯が高速点滅する

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して乗車してください。

知識

- ドア開閉をせずに電子カードキーを車外に持ち出したときは、警告は行われません。
- 電子カードキーを車外に置いたまま、いずれかのドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

エンジンスイッチ切り忘れ警告 ①

▼ 原因

● エンジンスイッチが“ACC”のときに運転席ドアを開ける

▼ 警告音

● 車内で「ピッピッピッ・・・」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法

エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください。

エンジンスイッチ切り忘れ警告 ②

▼ 原因

● エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音

● 車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法

エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを施錠してください。

電子カードキー置き忘れ警告

▼ 原因

● 車内に電子カードキーが放置された状態で、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音

● 車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

半ドア警告

▼ 原因

●いずれかのドアが開いているとき（半ドア警告灯が点灯時）に、

- フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとする
- 電子カードキーのリモコン操作でドアを施錠しようとする

▼ 警告音

●車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法

すべてのドアを閉めてから施錠してください。

電子カードキー閉じ込み警告①

▼ 原因

●車内に電子カードキーが放置された状態で、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めた

▼ 警告音

●車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、同時にすべてのドアが解錠する

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

電子カードキー閉じ込み警告②

▼ 原因

●エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときに、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めた

▼ 警告音

●車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、同時にすべてのドアが解錠する（エンジンスイッチが“ACC”のときは、警告ブザーは鳴りません）

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

キーフリー電池残量警告

▼ 原因

● 電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした

▼ 警告音

● 車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

● キーフリー警告灯が点滅する

▼ 対処方法

新しい電池に交換してください。

（キーの電池交換→ 393 ページ）

知識

● 電子カードキーの電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも警告します。

ハンドルロック未完了警告

▼ 原因

● 運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にする

▼ 警告音

● 車内で「ピッピッピッ・・・」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法

運転席ドアを閉めてください。

キー無し警告

▼ 原因

●電子カードキーを携帯せずにエンジンスイッチを押した

▼ メーター表示

●キーフリー警告灯が点滅する

▼ 対処方法

●電子カードキーを携帯してエンジンスイッチを押してください。

●電子カードキーを携帯してエンジンスイッチを押しても、キーフリー警告灯が点滅する場合は、電子カードキーの電池が切れています。新しい電池と交換してください。
（一時的な対処として、電子カードキーをエンジンスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です）

（キーの電池交換→ 393 ページ）
（電子カードキーが使用できないとき→ 431 ページ）

キーフリーシステム異常警告

▼ 原因

●キーフリーシステムに異常がある

▼ メーター表示

●キーフリー警告灯が点灯する

▼ 対処方法

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

メーター表示

キーフリー警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチに関係なく、キーフリーシステムに異常があると点灯します。
- 下記の場合に点滅します。
  - 電子カードキーを携帯せずにエンジンスイッチを押したとき
  - エンジンスイッチが“ACC”または“ON”で、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき
  - 電子カードキーの電池切れが近い状態で、エンジンスイッチを“OFF”にしたとき（電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも点滅します）

（警告ブザー、メーター表示による警告 → 82 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ドア

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

知識

- ドアを解錠した直後にドアハンドルを引くと、ドアが開かないことがあります。その場合は、もう一度ドアを解錠し直してから、ドアハンドルを引いてください。

車を離れるときは

- キーは必ず運転者が携帯し、車内に置き忘れないようにしてください。
- ドアハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などを車の中に置いたままにしないでください。

車外からキーを使用した施錠・解錠

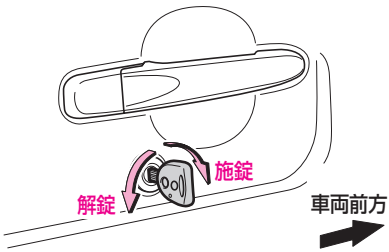
キー操作

知識

セキュリティアラームがセットされている場合

● キーを差して解錠しドアを開けると、セキュリティアラームが作動します。
アラームが作動した場合は、ただちに「セキュリティアラーム作動の停止方法」にしたがって、警報を停止させてください。

（セキュリティアラーム作動の停止方法→ 68 ページ）



▼ 操作方法

キーを確実に差し込み、

施錠：車両前方に回す

解錠：車両後方に回す

● 運転席ドアを施錠・解錠すると、すべてのドアが施錠・解錠されます。

知識

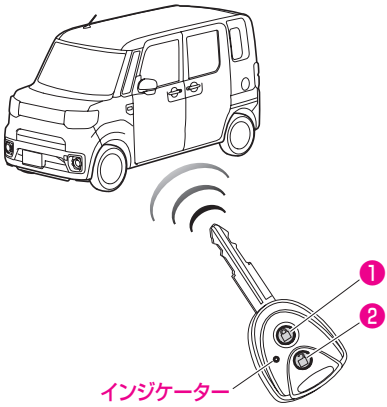
● キーは挿入口に確実に差し込んでください。

● キー挿入口は助手席側ドアには設定していません。

キーレスエントリーによる施錠・解錠

キーレスエントリー装着車

リモコン操作



▼ 操作方法

❶ スイッチを押すと、
すべてのドアが施錠される

❷ スイッチを押すと、
すべてのドアが解錠される

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

● キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれているとき

ドアの施錠ができない状況

● いずれかのドアが開いているとき

ドアのタイマーロック機能について

● ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

キーフリーシステムによる施錠・解錠

キーフリーシステム装着車

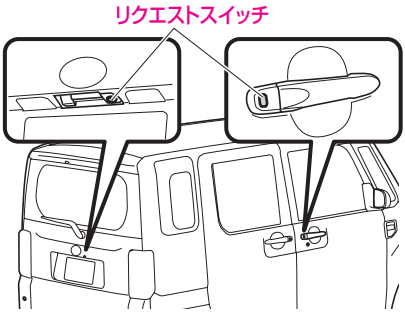
知識

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは

● エマージェンシーキーを使用して施錠・解錠します。

（電子カードキーが使用できないとき→ 431 ページ）

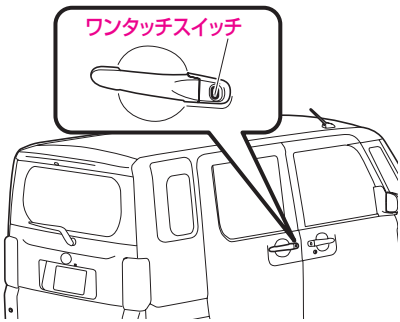
リクエストスイッチ・ワンタッチスイッチ操作



▼ リクエストスイッチの操作方法

1 電子カードキーを携帯する

2 フロントドア、バックドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドアが施錠・解錠される



▼ ワンタッチスイッチの操作方法

1 電子カードキーを携帯する

2 スライドドアのワンタッチスイッチを押すと、すべてのドアが解錠し、スライドドアが開く

（パワースライドドア→ 105 ページ）

⚠ 注意

● フロントドア、バックドアのリクエストスイッチ、およびスライドドアのワンタッチスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

知識

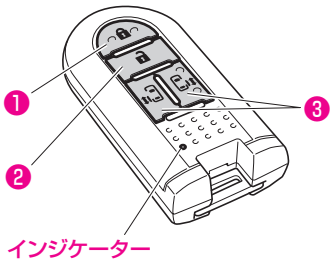
●ワンタッチスイッチでドアを施錠することはできません。

リクエストスイッチの取扱いについて

●リクエストスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。

●電子カードキーを携帯している人が作動範囲にいるときは、携帯していない人でも、同じ作動範囲のリクエストスイッチでの施錠・解錠が可能です。

リモコン操作



▼ 操作方法

❶ スイッチを押すと、
すべてのドアが施錠される

❷ スイッチを押すと、
すべてのドアが解錠される

❸ パワースライドドアの自動開閉を行う

（スライドドアのリモコン操作
→ 108 ページ）

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

●エンジンスイッチが“ACC”、または“ON”のとき

ドアの施錠ができない状況

●いずれかのドアが開いているとき（パワースライドドアの予約ロック使用時は除く）

（予約ロック機能 → 110 ページ）

ドアのタイマーロック機能について

●ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

車内からの施錠・解錠

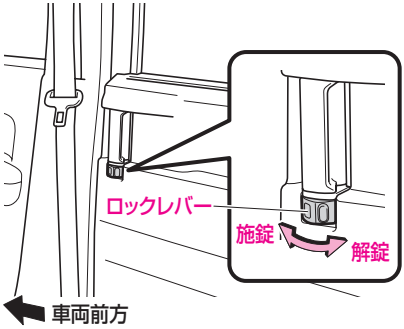
フロントドア

▼ 操作方法

施錠：ロックレバーを車両前方に押し込む

解錠：ロックレバーを車両後方に引く

スライドドア



▼ 操作方法

施錠：ロックレバーを車両前方に押し込む

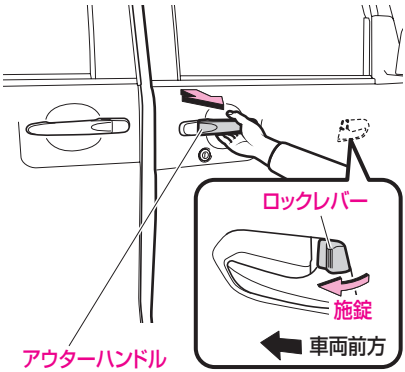
解錠：ロックレバーを車両後方に引く

車外からキーを使用しない施錠

知識

- キーを使用せずにドアを施錠するときは、キーを手に持っていることを確認してからドアを閉めてください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。

フロントドア

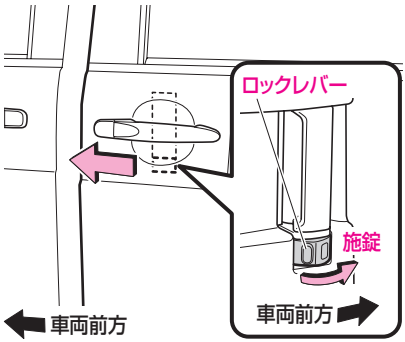


▼ 操作方法

1 ロックレバーを車両前方に押し込む

2 運転席ドア：アウターハンドルを引いたままドアを閉めると、施錠される
助手席ドア：ドアを閉めると、施錠される

スライドドア



▼ 操作方法

1 ロックレバーを車両前方に押し込む

2 ドアを閉めると、施錠される

ドアの施錠・解錠の合図（アンサーバック）

キーレスエントリー装着車

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を行うと、非常点滅灯の点滅でお知らせします。

施錠：1 回

解錠：2 回

キーフリーシステム装着車

キーフリーシステムによるドアの施錠・解錠を行うと、ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。

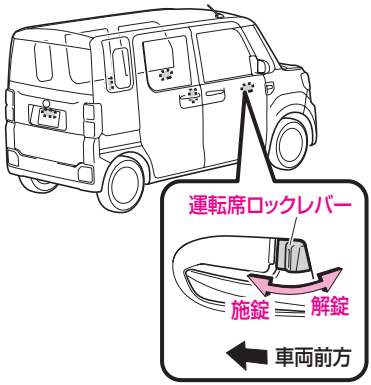
施錠：1 回

解錠：2 回

知識

- ドアの施錠・解錠と連動して、室内照明（スイッチが“DOOR”のとき）は点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 327 ページ）
- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間とブザーの音量を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

パワードアロック



運転席ドアを施錠・解錠すると、連動してすべてのドアが施錠・解錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。
以下の状態で作動します。

キーレスエントリー装着車

- キーがエンジンスイッチに差し込まれているとき

キーフリーシステム装着車

- エンジンスイッチが“ACC”か“ON”のとき、または車内に電子カードキーがあるとき

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのドアロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席アウターハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

知識

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

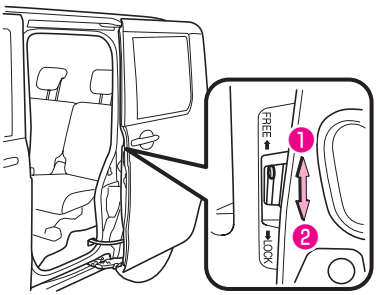
閉じ込み防止機能が作動しないおそれのある状況

キーフリーシステム装着車

- 電子カードキーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、施錠されることがあります。

チャイルドセーフティ

お子さまの安全のため、チャイルドセーフティを左右スライドドアに設けています。



▼ 操作方法

レバーを“LOCK”側にしておくと車内のドアハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。

❶ 解錠

❷ 施錠

ドアを開けるときは、車外のドアハンドルで操作します。

⚠ 注意

- お子さまを後部座席に乗せるときは必ずチャイルドセーフティを使用してください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両の電源が“ON”のとき、車両の前後方向から強い衝撃を受けて SRS エアバッグが作動すると、約 10 秒後に全てのドアが自動的に解錠されます。

● 側面から強い衝撃を受けて SRS サイドエアバッグが作動しても解錠されます。

知識

● 衝撃の加わりかたや大きさによっては、ドアロックを解除しない場合があります。

オートドアロック機能／アンロック機能

車両の状況に応じて、全てのドアを自動的にロック／アンロックする機能です。
以下の機能を設定・解除することができます。

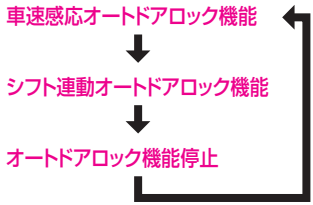
機能	作動内容
車速感応オートドアロック（初期設定）	車速が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトレバーを P レンジから動かすと全ドアが施錠されます。
オートドアロック機能停止	自動では施錠されません。
シフト操作連動アンロック（初期設定）	シフトレバーを P レンジに入れると全ドアが解錠されます。
エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック	エンジンスイッチを“ACC または“OFF”にすると全てのドアが解錠されます。
オートドアアンロック機能停止	自動では解錠されません。

知識

● オートドアロック機能で施錠された後に解錠すると、再度施錠はされません。
ただし、以下のいずれかの状態になると再作動します。
- 停車中にいずれかのドアを開けた
- エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にした
- オートドアアンロック機能で解錠された

オートドアロック機能の切り替え方法

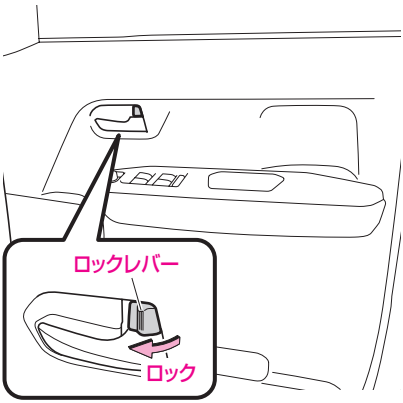
オートドアロック機能の切り替え操作を完了するごとに、次の順で設定を切り替えます。



▼ 切り替え操作の前に

車両を次の状態にしてください。

- 車幅灯を消灯する
- エンジンスイッチを“OFF”にする
- 全てのドアを閉める
- 運転席のドアロックレバーを“ロック”にする



▼ 切り替え方法

1. エンジンスイッチを“ACC”にする
2. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、車幅灯を点灯・再度消灯する
3. 消灯してから約5秒以内に、運転席のドアロックを“アンロック”にする

▼ 切り替え完了確認

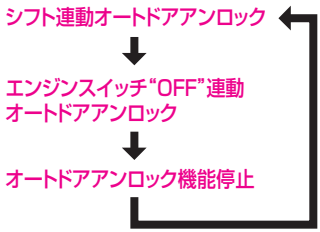
ドアロックを“アンロック”後、約 3 秒以内に全てのドアが“ロック”されます。

知識

- 操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。

オートドアアンロック機能の切り替え方法

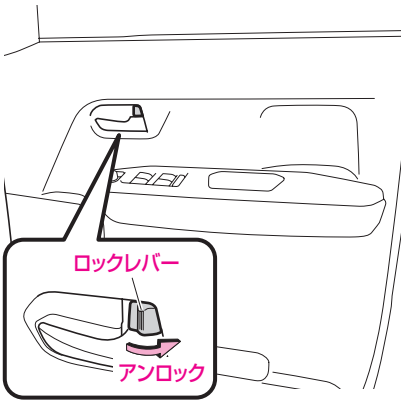
オートドアアンロック機能の切り替え操作を完了するごとに、次の順で設定を切り替えます。



▼ 切り替え操作の前に

車両を次の状態にしてください。

- 車幅灯を消灯する
- エンジンスイッチを“OFF”にする
- 全てのドアを閉める
- 運転席のドアロックレバーを“アンロック”にする



▼ 切り替え方法

1. エンジンスイッチを“ACC”にする
2. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、車幅灯を点灯・再度消灯する
3. 消灯してから約5秒以内に、運転席のドアロックを“ロック”する

▼ 切り替え完了確認

ドアロックを“ロック”後、約 3 秒以内に全てのドアが“アンロック”されます。

知識

- 操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。

スライドドア

⚠ 警告

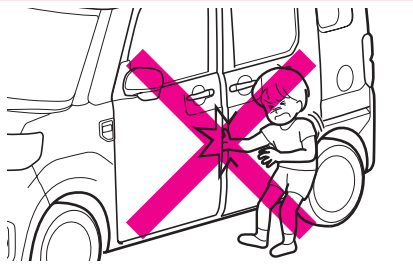
走行中の警告

● 走行中は次のことをお守りください。お守りいただかかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドセーフティを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

お子様を乗せているときは

● お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にドアが動き出したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあり危険です。



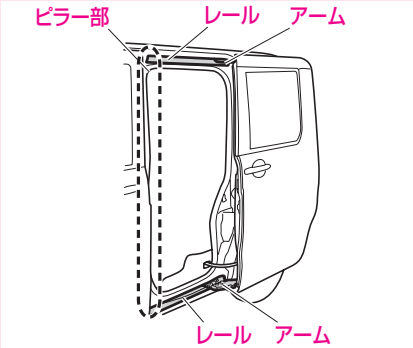
ドアを開閉するときは

● スライドドアを開閉するときは、以下のことをお守りください。ドアで手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

- スライドドア周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。

⚠ 警告

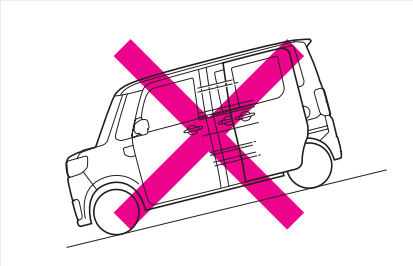
- スライドドアのレール、アーム、およびピラー部には手足をかけないでください。



- スライドドアのウインドガラスを開けたまま開閉するときは、ウインドから手足や顔を出さないでください。
- スライドドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。開け方が不完全で固定されていないと、不意に動き出すことがあり危険です。
- スライドドアを閉めるときは指などを挟まないよう、十分に注意してください。

傾斜地では

- 傾斜地でスライドドアを開閉するときは、下記のことをお守りください。ドアが不意に動き出すことがあり、手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - スライドドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。
  - スライドドアを開けたままにしないでください。

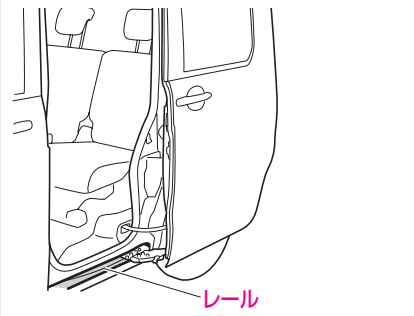


- 乗り降りの途中でドアハンドルを操作しないでください。
- スライドドアの開閉スピードが速くなりますので、注意してください。

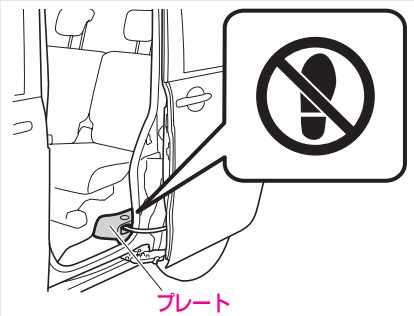
⚠ 注意

スライドドアについて

- スライドドアのリヤステップ下のレールに、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- 乗り降りするときは、リヤシート下のプレートを踏まないようにしてください。プレート下の配線類が損傷するおそれがあります。



知識

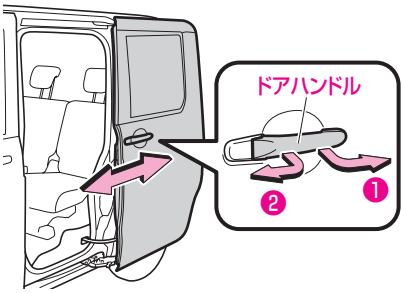
- フューエルリッドが開いている状態で、左側スライドドアを手動で開けると、途中でストッパーがかかり全開することができません。
- 途中でストッパーがかかった状態のスライドドアを全開にするときは、一度フューエルリッドを閉めたあと、再度スライドドアを開けてください。

スライドドアの施錠・解錠

（車外からキーを使用しない施錠→ 94 ページ）
（車内からの施錠・解錠→ 93 ページ）

スライドドアの開閉

車外からの開閉



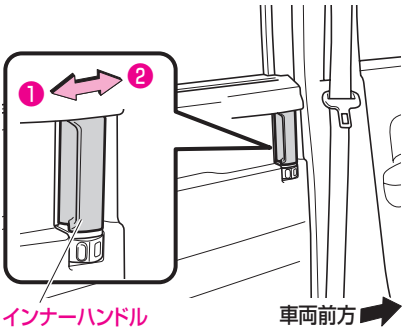
▼ 操作方法

❶ ドアハンドルを引いて開く

❷ ドアハンドルを引いて閉じる

- ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

車内からの開閉



▼ 操作方法

❶ インナーハンドルを引いて開く

❷ インナーハンドルを引いて閉じる

- ロックが解除するまで確実にインナーハンドルを引きます。

知識

- チャイルドセーフティが施錠状態になっているときは、インナーハンドルでスライドドアを開くことはできません。

イージークローザー

オプション／グレード別装備

スライドドアを閉めたとき、半ドア状態でも、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

⚠ 警告

- お子さまには、スライドドアの開閉操作をさせないでください。
- 半ドア状態のとき、スライドドアが自動的に閉まるため、同乗者など周囲の安全を十分に確認し、指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。特にお子さまには気をつけてください。
- パワースライドドアメインスイッチが“OFF”のときでも、イージークローザーは作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

⚠ 注意

- イージークローザー作動中は、ドアに無理な力をかけないでください。また、イージークローザーを繰り返し作動させないでください。無理な力をかけると、故障の原因になります。

知識

- イージークローザー作動中に車外または車内のドアハンドルを引くと、作動を停止することができます。
- ドアハンドルを引いたままスライドドアを閉めると、イージークローザーは作動しません。

パワースライドドア（ワンタッチオープン機能・予約ロック機能付）

オプション／グレード別装備

⚠ 警告

パワースライドドアについて

● スライドドアの警告および注意もお守りください。

（スライドドア→ 100 ページ）

● 乗降するときは、必ずパワースライドドアを全開にしてください。

● パワースライドドアが完全に閉まらない状態で走行しないでください。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドアハンドルやスイッチ操作により、スライドドアを完全に閉めてください。

● パワースライドドアを自動開閉するときは、下記のことをお守りください。ドアで手足や顔を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ドアを自動開閉するときは

- お子さまには、パワースライドドアの開閉操作をさせないでください。
- 自動開閉している間は、同乗者や荷物など周囲の安全を十分に確認して注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
- ブレーキを確実にかけて、車が完全に停止している状態で行ってください。
- 自動開閉中に警報ブザーが鳴りドアが途中で緊急停止したときは、周囲の安全を十分に確認して停止原因を解消し、すみやかに開閉操作をしてください。坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあります。
- エンジン停止中に、パワースライドドアを途中で停止させたまま放置しないでください。スイッチやドアハンドルの操作で途中停止した場合は、約 3 分後（挟み込みで停止した場合は約 30 分後）にブザーが鳴り、停止保持状態を解除して手動状態になるため、坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあります。

傾斜地では

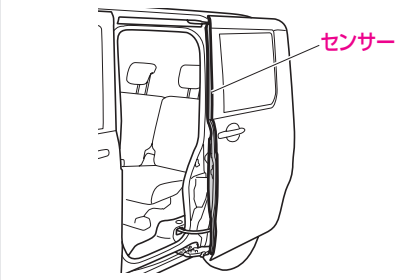
- パワースライドドアを開ける場合は、全開にして静止していることを確認してください。全開でないと、不意に動き出すおそれがあります。
- 急な傾斜地ではパワースライドドアを開閉しないでください。自動開閉を完了できずに途中で反転作動するおそれがあります。

タイヤ交換や洗車機を使用するときは

- パワースライドドアメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”にしていると、誤ってスライドドアハンドルやワンタッチスイッチなどに触れ、スライドドアが動き出すおそれがあります。

⚠ 注意

- スライドドアの側面部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、パワースライドドアはただちに停止します。



- エンジン停止時の自動開閉中に、エンジンを始動しないでください。パワースライドドアが正常に作動しなくなる場合があります。
- eco IDLE によるアイドリングストップ中にパワースライドドアを作動させると、エンジンが再始動することがあります。しっかりとブレーキを踏み続けてください。

（eco IDLE（エコアイドル）→ 279 ページ）

ドアが凍結しているときは

- パワースライドドアが開閉可能かを手動で確認してから自動開閉操作をしてください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因になります。

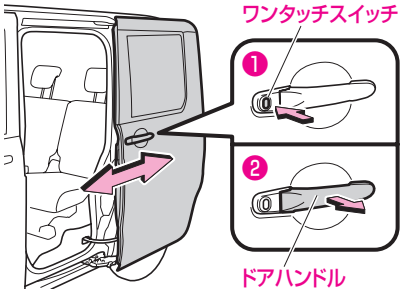
知識

- 車外または車内のドアハンドルによる自動開操作の際、ドアハンドル操作が不十分な場合にパワースライドドア後端付近で「ガコッ」と音がしてブザーが約 10 秒間鳴ることがありますが、故障ではありません。もう一度ドアハンドルを引くと、パワースライドドアが正常に作動します。

パワースライドドアの自動開閉

ワンタッチスイッチやドアハンドル、リモコンを使って開閉することができます。

車外のドアハンドルによる自動開閉



❶ワンタッチスイッチを押して開閉する

●ドア施錠時

電子カードキーを携帯し、キーフリーシステムの作動範囲内でワンタッチスイッチを押すとすべてのドアが解錠し、スライドドアが自動で開きます。

（作動範囲→ 80 ページ）

●ドア解錠時

電子カードキーを携帯していなくてもワンタッチスイッチを押すことでスライドドアを開けることができます。

❷ドアハンドルを引いて開閉する

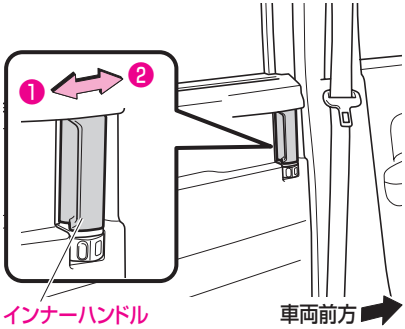
●ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

知識

● 自動開閉作動中にワンタッチスイッチ、またはドアハンドルを操作するとブザーが鳴り、作動が停止します。
もう一度ワンタッチスイッチ、またはドアハンドルを操作すると、スライドドアは反対方向に作動します。

● ワンタッチスイッチでドアを施錠することはできません。

車内のドアハンドルによる自動開閉



❶ 開く

❷ 閉じる

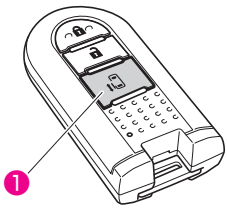
- ロックが解除するまで確実にインナーハンドルを引きます。

知識

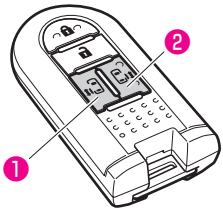
- チャイルドセーフティが施錠状態になっているときは、インナーハンドルでスライドドアを開くことはできません。
- 自動開閉作動中にドアハンドルを操作するとブザーが鳴り、作動が停止します。

リモコン操作による自動開閉

左側パワースライドドア装着車



両側パワースライドドア装着車



❶ 左側パワースライドドアを開閉する

❷ 右側パワースライドドアを開閉する

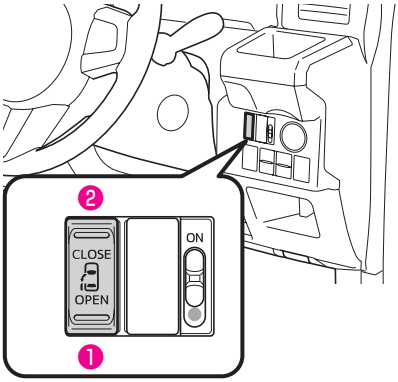
- スイッチを長押しします。

知識

- 自動開閉作動中にスイッチを押すとブザーが鳴り、作動が停止します。
  もう一度スイッチを長押しすると、スライドドアが全開します。
- パワースライドドアが途中まで開いた状態から閉じる場合は、ドアを全開にした後にスイッチを長押ししてください。

パワースライドドアスイッチによる自動開閉

左側パワースライドドア装着車



❶ 開ける（左側）

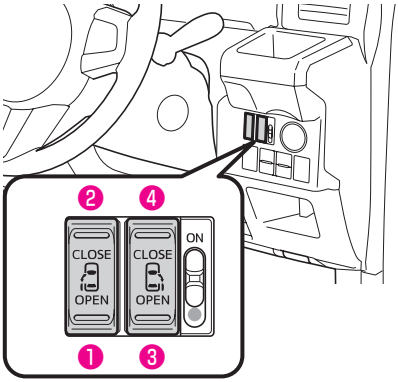
❷ 閉じる（左側）

❸ 開ける（右側）

❹ 閉じる（右側）

● スイッチを長押しします。

両側パワースライドドア装着車



知識

● 自動開閉作動中に再度スイッチを押すとブザーが鳴り、作動が停止します。

● スイッチを押している時間が短いと自動開閉できません。

● パワースライドドアメインスイッチが“OFF”のときにパワースライドドアスイッチを押すと、ブザーが“ピピッ”と鳴り、パワースライドドアが作動しないことをお知らせします。

（パワースライドドアメインスイッチ→ 111 ページ）

予約ロック機能

スライドドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、スライドドア以外のすべてのドアが施錠され、スライドドアが閉まると同時にスライドドアも施錠されます。

▼ 予約ロック方法

1 スライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 スライドドアの自動閉作動中に、電子カードキーで施錠操作を行う

- アンサーバックでお知らせします。（ブザーと非常点滅灯の点滅が 1 回）

（リモコン操作→ 92 ページ）

3 スライドドアが閉まると同時に施錠される

- アンサーバックでお知らせして、予約ロックが完了します。（ブザーと非常点滅灯の点滅が 1 回）

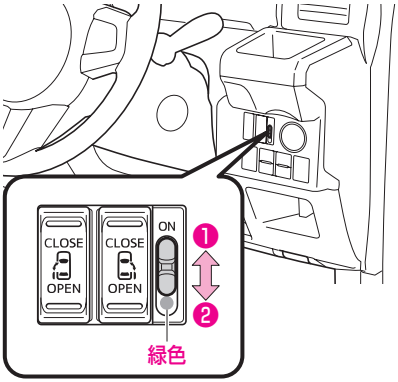
知識

- 予約ロックをしてスライドドアが自動閉作動中に、キーフリーシステムで解錠したり、挟み込み防止機能が働くなどの停止操作が行われたりすると、予約ロック機能を解除してすべてのドアが解錠されます。
  - アンサーバックでお知らせします。（ブザーと非常点滅灯の点滅が 2 回）
- 予約ロックをしてスライドドアが自動閉作動中に、運転席側ドアのロックレバーを解錠方向へ操作したり、エンジンスイッチを“ACC”にしたりすると、予約ロック機能を解除してすべてのドアが解錠されます。
  - アンサーバックのお知らせはありません。
- 予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子カードキーを車内に戻すと、車内に電子カードキーが閉じ込められることがあります。予約ロック機能を使用するときは、必ず電子カードキーを携帯した状態で行ってください。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。
- ドアのリクエストスイッチでは、予約ロックはできません。

パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを“ON”にします。

パワースライドドアメインスイッチ



❶ ON

- “ON”にすると、スイッチ下部に緑色のマークが表れます。

❷ OFF

パワースライドドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。
- パワースライドドアメインスイッチが“OFF”のときは、パワースライドドアは作動しませんが、車外または車内のドアハンドルにて手動で開閉できます。
- パワースライドドアメインスイッチが“OFF”のときでもイージークローザーは作動します。

パワースライドドア作動条件

パワースライドドアは、エンジンスイッチの位置に関係なく作動します。

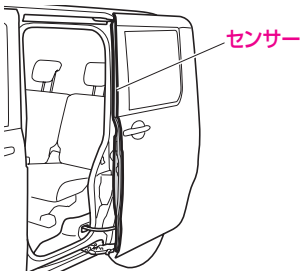
以下の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースライドドアメインスイッチが“ON”の状態
- フューエルリッドが閉まっているとき（左側パワースライドドア開閉時）
- エンジンスイッチが“ON”のときは、車速が約 3km/h 以下で、次のいずれかの条件を満たしているとき
  - シフトレバーが Ⓟ レンジの位置
  - 駐車ブレーキがかかっている
  - ブレーキペダルを踏んでいる

知識

- スライドドアが施錠された状態で、ワンタッチスイッチ以外の操作をしたときは、自動開作動ができません。自動開作動の前に解錠してください。
- ワンタッチスイッチは、解錠してドアを開くことはできますが、施錠することはできません。
- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときは、電子カードキーによる自動開閉はできません。
- パワースライドドアメインスイッチが“ON”のとき、作動条件を満たしていない状態でパワースライドドアのドアハンドルを引いて手動で開けると、警報ブザーが鳴ります。その際、スライドドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- 自動開閉中に作動条件を満たさなくなると、警報ブザーが鳴ることがあります。
- 下記のようなときは、パワースライドドアが作動しない場合があります。
  - バッテリーの電圧が低下しているとき
  - 坂道などの傾斜地で駐車しているとき
- 以下の状態でワンタッチスイッチにバッグなどが当ってしまうと、スライドドアが自動で開くことがあります。
  - 施錠状態で電子カードキーを携帯しているとき
  - 解錠状態のとき

挟み込み防止機構



パワースライドドアの自動開閉作動中に、挟み込みを検知したドアを少し反転作動した後に途中で停止させる機構です。

次のような場合に作動します。

- 自動で閉めているときに、パワースライドドアの前端部にあるセンサーが、異物などの挟み込みを検知したとき
- 自動開閉中に異物を挟み込むなどして、ドアに一定以上の負荷がかかったとき

⚠ 警告

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- パワースライドドアが自動開閉している間は、同乗者など周囲の安全を十分に確認し、手・頭・首などを挟まないように十分に注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
  - 全開直前または全閉直前の位置では、挟み込み防止機構が作動しない領域があります。
  - 挟まれる異物の形状、硬さ、挟まれ方によっては、異物を検知できずに挟み込み防止機構が作動しないことがあります。

知識

- センサーに手などを強く触れたままにしていると、自動閉作動ができません。
- 挟み込みを検知してスライドドアが途中で停止しているときは、電子カードキーのリモコン操作による自動開閉ができません。
- 挟み込みを検知したドアが反転作動している間に再度挟み込みを検知すると、即停止します。

▼ 自動開閉ができないときは

停止したパワースライドドアのドアハンドルを引いて、全閉にしてください。

知識

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

初期設定

パワースライドドアが全閉していない時に、ヒューズ切れやバッテリーあがりが起きたときは、パワースライドドアの初期設定をしてください。

▼ 初期設定のしかた

パワースライドドアのドアハンドルを引いて全閉にすると、初期設定が完了します。

知識

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- パワースライドドアが初期設定されていないと、下記の機能が作動しません。
  - パワースライドドアの自動開閉
  - 挟み込み防止機構

自動開閉中の緊急停止について

以下のような状態になると、警報ブザーが鳴り、ドアが途中で緊急停止します。

- パワースライドドアメインスイッチを“OFF”にした
- フューエルリッドを開いた（左側パワースライドドア開閉時）
- 自動開作動中に車速が約3km/h 以上になった

▼ 緊急停止後に自動開閉を再開するには

停止したパワースライドドアのドアハンドルを引いて、全閉にしてください。

⚠ 警告

- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを“OFF”にしたり、フューエルリッドを開いたりしたときやセンサーなどが故障したときは、警報ブザーが鳴り、スライドドアが途中で緊急停止して、約 3 秒間停止を継続します。その後、坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して停止原因を解消して、すみやかに開閉操作をしてください。
- 自動開作動中に車速が約3km/h 以上になったときは、警報ブザーが鳴り、ドアが途中で緊急停止して、そのまま停止し続けます。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドアハンドルやスイッチ操作により、スライドドアを完全に閉めてください。

知識

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

バックドア

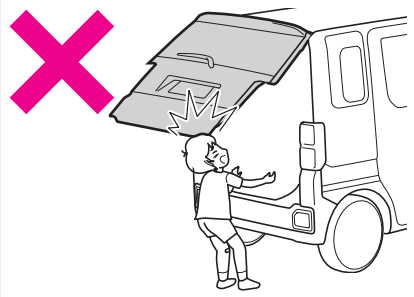
⚠ 警告

走行するときは

- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 走行前はバックドアを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはバックドアの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。

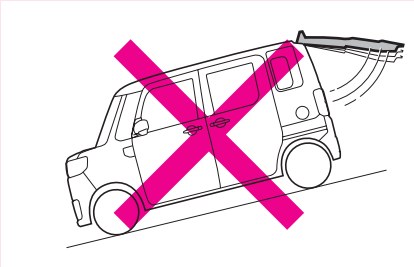


- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。

⚠ 警告

バックドアを開閉するときは

- バックドアの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。ドアで頭をぶつけたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - バックドア周辺の安全を十分確認してください。
  - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - バックドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
  - バックドアは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
  - バックドアを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもバックドアが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。



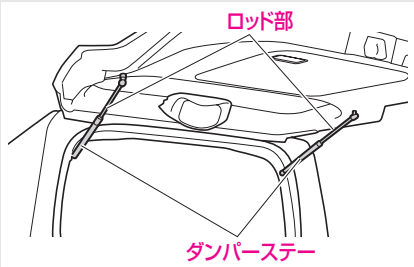
- バックドアを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- バックドアを支えているダンパーステーを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりするおそれがあります。
- バックドアにダイハツ純正用品以外のアクセサリーを取り付けないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

⚠ 注意

ダンパーステーについて

● バックドアには、ドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。

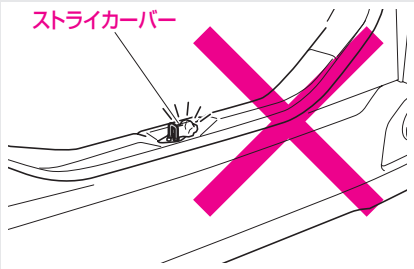
- ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。



- 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

ストライカーバーについて

● バックドアを閉めるときはストライカーバーに異物がかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



バックドアの施錠／解錠

以下の方法で施錠・解錠ができます。

●キーレスエントリー

（キーレスエントリーによる施錠・解錠→ 90 ページ）

●キーフリーシステム

（キーフリーシステムによる施錠・解錠→ 91 ページ）

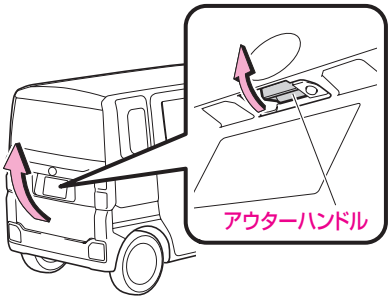
●キー

（車外からキーを使用した施錠・解錠→ 89 ページ）

●パワードアロック

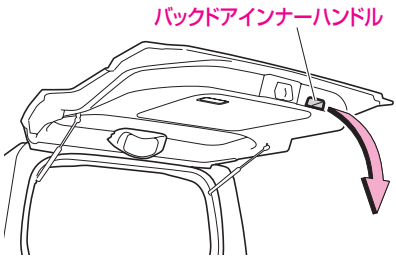
（パワードアロック→ 95 ページ）

バックドアを開けるときは



アウターハンドルを引いて、バックドアをゆっくりといっぱいまで持ち上げる

バックドアを閉めるときは



1 バックドアインナーハンドルを持ってバックドアを途中までゆっくりと下げる

2 ハンドルから手を離して、バックドアを上から手で押さえつけるように閉める

3 半ドアでないことを確認する

⚠ 注意

●バックドアインナーハンドルで直接バックドアを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。バックドアは、必ず外から押して閉めてください。

パワーウインド

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- パワーウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワーウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

⚠ 注意

故障を防ぐために

- 以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。
  - 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさない
  - ドアガラスを完全に開閉した状態でウインドスイッチを押し続けない
  - ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドスイッチの“開”または“閉”を連続操作しない

バッテリーあがりを防ぐために

- パワーウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。

知識

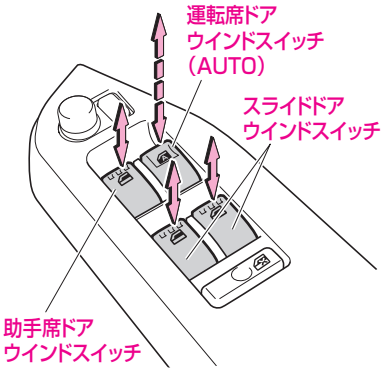
- エンジンスイッチを“ON”にすると、運転席ドア側ウインドスイッチの照明が点灯します。

パワーウインドモーターの過熱保護機能について

- パワーウインドモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

運転席ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチでドアガラスを開閉できます。



▼ 閉じかた

●スイッチを軽く引き上げる

▼ 開きかた

●スイッチを軽く押し下げる

運転席ドアウインドスイッチ（AUTO）操作

▼ 自動全閉

●スイッチを「カチッ」と音がするまで引き上げる

▼ 自動全開

●スイッチを「カチッ」と音がするまで押し下げる

▼ 途中で止めるときは

●スイッチを軽く逆方向に操作する

運転席ドアガラス挟み込み防止機能

運転席ドアガラスを AUTO 操作で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動的に下降します。

知識

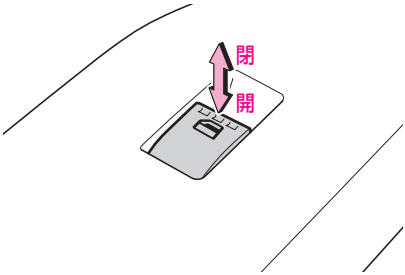
- 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がドアガラスに加わると、挟み込み防止機能が作動することがあります。

エンジンスイッチ“OFF”後の作動機能

エンジンスイッチを“OFF”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ドアガラスを開閉できます。

助手席ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチで助手席ドアガラスを開閉できます。



▼ 閉じかた

● スイッチを引き上げる

▼ 開きかた

● スイッチを押し下げる

スライドドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチでスライドドアガラスを開閉できます。

▼ 閉じかた

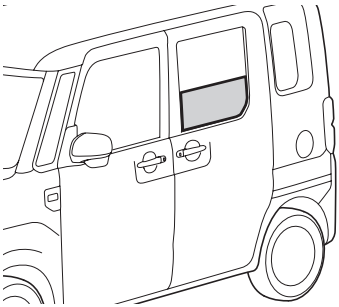
● スイッチの上側を押す

▼ 開きかた

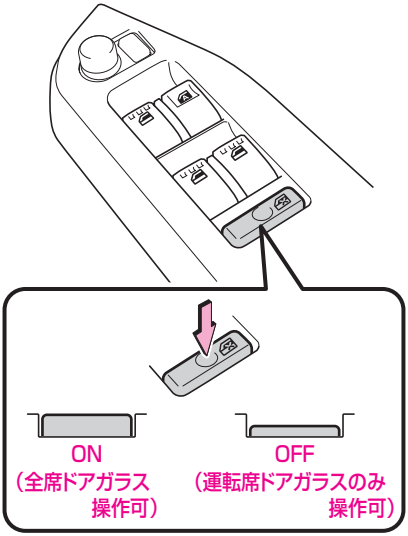
● スイッチの下側を押す

知識

● 左右スライドドアのドアガラスは全開になりません。



パワーウインド OFF スイッチ



スイッチを押し込むと“OFF”になり、運転席ドアガラス以外のすべてのドアガラスは開閉ができなくなります。

スイッチをもう一度押すと解除されます。

パワーウインドの取扱い

運転席ドアガラスが全閉しないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドスイッチで、下記の操作を行ってください。

1 車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドスイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする

3 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 6 秒間スイッチを上に引き続ける

● 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。

● 上記の操作を行っても運転席ドアガラスが全閉しない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

パワーウインドの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドの初期設定をしてください。
初期設定しないと、下記の機能は作動しません。

● 運転席ドアガラスの

- 自動開閉機能
- 挟み込み防止機能
- エンジンスイッチ“OFF”後の作動

1 エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドスイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする

3 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約2秒間スイッチを上に引き続ける

● 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。

給油のしかた

▼ 給油をする前に

⚠ 警告

- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - 車のドア、窓は閉めてください。
  - タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
  - フューエルキャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
  - フューエルキャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
  - 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
  - フューエルキャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
  - フューエルキャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
  - 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
  - こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
  - 給油口にほかの人を近付けないでください。
  - 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
  - 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
  - 給油終了後、フューエルキャップを閉めるときは「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
  - ダイハツ純正フューエルキャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
  - その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠ 注意

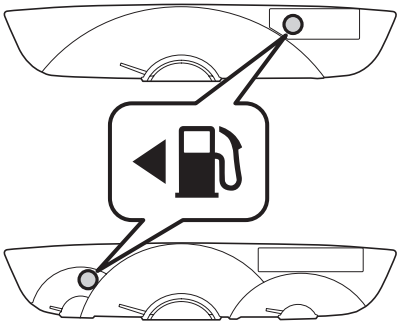
- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンです。
  - 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
  - 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

フューエルリッドの開閉

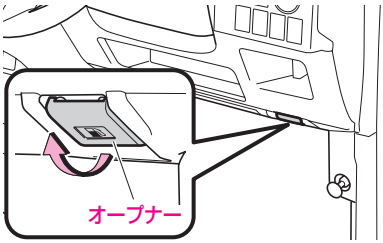
⚠ 注意

- 左側スライドドアが全開、またはフューエルリッド付近まで開いているときに、フューエルリッドを開けないでください。左側スライドドア、またはフューエルリッドが破損するおそれがあります。

▼ フューエルリッドの位置



メーター内にフューエルリッドの車両取り付け方向を示しています。



▼ 開けかた

インストルメントパネルの右下にあるオープナーを引き上げる

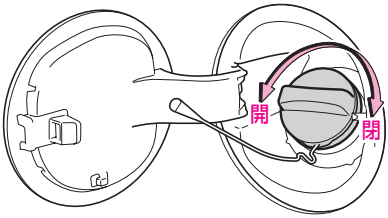
▼ 閉めかた

リッドを押して閉める

📖 知識

- フューエルリッドが開いている状態で、左側スライドドアを手動で開けると、途中でストッパーがかかり全開することができません。
- フューエルリッドが開いている状態で、左側スライドドアを自動（パワースライドドア）で開けることはできません。
- パワースライドドアの自動開閉中に、フューエルリッドを開けると、ブザーが鳴り、左側スライドドアの作動を停止します。

フューエルキャップの開閉



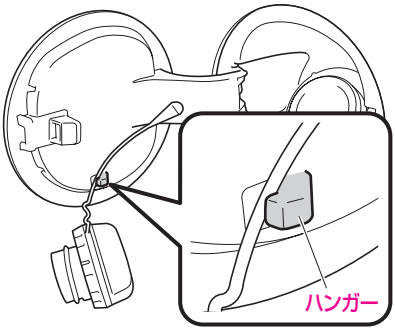
▼ 開けかた

左に回す

▼ 閉めかた

「カチッ」という音が一度するまで、右に回す

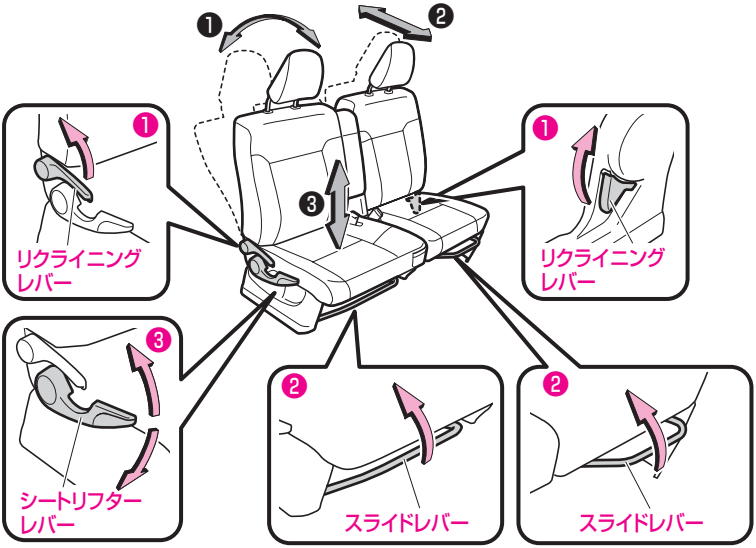
▼ 給油するときは



外したフューエルキャップをフューエルリッド裏面のハンガーにかけることができます。

車体各部の調整

フロントシート



❶ リクライニング操作

●レバーを引き上げながら背もたれ角度を調整します。

❷ スライド操作

●レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

❸ 運転席シートリフター操作

オプション／グレード別装備

●レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇します。

●レバーを押し下げるごとにシート全体が下降します。

⚠ 警告

● シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートを調整するときは

● 次のことを守ってください。
守らないと、けがをしたり、シートが破損したりするおそれがあります。
- 手足を挟んだり、体にあたらないように十分注意する
- シートの下や動いている部分に手足を近付けない
- 同乗者や物に当てない

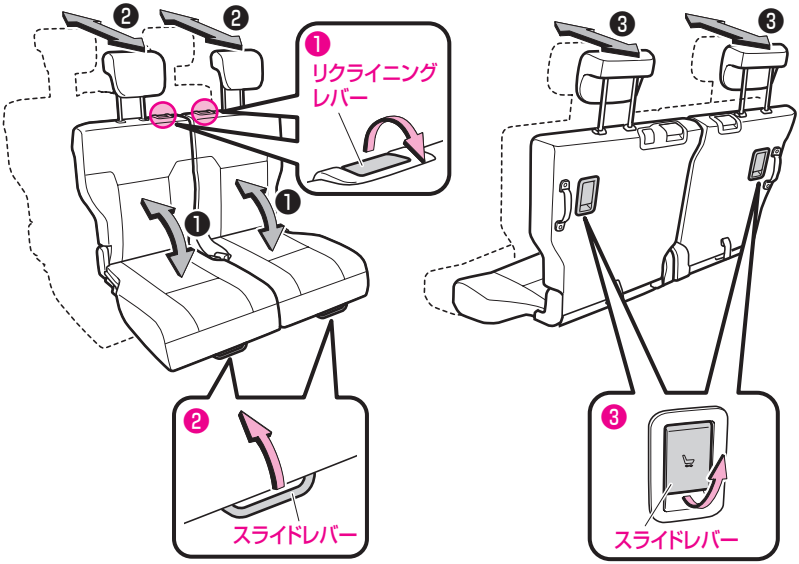
● 運転席と助手席の位置関係によっては、シート操作をしたときにアームレストが干渉して、シートが損傷するおそれがあります。

背もたれを調整するときは

● リクライニングレバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

● 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

リヤシート



❶ リクライニング操作

●レバーを引き上げながら背もたれ角度を調整します。

❷ スライド操作

●レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

❸ ラゲージルームからのスライド操作

●背もたれ裏側のレバーを引き上げながら背もたれを持って、前後にシートをスライドします。

⚠ 注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はシートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。
- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

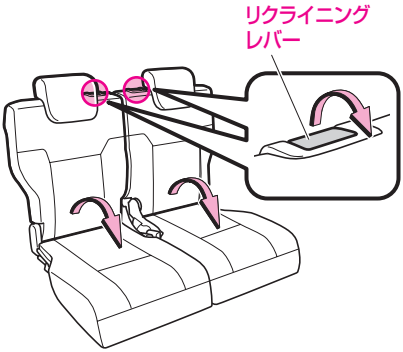
背もたれを調整するときは

- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

ラゲージルーム側からスライド調整するときは

- リヤシートに同乗者がいない状態で調整してください。

前倒しのしかた



1 ヘッドレストを一番下まで下げる

（リヤヘッドレスト→ 134 ページ）

2 レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

- 戻すときはリクライニングレバーを引きながら背もたれを起こし、固定してください。

⚠ 警告

背もたれを前倒しするとき

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

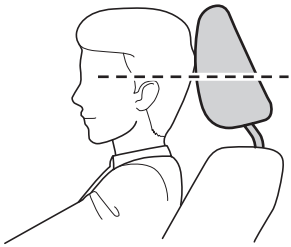
背もたれを元の位置に戻したあとは

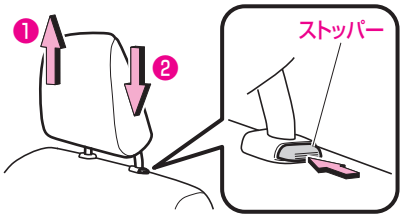
- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。

ヘッドレスト

フロントヘッドレスト

ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるようにヘッドレストの高さを調整します。





▼ 上下調整

❶ 上げる

❷ 下げる

- 下げるときは、ストッパーを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

ストッパーを押しながらヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

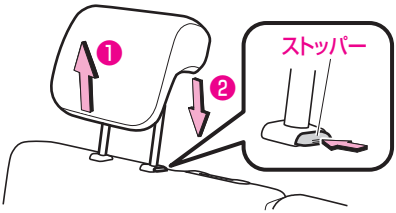
知識

ヘッドレストを調整したあとは

- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

リヤヘッドレスト

使用するときは、常に上げた位置にしてください。



▼ 上下調整

❶ 上げる

❷ 下げる

- 下げるときは、ストッパーを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

ストッパーを押しながらヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- リヤシートに人を乗せるときは、ヘッドレストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

ヘッドレストを調整したあとは

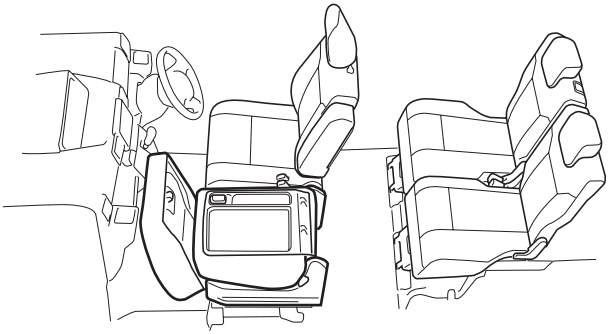
- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

シートアレンジ

テーブルモード

助手席の背もたれを前に倒して、テーブルにする。

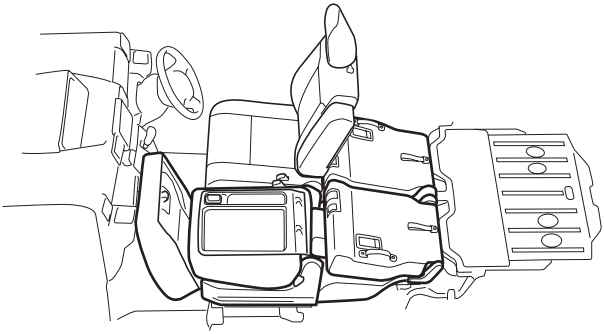
（テーブルモードにするには→ 137 ページ）



フラットラゲージモード

リヤシートを格納したあと、助手席をテーブルモードにする。

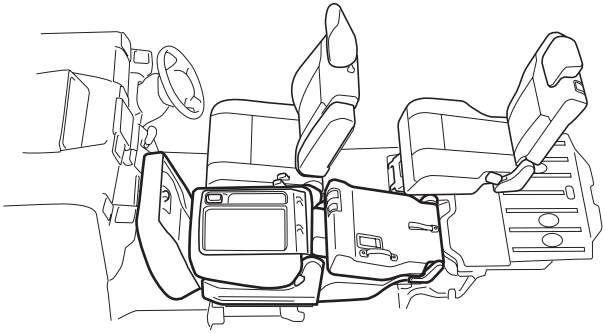
（フラットラゲージモード / ロングラゲージモードにするには→ 138 ページ）



ロングラゲージモード

助手席側のリヤシートを格納したあと、助手席をテーブルモードにする。

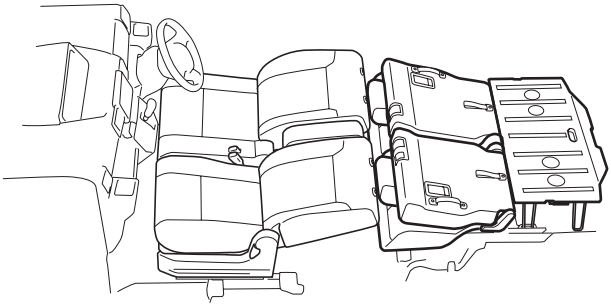
（フラットラゲージモード / ロングラゲージモードにするには→ 138 ページ）



フルフラットモード *

デッキボードの脚を立ててリヤシートの背もたれを前に倒したあと、フロントシートの背もたれを後ろに倒す。

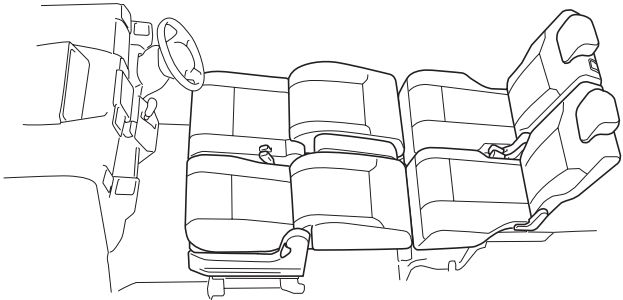
（フルフラットモードにするには→ 139 ページ）



ロングソファーモード

フロントシートの背もたれを後ろに倒して、フラットにする。

（ロングソファーモードにするには→ 140 ページ）



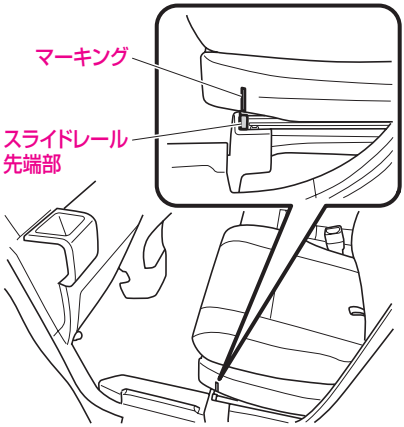
* 上下 2 段調節式デッキボードが必要です。

テーブルモードにするには

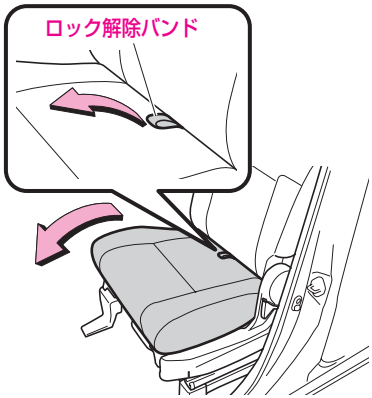
▼ 操作方法

1 助手席シートをスライドする

●シート下部のマーキングをスライドレール先端部に合わせます。



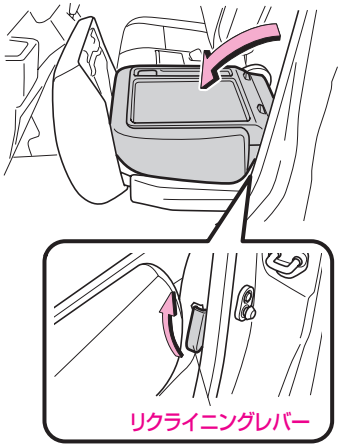
2 ロック解除バンドを引いて、シートクッションを起こす



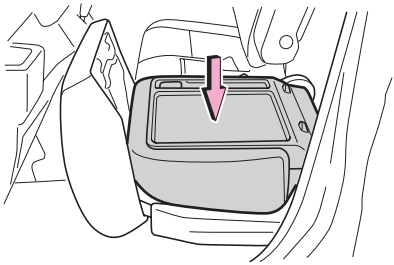
3 ヘッドレストを取り外す

（フロントヘッドレスト→ 133 ページ）

4 リクライニングレバーを引いて、背もたれを前に倒す



5 背もたれを上から押して固定する



▼ 元に戻すときは

1 リクライニングレバーを引いて、背もたれを固定される位置まで引き上げる

2 シートクッションを上から押して固定する

3 ヘッドレストを取り付ける

フラットラゲージモード / ロングラゲージモードにするには

▼ 操作方法

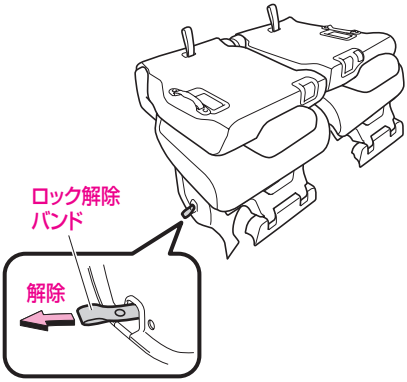
1 フロントシートを前方いっぱいまでスライドする

2 リヤシートを後方いっぱいまでスライドする
- デッキボードが上段モードになっているときは、たたんでからスライドします。

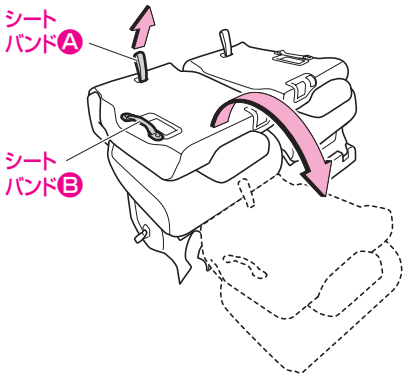
3 リヤシートのヘッドレストを一番下まで下げる

4 リヤシートの背もたれを前に倒す
（前倒しのしかた→ 132 ページ）

5 ロック解除バンドを引いて、ロックを解除する



6 リヤシート前方から、シートバンドⒶⒷ両方を持ってシートを持ち上げ、車両前方に格納する



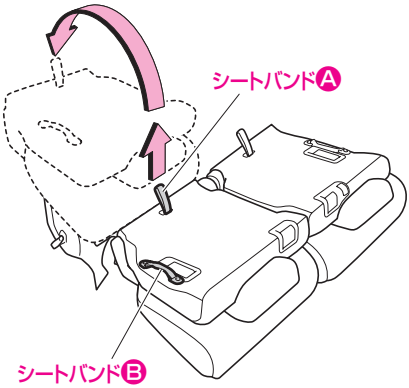
7 助手席シートをテーブルモードにする
（テーブルモードにするには
→ 137 ページ）

▼ 元に戻すときは

1 助手席シートを元に戻す
（テーブルモードにするには
→ 137 ページ）

2 フロントシートを前方いっぱいまでスライドする

3 リヤシート前方から、シートバンドⒶⒷ両方を持ってシートを持ち上げ、後方へ戻す



4 上から押して、リヤシートを固定する

5 リヤシートの背もたれを固定される位置まで起こす
（前倒しのしかた→ 132 ページ）

フルフラットモードにするには

▼ 操作方法

1 バックドアを開ける

（バックドア→ 116 ページ）

2 デッキボードを上段モードにする

（デッキボードを上段モードにするには
→ 341 ページ）

3 リヤシートの背もたれを前に倒す

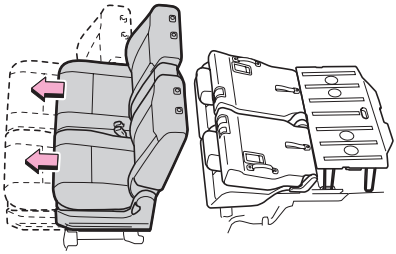
（前倒しのしかた→ 132 ページ）

4 フロントヘッドレストを取り外して、アームレストを起こす

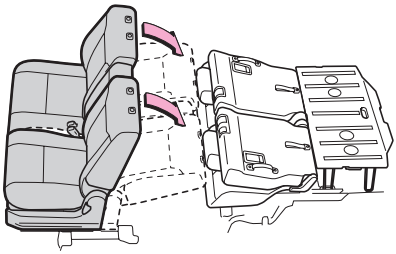
（ヘッドレスト→ 133 ページ）
（アームレスト→ 329 ページ）

5 フロントシートを前方いっぱいまでスライドする

（フロントシート→ 128 ページ）



6 フロントシートの背もたれを後ろに倒す



▼ 元に戻すときは

逆の手順で操作してください。

ロングソファーモードにするには

▼ 操作方法

1 リヤシートを後方いっぱいまでスライドして、リヤシートの背もたれを後ろに倒す

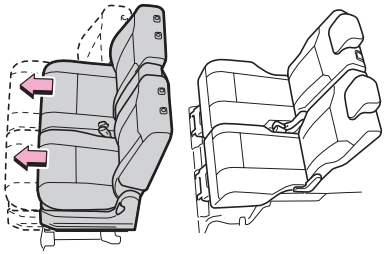
（リヤシート→ 130 ページ）

2 フロントヘッドレストを取り外して、アームレストを起こす

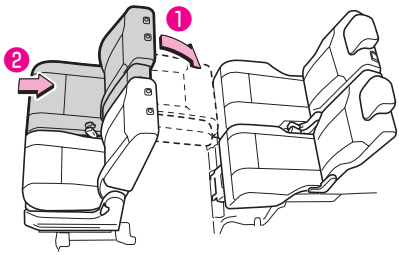
（ヘッドレスト→ 133 ページ）
（アームレスト→ 329 ページ）

3 運転席シートと助手席シートを前方いっぱいまでスライドする

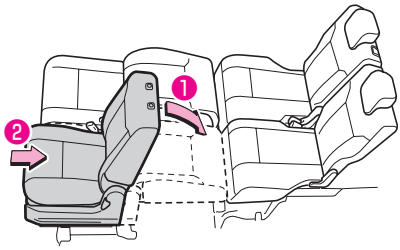
（フロントシート→ 128 ページ）



4 運転席の背もたれを後ろに倒したあと（❶）、リヤシートに接触するまで後方へスライドする（❷）

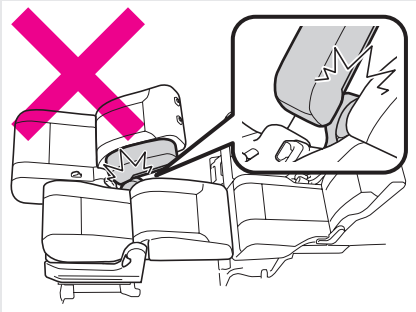


5 助手席の背もたれを後ろに倒したあと（❶）、リヤシートに接触するまで後方へスライドする（❷）



⚠ 注意

● 助手席を先に後方へスライドしないでください。運転席の背もたれを倒したときに、アームレストが干渉して損傷するおそれがあります。



▼ 元に戻すときは

逆の手順で操作してください。

⚠ 警告

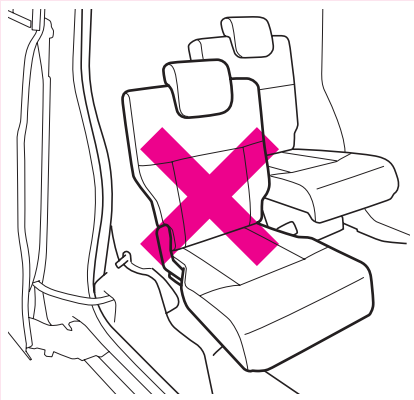
シートアレンジについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーを Ⓟ レンジに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

背もたれの前倒しについて（リヤシート）

- 倒した背もたれの上に人をのせて走行しないでください。
  ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 背もたれだけを元に戻して、人を乗せないでください。リヤシートが固定されていないため、走行中にシートが動き思わぬ事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



テーブルモードについて

- 走行中はテーブルとして使用しないでください。
  急ブレーキをかけたときに置いている物が落ち、思わぬ事故につながったり、熱い飲み物がこぼれるとやけどをするおそれがあります。

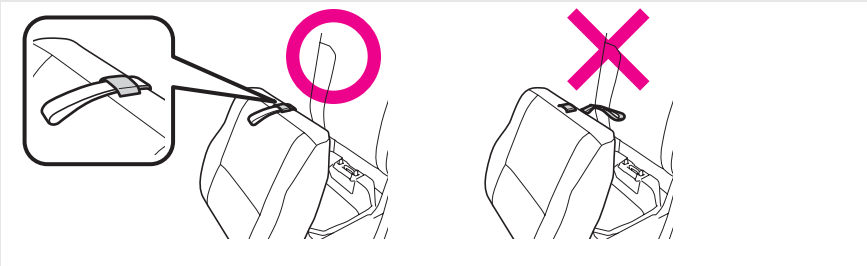
⚠ 注意

シートアレンジについて

- 操作をするときには、可動部や結合部などに手や足などを挟まないように注意してください。
- 背もたれを倒すときは、背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれを戻すときは、背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。
- 倒した背もたれの上には乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。
- シートに人が乗っている状態でシート操作をしないでください。
- 運転席と助手席の位置関係によっては、シート操作をしたときにアームレストが干渉して、シートが損傷するおそれがあります。

テーブルモードについて

- テーブルの上には絶対に乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。
- シートクッションを戻すときは、ロック解除バンドが前方に垂れ下がっていることを確認してください。ロック解除バンドが後方に垂れ下がった状態でシートクッションを元に戻すとロックが破損してシートクッションが固定されないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

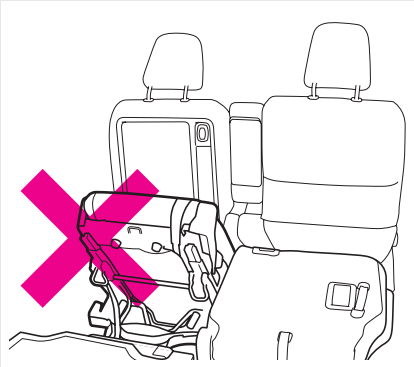


- 運転席シートは無理に前倒ししないでください。前倒しできる機構ではないため、シートが破損するおそれがあります。
- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。

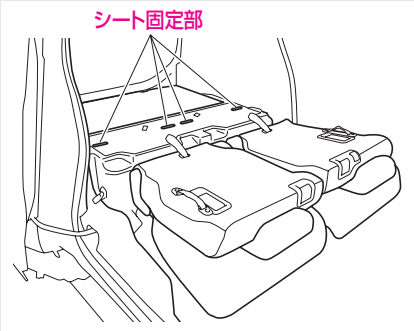
⚠ 注意

フルラゲージモード、ロングラゲージモードについて

- リヤシートの格納操作をするときは前（リヤシート）側から行ってください。 後ろ（ラゲージルーム）側から操作すると、体がシートの重みで前方に引っぱられ、けがをするおそれがあります。
- リヤシートを格納しているときにフロントシートのスライド位置を調整するときは、リヤシートに当たるため一番後ろ側まで調整することができません。
  また、フロントシートを後ろ側へ調整させて背もたれを倒しすぎると、シートが破損するおそれがあります。
- リヤシートは立てた状態にしないでください。リヤシートが固定されていないためシートが急に倒れたり、シートクッション下の部品でけがをしたりするおそれがあります。



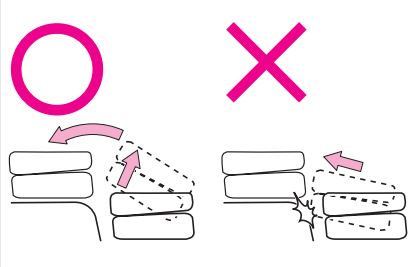
- リヤシートを戻す前に、フロアのシート固定部に異物が入っていないことを確認してください。異物が入っていると、ロックができなかったり、ロック機構が損傷したりするおそれがあります。
- リヤシートを戻すときは、シート固定部付近に荷物などがないことを確認してください。リヤシートを戻す際に荷物が破損するおそれがあります。



⚠ 注意

フルラゲージモード、ロングラゲージモードについて

- リヤシートを元に戻すときは、必ず前（リヤシート）側からシートバンドを上方に引き上げて、元の位置に戻してください。後ろ（ラゲージルーム）側からシートバンドを後方に引き上げると、リヤシートと車体が干渉し車両を損傷するおそれがあります。



- リヤシートを格納または元に戻すときは、シートクッション下を持たないでください。シートクッション下の部品でけがをするおそれがあります。
- リヤシートを格納するときは、リヤシートを後方いっぱいまでスライドしてから格納してください。リヤシートの位置が前方にあると、シートが干渉して破損するおそれがあります。

ロングソファーモードについて

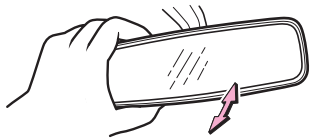
- 安全な場所に車を止めて、休息するときに使用してください。
- シートの上を走り回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

フルフラットモード、ロングソファーモードについて

- 人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

ルームミラー

角度調整のしかた



ルームミラー全体を持って、角度を調整する

⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

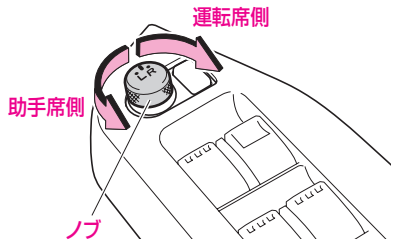
ドアミラー

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにミラーの角度調整と格納することができます。

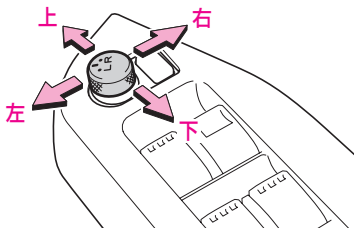
⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。

鏡面の角度調整のしかた



1 ノブを調整したい側にまわす



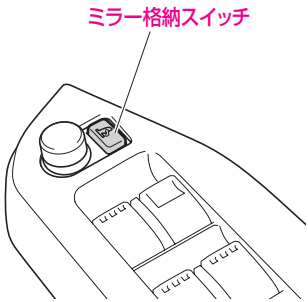
2 ノブを動かして、ミラーの角度を調整する

知識

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 中立（中央）の位置にすると調整操作ができません。

ドアミラーの格納・復帰のしかた

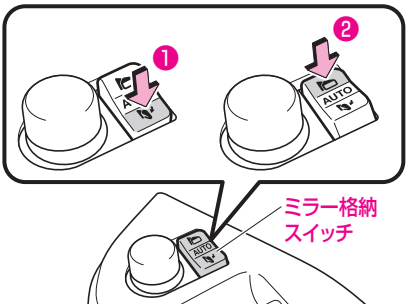
キーレスエントリー装着車



- ミラー格納スイッチを押して格納する
- スイッチをもう一度押すと復帰する

キーフリーシステム装着車

▼ マニュアル作動



ミラー格納スイッチを押す

❶格納
❷復帰

▼ オート作動

キーフリーシステムによるドアの施錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納します。

● 格納のしかた

1 ミラー格納スイッチを“AUTO”（中立）の位置にする

2 リクエストスイッチ操作、または電子カードキーのリモコン操作でドアを施錠する

● 復帰のしかた

エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にする

⚠ 注意

● ミラーを復帰するときは、ドアミラー周辺に障害物がないことを確認してください。ドアミラーが当たり、破損するおそれがあります。

知識

● ドアミラーを自動で格納（または復帰）させたくないときは、ミラー格納スイッチを復帰側（または格納側）の位置にしてください。
● 以下の作動はエンジンスイッチを“ON”にしたときのみに、設定を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。
  ・マニュアル作動（スイッチ操作）による格納、復帰
  ・オート作動（キーフリーシステム連動）による復帰

ヒーテッドドアミラー

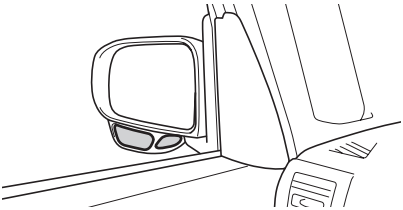
オプション／グレード別装備

雨天時など、ドアミラーが曇ったときに使用します。
リヤウインドデフォッガースイッチを押すことで、ドアミラーが暖められ曇りが取れます。

（リヤウインドデフォッガースイッチ→ 311 ページ）

サイドアンダーミラー

助手席側ドアミラー下部に装着されています。

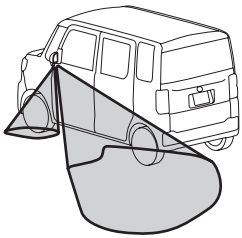


停車時や発進時、路肩に寄せるときなどに車両左側下部を確認することができます。

知識

- サイドアンダーミラーは下向きになっています。
- サイドアンダーミラーの角度調整は不要です。

見える範囲



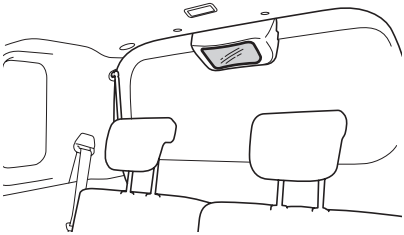
ミラーを見る姿勢によって、見える範囲は異なります。

注意

- 見える範囲には限界があるため、周囲の安全確認は直接目視でするか、ルームミラー、ドアミラー、リヤアンダーミラーなども併用して十分行ってください。

リヤアンダーミラー

バックドア内部に装着されています。

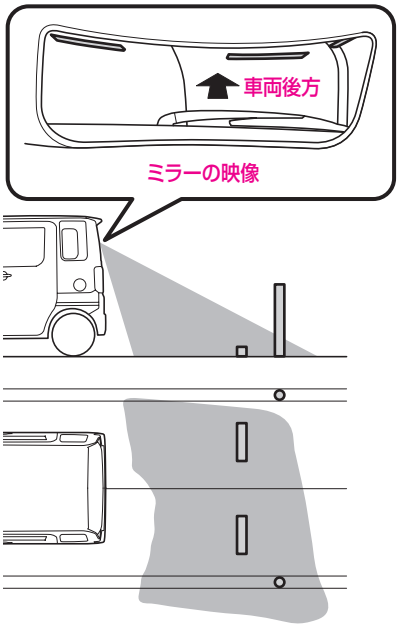


車両後方付近を確認することができます。

知識

- リヤアンダーミラーの角度調整は不要です。

見える範囲



- ミラーを見る姿勢によって、見える範囲は異なります。
- バンパーから約 40cm までの範囲は映りません。

注意

- 見える範囲には限界があるため、周囲の安全確認は直接目視でするか、ルームミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

チルトステアリング

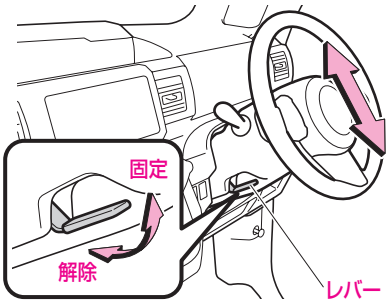
オプション / グレード別装備

ハンドルの位置を運転しやすいように調整できます。

⚠ 警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

調整のしかた



1 レバーを押し下げる

2 ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整する

3 レバーを引き上げ固定する

計器類とスイッチ

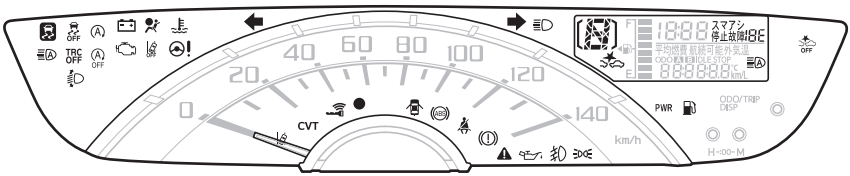
警告灯、表示灯
警告灯 …… 153
表示灯 …… 164
メーターのはたらき
メーター …… 172
スイッチの使いかた
ライトスイッチ …… 184
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 192
フォグランプスイッチ …… 193
ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 193
ホーンスイッチ …… 196
方向指示スイッチ …… 196
非常点滅灯スイッチ …… 197

警告灯、表示灯

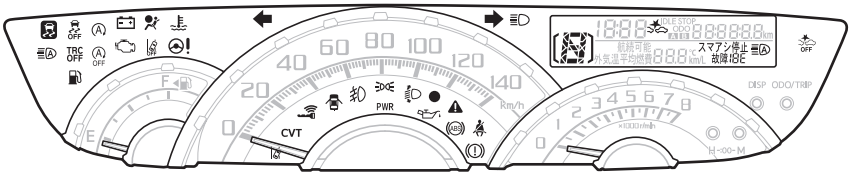
警告灯、表示灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

インストルメントパネル

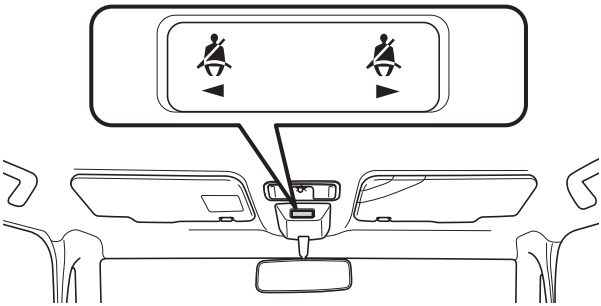
タコメーターなし車



タコメーター付き車



ルームミラー上



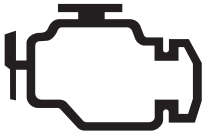
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告表示します。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジンスイッチを“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

油圧警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠ 注意

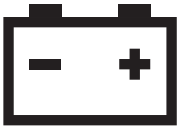
点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイルレベルゲージで行ってください。
  （オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンスノート」参照）

充電警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯

● エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。

● エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD 制御に異常があるとき
  （ABS（EBD 機能付）→ 221 ページ）

▼ **駐車ブレーキが解除されている場合**

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

⚠ 注意

● 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

● ブレーキ液量の不足が考えられます。
この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合

● 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

水温警告灯（赤色）

- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠ 注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。
  ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

（オーバーヒートの処置→ 429 ページ）

知識

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、青色に点灯します。

（水温表示灯（青色）→ 166 ページ）

警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

知識

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

CVT 警告灯

CVT

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、CVT システムに異常があると点滅します。

⚠ 注意

点滅した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

シートベルト締め忘れ警告灯（運転席・助手席）

- エンジンスイッチが“ON”で、運転席の乗員がシートベルトを着用していないと点滅します。
- エンジンスイッチが“ON”で、助手席に乗車してシートベルトを着用していないと点滅します。
- エンジンスイッチが“ON”で、シートベルトを着用すると消灯します。

知識

助手席の乗員検知センサーについて

- 助手席シート座面に、ある一定の重量がかかったときに検知します。このため、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上に座布団などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

運転席・助手席警告ブザー

運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

知識

- 一度警告ブザーが鳴ると、たとえ約20km/h以下で走行しても、約2分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- 警告ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

シートベルト締め忘れ警告灯（後席）

助手席側

運転席側

- エンジンスイッチが“ON”で、後席シートベルトを着用していないと点灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、後席シートベルトを着用すると消灯します。

知識

- 後席に乗員がいない場合は、後席シートベルトを外した状態で約 30 秒以上走行すると消灯します。この場合はスライドドアを開閉すると点灯します。

後席シートベルト締め忘れ警告ブザー

以下の場合に警告ブザーが断続的に約 30 秒間鳴ります。

- 車速 5km/h 以上で走行中に、後席シートベルトを外したとき
- 停車中に後席シートベルトを外し、その後車速 5km/h 以上で走行したとき

知識

- 一度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 5km/h 以下で走行しても、約 30 秒間鳴り続けます。
- 警告ブザーは、後席シートベルトを装着するかスライドドアを開閉すると停止します。

半ドア警告灯

エンジンスイッチに関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 警告灯が点灯した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
  消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

- バッテリーあがり防止のため、エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、警告灯が自動的に消灯します。

燃料残量警告灯

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が約 6ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点滅した後、点灯します。

（燃料計→ 174 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
  燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが鳴ります。

ABS 警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ABS に異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABS としての作動はしません）、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABS に異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- 走行中に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯を繰り返す場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

SRS エアバッグ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRS エアバッグ
  （SRS エアバッグ→ 53 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構→ 37 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ロービーム・オートレベリング警告灯

LED ヘッドランプ装着車

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ロービーム・オートレベリング機能に異常があると点灯します。

（ロービーム・オートレベリング機能
→ 191 ページ）

⚠ 注意

走行中に点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。
  再度エンジンスイッチを“ON”にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

電動パワーステアリング警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると赤色に点灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、電圧不足、電動パワーステアリングシステム過熱によりパワーステアリング制御が制限されると、黄色に点灯します。

⚠ 注意

赤色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が停止し、ハンドル操作が非常に重くなります。
  ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

黄色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
  しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。
  消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
  これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなることがあります。
  しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

警告ブザー

警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなった場合は、ブザーが鳴ります。

VSC & TRC 警告灯

（VSC & TRC 警告灯→ 226 ページ）
（VSC → 223 ページ）
（TRC → 224 ページ）
（ヒルホールドシステム→ 229 ページ）

マスターウォーニング

スマートアシストⅢ装着車

（マスターウォーニング → 264 ページ）
（スマートアシストⅢ → 231 ページ）

キーフリー警告灯

キーフリーシステム装着車

（キーフリー警告灯→ 87 ページ）

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠ 注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯

方向指示表示灯

エンジンスイッチが“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯

- エンジンスイッチに関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、自動で非常点滅灯が高速点滅し、同時に左右の表示灯が高速点滅します。

（エマージェンシーストップシグナル
→ 278 ページ）

知識

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

エンジンスイッチに関係なく、ヘッドランプを上向きの状態にすると点灯します。

テールインジケーター

エンジンスイッチに関係なく、車幅灯を点灯させると点灯します。

フォグランプ表示灯

エンジンスイッチに関係なく、フォグランプを点灯させると点灯します。

（フォグランプスイッチ→ 193 ページ）

水温表示灯（青色）

●エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

⚠ 注意

●エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合

●ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

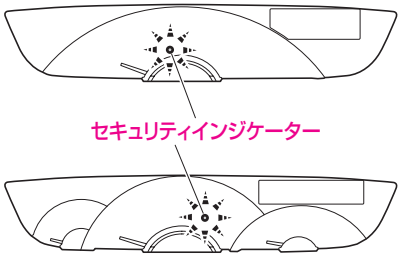
知識

エンジン冷却水温が異常に高いときは

●水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

（水温警告灯（赤色）→156 ページ）

セキュリティインジケーター



キーレスエントリー装着車

（セキュリティアラーム→ 65 ページ）

キーフリーシステム装着車

- エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

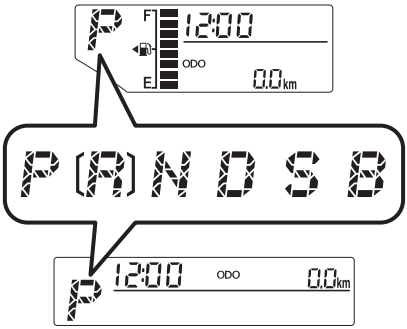
（イモビライザー機能→ 64 ページ）

知識

- リクエストスイッチ操作またはキーのリモコン操作でドアを施錠してセキュリティアラームがセットされると、約 30 秒間点灯に変わります。

（セキュリティアラーム→ 65 ページ）

CVT シフトインジケーター



- エンジンスイッチが“ON”のとき、使用中のシフトレバーの位置が点灯します。
- R レンジにすると、“[ ]”が点滅します。

パワーモードインジケーター

オプション / グレード別装備

（D assist 切替ステアリングスイッチ
→ 219 ページ）

PWR

eco IDLE 表示灯

（eco IDLE 表示灯→ 287 ページ）

eco IDLE OFF 表示灯

（eco IDLE OFF 表示灯→ 288 ページ）

スリップインジケーター

（点滅）

（スリップインジケーター→ 226 ページ）
（VSC → 223 ページ）
（TRC → 224 ページ）

VSC OFF 表示灯

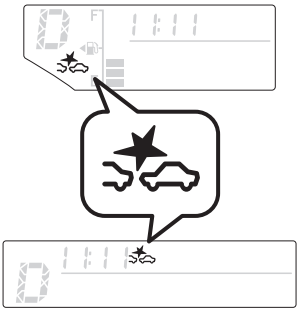
（VSC OFF 表示灯→ 227 ページ）
（VSC → 223 ページ）

TRC OFF 表示灯

（TRC OFF 表示灯→ 227 ページ）
（TRC → 224 ページ）

スマートアシスト作動灯

スマートアシストⅢ装着車



（スマートアシスト作動灯→ 265 ページ）
（スマートアシストⅢ → 231 ページ）

スマートアシスト OFF 表示灯

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシスト OFF 表示灯
→ 266 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 231 ページ）

車線逸脱警報作動灯

スマートアシストⅢ装着車

（車線逸脱警報作動灯
→ 266 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 231 ページ）

車線逸脱警報 OFF 表示灯

スマートアシストⅢ装着車

（車線逸脱警報 OFF 表示灯
→ 267 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 231 ページ）

スマートアシスト“故障”表示

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシスト“故障”表示
→ 268 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 231 ページ）

スマートアシスト“停止”表示

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシスト“停止”表示
→ 269 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 231 ページ）

オートハイビーム作動灯

スマートアシストⅢ装着車

（オートハイビーム作動灯
→ 267 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 231 ページ）

オートハイビーム“故障”表示

スマートアシストⅢ装着車

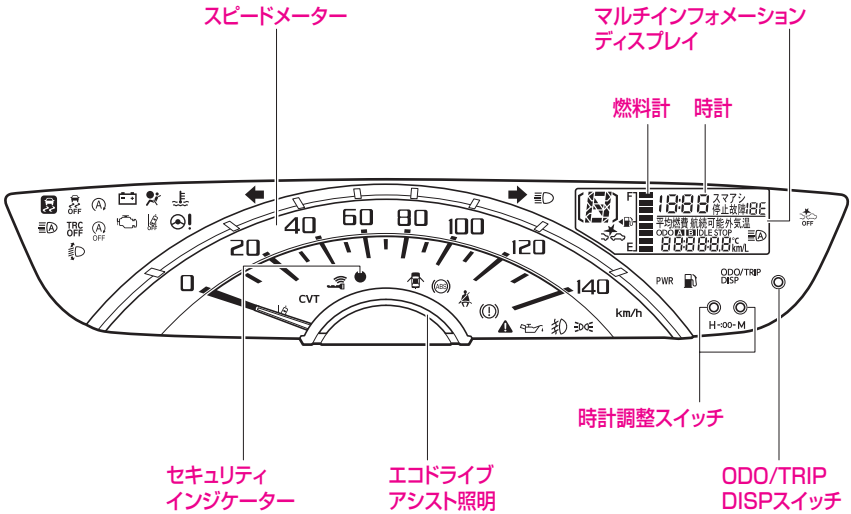
（オートハイビーム“故障”表示
→ 269 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 231 ページ）

メーターのはたらき

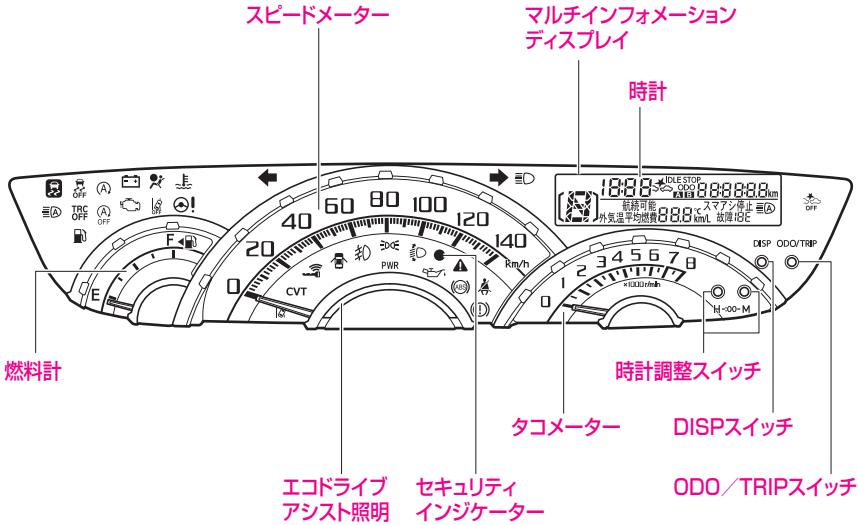
メーター

表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

タコメーターなし車



タコメーター付き車



知識

エンジンスイッチ“ON”時のメーター演出

タコメーター付き車

●メーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。

メーター照明

●エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると、消灯します。

●メーター照明には昼間用と夜間用があり、次のときに切り替わります。

昼間用

周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき

夜間用

周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

●夜間用になると、メーター照明が減光します。

知識

●ライトの点灯・消灯の確認は、テールインジケーターで行ってください。

（テールインジケーター→ 165 ページ）

●メーター照明の照度は調整することができます。また、夜間用になったときに、減光しないようにすることもできます。

（照度調整→ 181 ページ）

スピードメーター

走行速度を km/ hで表示します。

タコメーター

オプション／グレード別装備

1分間当たりのエンジン回転数を示します。

注意

●指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量を表示します。

● 燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

（燃料残量警告灯→ 159 ページ）

⚠ 注意

燃料残量警告灯が点灯した場合

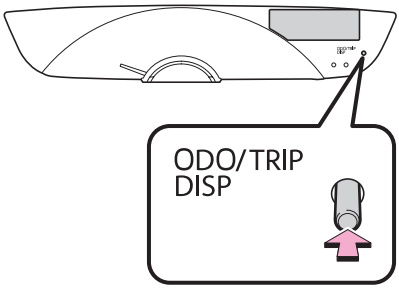
● ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

マルチインフォメーションディスプレイ

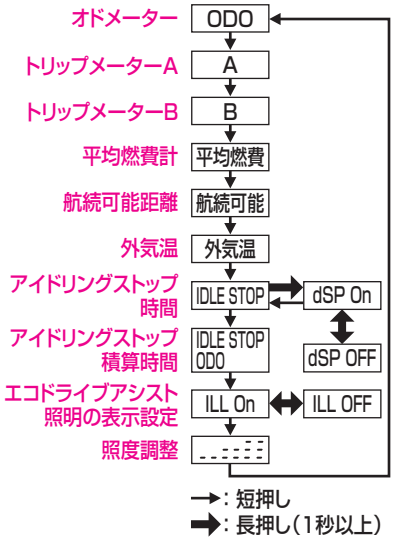
エンジンスイッチが“ON”のとき表示します。

タコメーターなし車

● ODO/TRIP DISP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

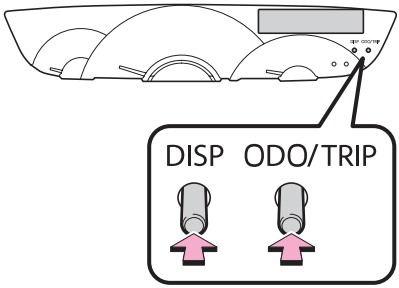


▼ ODO/TRIP DISP スイッチによる切り替わりかた

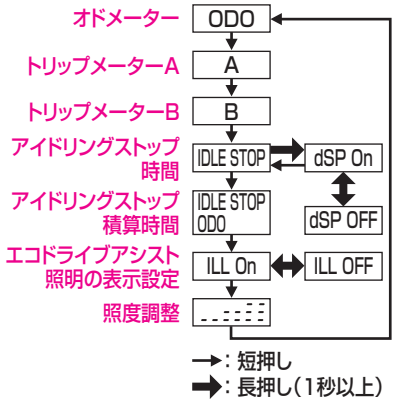


タコメーター付き車

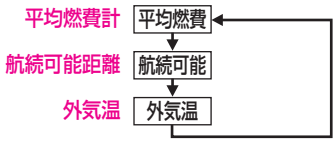
●ODO/TRIP スイッチまたは DISP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



▼ ODO/TRIP スイッチによる切り替わりかた



▼ DISP スイッチによる切り替わりかた



オドメーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

トリップメーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

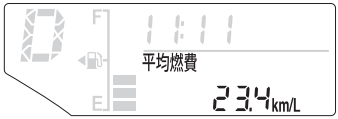
●トリップメーターは、同時に 2 つの区間の走行距離を表示することができます。

▼ トリップメーター表示をリセットするには

●リセットするトリップメーター（A または B）を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

平均燃費計

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。



▼ 平均燃費表示をリセットするには

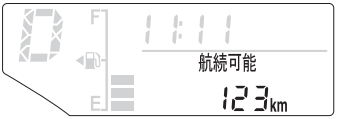
平均燃費を表示させ、タコメーターなし車は ODO/TRIP 切り替えスイッチ（タコメーター付き車は DISP スイッチ）を約 1 秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

知識

- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。



⚠ 注意

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を給油してください。

知識

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断たれたときは、学習した燃費はリセットされます。

外気温

外気温度を表示します。

▼ 路面凍結警告表示

外気温度が 3℃以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることをお知らせします。

知識

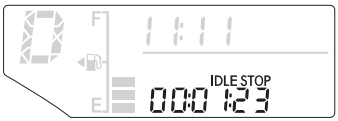
- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、外気温が表示されないことがあります。
- 表示範囲は、「－ 30 ～ 50℃」です。
- 異常検出したときの表示は、「－－℃」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
  - 停車しているときや低速走行しているとき
  - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温度がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温度が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

アイドリングストップ時間

エンジンスイッチを“ON”にしてからの eco IDLE によるアイドリングストップ時間を表示します。



▼ アイドリングストップ時間表示のリセットについて

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、表示がリセットされます。
- リセット後、エンジンスイッチを“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

▼ アイドリングストップ時間の自動表示について

アイドリングストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、eco IDLE によるアイドリングストップ中に、自動でアイドリングストップ時間を表示します。

知識

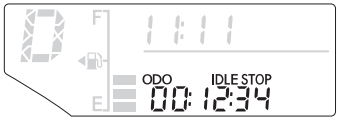
アイドリングストップ時間自動表示を解除するには

- アイドリングストップ時間を表示させ、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約 1 秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	eco IDLEによるアイドリングストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

アイドリングストップ積算時間

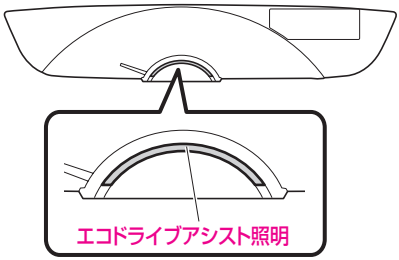
表示をリセットしてからの eco IDLE によるアイドリングストップ積算時間を表示します。

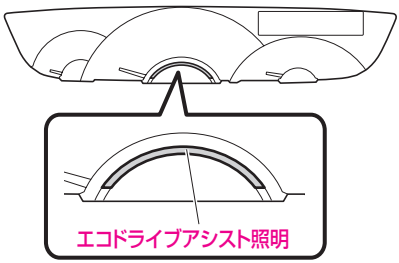


▼ アイドリングストップ積算時間表示をリセットするには

● アイドリングストップ積算時間を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

エコドライブ＊アシスト照明の表示設定





ILL On（または ILL OFF）を表示させて、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“ILL On”、“ILL OFF”が切り替わります。

（エコドライブアシスト照明
→ 183 ページ）

＊二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転

照度調整

メーター照度を調整します。

▼ 操作方法

明るさ	表示	照度レベル
明るい		レベル1
		レベル2
		レベル3
		レベル4
暗い		レベル5

照度調整表示中、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが左表のように変わります。

▼ 照度調整

メーター照明は、昼間用、および夜間用としてそれぞれ設定することができます。

昼間用

周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。

夜間用

周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

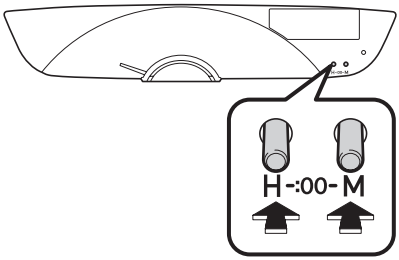
知識

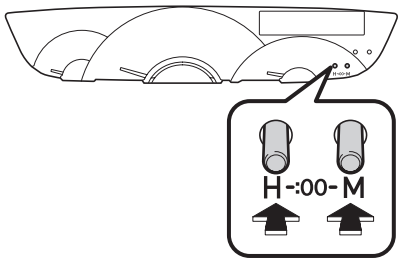
● 夜間用の設定を“レベル 1”にすると、夜間用になったときに、メーター照明が減光しません。

時計

エンジンスイッチが“ON”のとき、時計を表示します。

● 時計調整スイッチを押して、時計を調整します。





▼“時”を調整する

時計調整“H”スイッチを押します。

● スイッチを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

▼“分”を調整する

時計調整“M”スイッチを押します。

● スイッチを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

▼ 時報“:00”に合わせる

時計調整“H”スイッチと“M”スイッチを同時に約1秒以上押します。

（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00

（例）1:30 ～ 1:59 → 2:00

● 時報合わせが完了すると、
“時”“分”が 2 回点滅します。

（点滅）

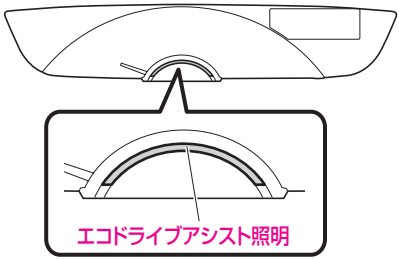
知識

● バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。

エコドライブアシスト照明

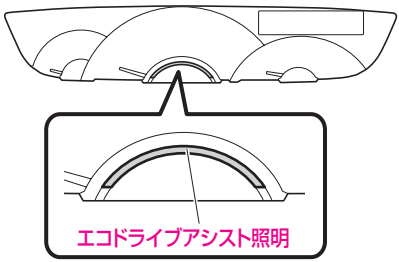
エコドライブアシスト照明の設定が“ILL On”のときに、走行状態に応じてエコドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、メーター照明の一部が変化します。

タコメーターなし車



エコ運転度合	照明色			エコ運転度合
	アンバー	イエロー	グリーン	
低	←→			高

タコメーター付き車



エコ運転度合	照明色			エコ運転度合
	ブルー	スカイブルー	グリーン	
低	←→			高

- エンジンスイッチを“ON”にすると数秒間、グリーン色に点灯します。
- “ILL OFF”のときは、タコメーターなし車はアンバー、タコメーター付き車はブルーのまま照明色は変化しません。

  （エコドライブアシスト照明の表示設定 → 180 ページ）
- シフトレバーが D レンジのとき、走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、エコドライブアシスト照明色が変化します。

知識

- eco IDLE によるアイドリングストップ中はグリーン色になります。

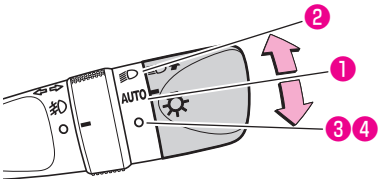
（eco IDLE（エコアイドル）→ 279 ページ）

スイッチの使いかた

ライトスイッチ

ライトの点灯

自動または手動でヘッドランプ、車幅灯などが点灯・消灯します。



▼ 操作方法

● エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチを操作すると、下表のライト類が点灯・消灯します。

スイッチ位置＼ライト		前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
❶	AUTO	自動点灯･消灯	
❷	≡D	点灯*1	
❸*2、3	○(OFF)	消灯	点灯
❹*2、4		消灯	

*1　エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。
*2　スイッチを“OFF”の位置にして手を離すと、“AUTO”の位置に戻ります。
*3　車速が約3km/h 以下で自動点灯しているとき
*4　車速が約3km/h 以下で自動点灯しているときに、スイッチを約1秒以上操作したとき

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジン停止中は、ライト類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライト類を消灯してください。

ライト類の再点灯について

スイッチを“OFF”の位置にしてライト類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ライト類が再点灯します。

● 車速が約 3km/h を超えたとき

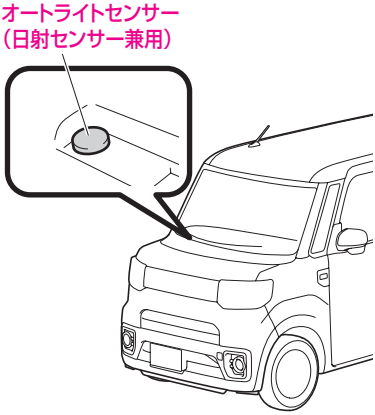
● 再度スイッチを“OFF”にしたとき

● エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき

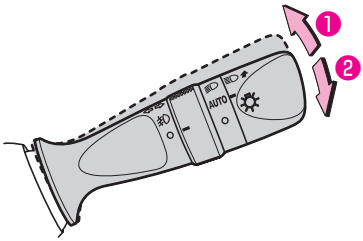
● 車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

知識

● オートライトセンサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。



ヘッドランプの切り替え



▼ ハイビームに切り替える

● 前照灯が点灯しているときにレバーを押します。（❶）
（戻すと下向き（ロービーム）になります）

▼ 一時的に使用する

● 前照灯が消灯していても、レバーを手前に引いている間（❷）、前照灯が上向きに点灯します。
（レバーを離すと下向き（ロービーム）または消灯します）

⚠ 警告

● 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

オートハイビーム

スマートアシストⅢ装着車

フロントウインドガラス上部に設置されたステレオカメラにより、対向車、または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

（ステレオカメラ→ 234 ページ）

⚠ 警告

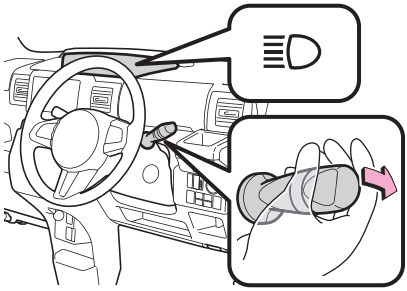
安全にお使いいただくために

- オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

オートハイビームを正しく作動させるために

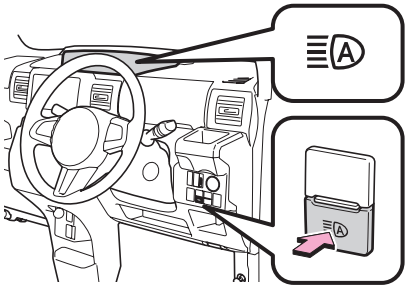
- 荷物を積みすぎないでください。
- 車両を改造しないでください。



▼ 使用方法

1 エンジンスイッチが“ON”で、ライトスイッチが“≡D”または“AUTO”の位置のときレバーを前方へ押す

● ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



2 オートハイビームスイッチを押す

● オートハイビームが作動すると、オートハイビーム作動灯が点灯します。

（オートハイビーム作動灯
→ 267 ページ）

自動切り替え条件について

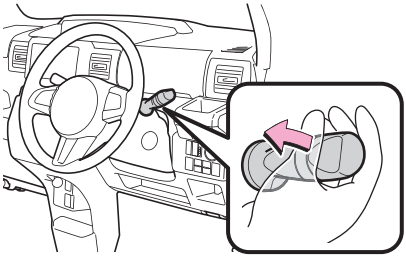
● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームに切り替わります。

- 車速が約 25km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車、または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の街灯が暗い

● 次のいずれかの条件になると、ロービームに切り替わります。

- 車速が約 20km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車、または先行車がランプを点灯している
- 前方の街灯が明るい

手動切り替え方法

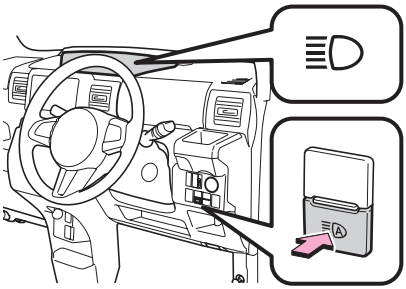


▼ ロービームへの切り替え

●レバーを元の位置に戻します。

- オートハイビーム作動灯が消灯します。

●オートハイビームに戻すには、再度レバーを前方に押します。



▼ ハイビームへの切り替え

●オートハイビームスイッチを押します。

- オートハイビーム作動灯が消灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

●オートハイビームに戻すには、再度スイッチを押します。

⚠ 注意

●オートハイビーム“故障”表示が点灯したときは、オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

（オートハイビーム“故障”表示→ 269 ページ）

知識

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
  - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
  - 他車が前方を横切ったとき
  - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えタイミングが変化する場合があります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の動きや向き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 対向車または先行車が二輪車のとき
  - 道路状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量
- オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識するため、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は認識しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正しく認識されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - フロントガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
  - ステレオカメラの温度が高いとき
  - 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
  - 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
  - 急激な明るさの変化が連続するとき
  - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
  - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
  - コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
  - パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
  - 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

ライト自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防ぐため、ライト類を点灯したまま、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”または“ACC”にすると、ライト類が自動で消灯します。

再びライトを点灯させる場合は、以下の操作をします。

- エンジンスイッチを“ON”にする

または

- ライトスイッチを再度“≡D”の位置にする（ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します）

知識

- 運転席ドアを開けたときに、自動で消灯するように機能を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

節電機能

車両のバッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態でライト類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ライト類が点灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にする

または

- ライトスイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ライト消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態で、ライトを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

ロービーム・オートレベリング機能

LED ヘッドランプ装着車

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する機能です。

知識

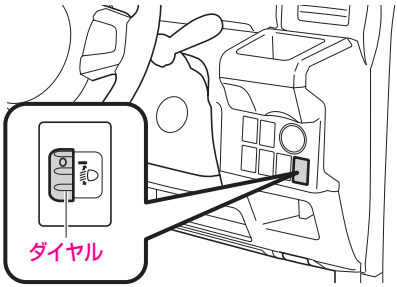
- エンジンを始動して、初めてヘッドランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、異常ではありません。
- ヘッドランプの光軸に異常を感じたときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ

ハロゲンヘッドランプ装着車

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

- ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
- 通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。



▼ 調整方法

ダイヤルを回すと、ヘッドランプの光軸が上下に変わります。

- ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。
- 乗員数や積載量に応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置	
	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0
4名乗車時	1	1
4名乗車で荷室満載時	1.5	1
運転席のみ乗車で荷室満載時	2	1.5

知識

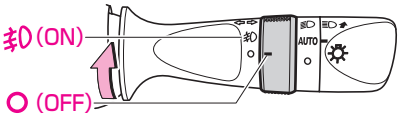
- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

LED ヘッドランプ装着車

- ヘッドランプの光軸は自動的に調整されるため、ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチは装着されていません。

フォグランプスイッチ

夜間の雨、霧のような天候のときにご使用ください。



▼ 点灯のしかた

● 車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にします。
（メーター内の表示灯が点灯します）

▼ 消灯のしかた

● スイッチを“OFF”にします。
（メーター内の表示灯が消灯します）

ワイパー・ウォッシャースイッチ

⚠ 注意

● 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。

● 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパーモーターが損傷し、故障の原因になります。

● 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパーモーターに負担がかかり故障の原因となります。

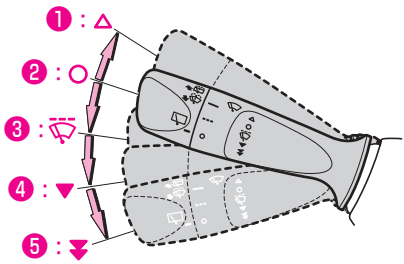
● ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。

● 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

ワイパーの使いかた



レバーを上下に操作すると、ワイパーが作動します。

❶：一時作動

❷：停止

❸：間欠作動

❹：低速作動

❺：高速作動

▼ 一時作動の使いかた

レバーを（❷）から（❶）の位置に押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと（❷）の位置に戻ります。

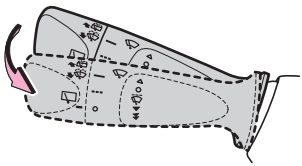
▼ 車速感応式ワイパー

レバーを（❸）の位置（間欠作動）にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

知識

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が短くなります。
- 車速感応作動の機能を停止することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

ウォッシャー液の噴射



レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

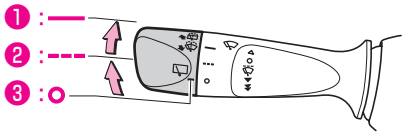
知識

- フロントウォッシャーを作動させると連動してフロントワイパーが低速作動します。

リヤ

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

ワイパーの使いかた



ツマミを回すと、リヤワイパーが作動します。

❶：低速作動

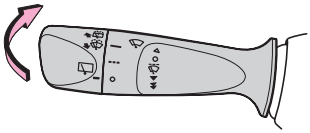
❷：約 4 秒間低速作動した後、間欠作動

❸：停止

知識

- 下記のように、(❷)の間欠作動の機能を変更することができます。 詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。
  - 間欠作動の間隔を変更する
  - 約 4 秒間の低速作動を停止する

ウォッシャー液の噴射



レバーを押すとウォッシャー液が噴射します。

知識

- リヤワイパーが停止しているときにリヤウォッシャーを作動させると、リヤワイパーが作動するように機能を変更することができます。 詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

リバース連動リヤワイパー

- フロントワイパーが作動中に、シフトレバーを R レンジにすると、リヤワイパーが数回作動します。

知識

- フロントワイパーが停止後、約 10 秒間はシフトレバーを R レンジに入れると、リヤワイパーが数回作動します。
- 機能を停止することができます。 詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

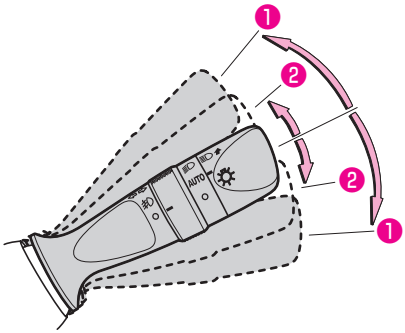
ホーンスイッチ

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

方向指示スイッチ



▼ 操作方法

スイッチを（❶）の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

- スイッチは操作したあと、すぐに元の位置に戻ります。
- 右左折後、ハンドルを戻すと消灯します。消灯しないときは、レバーを（❷）の位置まで軽く操作してください。

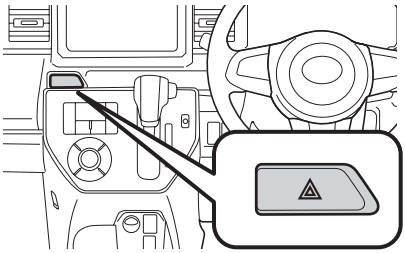
車線変更などのときは、レバーを（❷）の位置で保持します。

- スイッチを上下に操作している間点滅し、手を離すと消灯します。
- （❷）の位置まで操作したあと、すぐに手を離したときは、3 回点滅します。

知識

- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。
- 下記のように機能を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。
  - （❷）の位置まで操作したときの 3 回点滅を停止する
  - 逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の3回点滅が始まるまでのレバーを保持する時間を変更する
  - 右左折後に消灯するハンドル角度を変更する

非常点滅灯スイッチ



▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

⚠ 注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

MEMO

車を運転するにあたって

運転するときは
運転をする前に …… 200
運転のしかた …… 202
運転するときの注意事項 … 205
運転装置の使いかた
エンジンスイッチ
（キーレスエントリー装着車）… 209
エンジンスイッチ
（キーフリーシステム装着車）… 211
駐車ブレーキ …… 216
シフトレバー …… 217
D assist 切替ステアリング
スイッチ …… 219
ABS
ABS（EBD 機能付）…… 221
VSC & TRC
VSC …… 223
TRC …… 224
メーター表示 …… 226
VSC & TRC OFF
スイッチ …… 228
ヒルホールドシステム
ヒルホールドシステム …… 229
スマートアシストⅢ
スマートアシストⅢ …… 231
ステレオカメラ …… 234
ソナー …… 237
衝突警報機能
（対車両・対歩行者）、
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者） …… 238
誤発進抑制制御機能
（前方・後方） …… 249
車線逸脱警報機能 …… 257
先行車発進お知らせ機能 … 261
メーター表示 …… 264
スマートアシスト OFF
スイッチ …… 272
コーナーセンサー
コーナーセンサー（リヤ）… 273
ブザー …… 277
エマージェンシーストップシグナル
エマージェンシーストップ
シグナル …… 278
アイドリングストップシステム
eco IDLE
（エコアイドル） …… 279
エコ発電制御
エコ発電制御 …… 292

運転するときは

運転をする前に

知っておいていただきたい、操作上の注意や特性があります。よく理解し、正しい取り扱いをしてください。

ターボ車

オプション / グレード別装備

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング運転をしてからエンジンを止めてください。

（eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

⚠ 注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

CVT 車の特性

クリープ現象

CVT 車は、エンジンがかかっているとき、シフトレバーが Ⓟ、Ⓝ レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

知識

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

4WD 車

オプション / グレード別装備

⚠ 注意

- 4WD 車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 4WD 車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

フルタイム4WD システム

知識

- フルタイム 4WD システムは、2WD と 4WD を切り替えるモード切り替えスイッチはありません。また 4WD 表示灯もありません。

4WD 車のタイヤについて

4WD 車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。
タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

（タイヤの点検→ 365 ページ）
（タイヤの交換→ 367 ページ）
（タイヤチェーンの装着→ 400 ページ）

運転のしかた

安全運転を心がけ、次の手順で走行してください。

● 運転手順のそれぞれに、注意していただきたいことがあります。
「運転するときの注意事項」も、必ずお読みください。

（運転するときの注意事項→ 205 ページ）

● 各運転装置の使いかたは以下を参照ください。

（エンジンスイッチ（キーレスエントリー装着車）→ 209 ページ）
（エンジンスイッチ（キーフリーシステム装着車）→ 211 ページ）
（シフトレバー→ 217 ページ）
（駐車ブレーキ→ 216 ページ）

エンジンをかける

▼ 準備

● キーフリーシステム装着車は、電子カードキーを携帯し、運転席に座ります。

● 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）
（車体各部の調整→ 128 ページ）

▼ 操作手順

キーレスエントリー装着車

1 シフトレバーが Ⓟ レンジの位置にあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを“START”まで回す

キーフリーシステム装着車

1 シフトレバーが Ⓟ レンジの位置にあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

● エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。

3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

イージースタートサポート

イージースタートサポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジンスイッチを“START”の位置で保持する（プッシュボタンスタート装着車はスイッチを押し続ける）必要はありません。

- イージースタートサポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、イージースタートサポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

発進する

1 ブレーキペダルを右足で踏んだままシフトレバーを D レンジに入れる
   - 状況に応じて S、B レンジに、後退のときは R レンジに入れます。
2 駐車ブレーキを解除する
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

坂道発進するときは

1 駐車ブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D レンジに入れる
2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏む
3 車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

走行するときは

▼ 通常走行するときは

- D レンジで走行します。

▼ 急加速が必要なときは

- アクセルペダルを踏み込みます。
  - 自動的に変速比が切り替わり、力強い加速が得られます。（キックダウン）

▼ 強いエンジンブレーキを必要とするときは

- 長い下り坂や急な下り坂など、路面状態やスピードに応じて S レンジまたは B レンジに切り替えます。

停車する

1 シフトレバーは走行位置のままで、ブレーキペダルをしっかり踏む

2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける

- 長時間停車する場合は、シフトレバーを Ⓟ または Ⓝ レンジに入れます。

後退する

車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかり踏み続け、シフトレバーを Ⓡ レンジに入れます。

リバース警告ブザー

シフトレバーを Ⓡ レンジに入れると車内で警告ブザーが鳴り、運転者にシフトレバーが Ⓡ レンジにあることを知らせます。（警告ブザーは車外には聞こえません）

駐車する

キーレスエントリー装着車

1 シフトレバーを Ⓓ レンジのまま、ブレーキペダルを踏む

2 車が完全に止まってから、駐車ブレーキをかける

3 シフトレバーを Ⓟ レンジにする

4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回してキーを抜く

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、輪止め * を使用してください。

キーフリーシステム装着車

1 シフトレバーを Ⓓ レンジのまま、ブレーキペダルを踏む

2 車が完全に止まってから、駐車ブレーキをかける

3 シフトレバーを Ⓟ レンジにする

4 エンジンスイッチを押して、エンジンを停止する

5 電子カードキーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、輪止め * を使用してください。

* 輪止めはダイハツサービス工場で購入できます。

運転するときの注意事項

⚠ 警告

発進するときは

- Ⓟ レンジから Ⓓ レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままシフトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

走行中は

- エンジンスイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーを Ⓓ、Ⓢ、Ⓑ レンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡ レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちに Ⓟ レンジに入れないでください。また、前進走行中に Ⓡ レンジ、および後退中は Ⓓ、Ⓢ、Ⓑ レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

エンジンをかけるときは

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。
- キーレスエントリー装着車のエンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- 必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。

発進するときは

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 坂道発進時など、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

⚠ 注意

発進するときは

- シフトレバーがどの位置にあるかをシフトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- シフトレバーが P、N レンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT 車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどで D から R、R から D レンジと何度もシフトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。
  完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために P から R、N から D、N から R レンジにシフトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかり踏んでから行ってください。

走行中は

- ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 滑りやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 長い下り坂や急な下り坂を D レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキを併用してください。

停車するときは

- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 注意

後退するときは

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどは R レンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐ N レンジに戻すよう習慣付けましょう。

駐車するときは

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。（プッシュボタンスタート装着車は、エンジンスイッチを“OFF”にします）
  “ON”や“ACC”のままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。
- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリング運転を約 1 分程度行ってください。（eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）
- P レンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ず P レンジにあることを確認してください。

知識

エンジンをかけるときは

- エンジンの始動性を良くするためにライト、リヤウインドデフォッガー、ヒーターファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。

エンジンをかけるときは（プッシュボタンスタート装着車では）

- キーフリーシステムの通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、一度エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、再度、エンジンをかけなおしてください。

走行中は

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- D レンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVT の変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

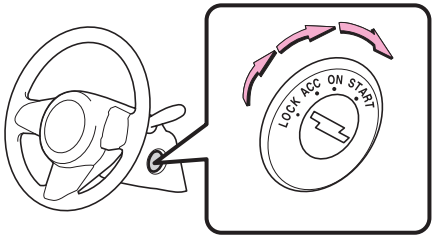
- 発進、加速はスムーズに行ってください。

バッテリーを再接続したときは

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがありますが故障ではありません。

運転装置の使いかた

エンジンスイッチ（キーレスエントリー装着車）



位置	はたらき
LOCK（OFF）	ハンドルロックがかかる位置 シフトレバーがⓅレンジのとき、キーを抜き挿しできます
ACC	アクセサリーソケットなどの電装品が使用できる位置
ON	すべての電装品が使用できる位置
START	エンジンを始動するときの位置

エンジンのかけかた

▼ 準備

● 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）
（車体各部の調整→ 128 ページ）

▼ 操作手順

1 シフトレバーが Ⓟ レンジの位置にあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを“START”まで回す

エンジンの停止方法

1 車両を完全に停止させる

2 駐車ブレーキをかける

3 シフトレバーを Ⓟ レンジにする

4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回す

5 キーを抜く

キーインターロック

誤操作防止のため、シフトレバーがⓅレンジ以外のときに、エンジンスイッチが“LOCK”まで回らないようにする装置です。

知識

- シフトレバーがⓅレンジ以外では、エンジンスイッチを“LOCK”まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

ハンドルロック

エンジンスイッチからキーを抜いて、ハンドルを左右どちらかに動かすとハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。

▼ ハンドルロック解除のしかた

ステアリングロックによりキーが“LOCK”から“ACC”に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

エンジンスイッチの取扱い

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

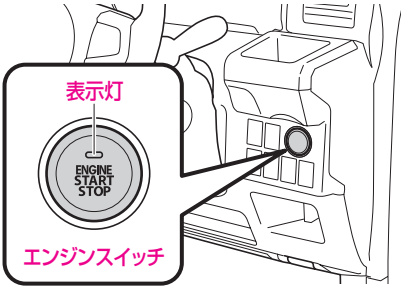
- エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。
- シフトレバーがⓅレンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。シフトレバーがⓅレンジ以外でエンジンを停止した場合、エンジンスイッチを“LOCK”にできないため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

知識

エンジンスイッチの操作について

- キーは確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

エンジンスイッチ（キーフリーシステム装着車）



プッシュボタンスタート

エンジンのかけかた

▼ 準備

● 電子カードキーを携帯し、運転席に座ります。

● 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）
（車体各部の調整→ 128 ページ）

▼ 操作手順

1 シフトレバーが Ⓟ レンジの位置にあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

● エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。

3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

エンジンの停止方法

1 車両を完全に停止させる

2 駐車ブレーキをかける

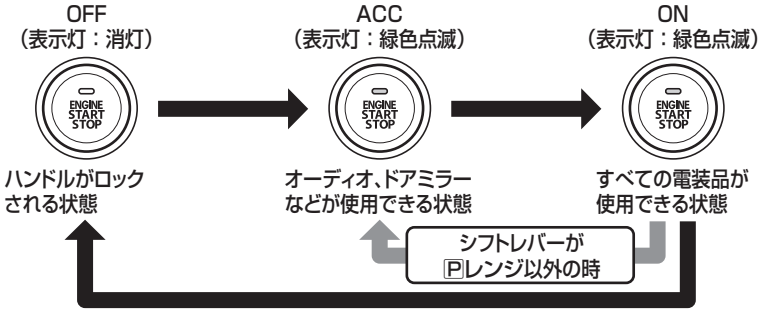
3 シフトレバーを Ⓟ レンジにする

4 エンジンスイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離した状態で、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずに、エンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。



- スイッチを押すごとにモードが切り替わります。
- シフトレバーがPレンジ以外のときは“OFF”になりません。

ハンドルロック

エンジンスイッチを“OFF”にしたあとにバックドアを除くいずれかのドアを開閉すると、ハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

⚠ 警告

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドルロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、ただちに、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- エンジンスイッチを“OFF”にしたときに運転席ドアが開いていると、ハンドルがロックされず、警告ブザーが鳴ります。

（ハンドルロック未完了警告→ 85 ページ）

- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドルロックが作動しません。

ハンドルロックが解除できないときは

エンジンの始動操作をしたときに、ハンドルロックが解除できないと、エンジンスイッチの表示灯が緑色に高速点滅します。

▼ ハンドルロック解除のしかた

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

エンジンスイッチの取扱い

⚠ 警告

緊急時のエンジン停止方法

- 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - エンジンスイッチを 3 秒以上押し続ける
  - エンジンスイッチを 3 回以上連打する

（車両を緊急停止するには→ 435 ページ）

⚠ 注意

エンジンスイッチ表示灯が橙色に点滅したときは

- システムの異常が考えられます。エンジンスイッチを“OFF”にせず、ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。（いったん“OFF”にすると、エンジンを始動できなくなることがあります）

エンジンスイッチがいつもと違うときは

- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、ダイハツサービス工場にご連絡ください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。
- シフトレバーが P レンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。シフトレバーが P レンジ以外でエンジンを停止した場合、エンジンスイッチが“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

知識

エンジンが始動しないときは

- いったんエンジンスイッチを“OFF”にして、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないとき

- エンジンスイッチに電子カードキーを接触させてスイッチを押すことで、エンジンスイッチを“ON”にすることができます。

（電子カードキーが使用できないとき→ 431 ページ）

エンジンスイッチの操作について

- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンの始動・停止、モードの切り替えができないことがあります。1 回ずつ確実に押してください。

エンジンスイッチが正常に作動しないおそれのある状況

- 電子カードキーが作動範囲内にあっても、周囲の状況や電子カードキーの場所により、作動しないことがあります。

（作動範囲→ 80 ページ）

キーフリーシステムの警告ブザーについて

- キーフリーシステムは、電子カードキーの持ち出しや、エンジンスイッチの切り忘れなどの誤操作を検知すると、ブザーを鳴らして警告を行います。

（警告ブザー、メーター表示による警告→ 82 ページ）

電子カードキーについて

- エンジン始動後に電子カードキーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、電子カードキーが車内に無いためにエンジンの始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓から電子カードキーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

知識

車両のバッテリーを脱着したあとは

● すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

エンジンスイッチモードの記憶について

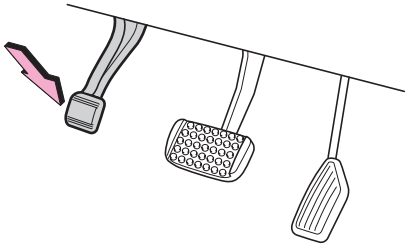
● 車両は常にエンジンスイッチモード（“ACC”または“ON”）を記憶しています。車両のバッテリーを再接続したときは、エンジンスイッチが絶たれる前の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ずエンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のエンジンスイッチモードがわからないときは、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてください。

エンジンスイッチ自動 OFF 機能

● シフトレバーが P レンジのとき、エンジンスイッチが“ACC”、または“ON”のまま放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的にエンジンスイッチが“OFF”になります。

- “ACC”のときは約 1 時間放置すると“OFF”になります。
- “ON”のときは約 20 分放置すると“OFF”になります。

駐車ブレーキ



▼ かけるとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込みます。

● エンジンスイッチが“ON”のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

▼ 解除するとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキングペダルをゆっくり戻します。

● エンジンスイッチが“ON”のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。

⚠ 警告

● 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

● 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキングペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。

● 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

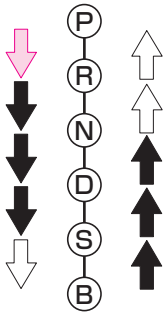
知識

● 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約5km/h 以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

（ブレーキ警告灯→ 155 ページ）

シフトレバー

シフトレバーの使いかた



シフトレバーの操作は確実に行ってください。

⇩	ブレーキペダルを踏みながらシフトレバーボタンを押して動かします
⇧ ⇩	シフトレバーボタンを押して動かします
↑ ↓	シフトレバーボタンを押さずにそのまま動かします

⚠ 警告

- ➡ の操作は誤作動を防ぐため、シフトレバーボタンを押さずに動かしてください。常にシフトレバーボタンを押して操作していると、P、R、B レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- P から D レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら動かしてください。
- 走行中に N レンジに入れないでください。エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちに P レンジに入れないでください。また、前進走行中にRレンジ、および後退走行中に D、S、B レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

各位置のはたらき

シフトポジション	メーター表示	目的
P(パーキング)	P	駐車またはエンジン始動
R(リバース)	R	後退
N(ニュートラル)	N	動力が伝わらない状態
D(ドライブ)	D	通常走行 (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
S(スポーツ)	S	スポーティな走行、坂道や山間地などの走行 (エンジンブレーキが必要なとき)
B(ブレーキ)	B	急な下り坂などの走行 (強いエンジンブレーキが必要なとき)

シフトロック機構

誤操作防止のため、シフトロック機構が付いています。

▼ シフトロック解除方法

エンジンスイッチを“ON”にし、ブレーキペダルを踏むと、シフトレバーの操作ができます。

● 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、シフトレバーを操作します。

知識

● エンジンスイッチが“ON”以外では、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを P レンジからほかのレンジへは動かせません。

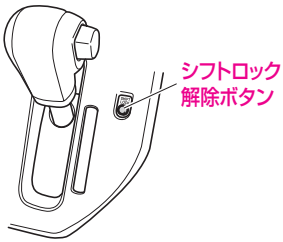
● 先にシフトレバーボタンを押した状態で、ブレーキペダルを踏むと、シフトロックが解除されない場合があります。

● 万一、エンジンスイッチを“ON”にして、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを P レンジから他の位置へ動かせないときは、シフトロック解除ボタンを使用してロックを解除してください。この場合はシフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

(シフトロック解除ボタン → 219 ページ)

シフトロック解除ボタン

バッテリーあがりなどで、シフトレバーが Ⓟ レンジからほかのレンジへ動かないときは、シフトロック解除ボタンを使用します。



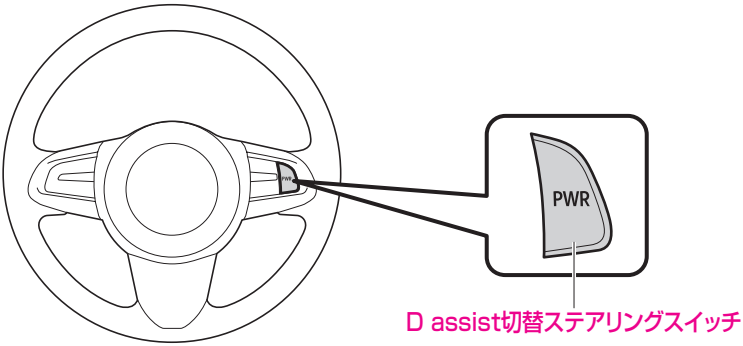
▼ シフトロック解除方法

- 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、シフトロック解除ボタンを押しながら、シフトレバーを操作します。

D assist 切替ステアリングスイッチ

オプション / グレード別装備

D assist 切替ステアリングスイッチを“ON”にすると、エンジンと CVT の制御が切り替わりパワーモードになります。シフトレバーが Ⓓ、Ⓢ レンジのときに軽快な走行をすることができます。



- D assist 切替ステアリングスイッチが“ON”になると、メーター内のパワーモードインジケーターが点灯します。

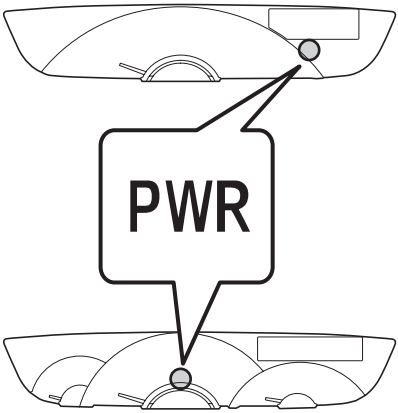
⚠ 注意

- エンジン警告灯、CVT 警告灯が点灯しているときは、パワーモード制御に切り替わりません。

知識

- R、B レンジでの走行時は、パワーモード制御は行われません。
- D assist 切替ステアリングスイッチを“ON”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、D assist 切替ステアリングスイッチは“OFF”になります。

パワーモードインジケーター



知識

- パワーモードインジケーターが点灯しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

ABS

ABS（EBD 機能付）

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABS は、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠ 注意

- ABS を過信しないでください。ABS が作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などには ABS の付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

知識

- 低速（約 10km/h 以下）では、ABS は作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジンスイッチを“ON”にすると、メーター内の ABS 警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯を繰り返す場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。

知識

- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキ性能は確保されていますが、ABSは作動しません。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ * はしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

VSC & TRC

VSC

VSC は、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。
また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキアシストを備えています。

- VSC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。

（スリップインジケーター→ 226 ページ）

- VSC ＆ TRC OFF スイッチを 3 秒以上押して、メーター内の VSC OFF 表示灯と TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、VSC（TRC を含む）は作動しません。

（VSC ＆ TRC OFF スイッチ→ 228 ページ）

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 365 ページ）

⚠ 警告

- VSC を過信しないでください。VSC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- VSC は、車速が約 15km/h を超えると作動するようになります。
- VSC（TRC を含む）は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

知識

ブレーキアシストについて

- VSC の“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキアシストが作動してブレーキが強くかかり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、異常ではありません。

TRC

TRC のはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

（スリップインジケーター→ 226 ページ）

- VSC & TRC OFF スイッチを押して、メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、TRC は作動しません。

（VSC & TRC OFF スイッチ→ 228 ページ）

- ぬかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRC が作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VSC & TRC OFF スイッチを操作することで、TRC を停止することができます。

（スタック（立ち往生）したとき→ 419 ページ）

TRC のしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

TRC とタイヤの関係

TRC は、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 365 ページ）

⚠ 警告

- TRC を過信しないでください。TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

（スリップインジケーター→ 226 ページ）

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- TRC は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

メーター表示

VSC & TRC 警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
  - VSC
  - TRC
  - ヒルホールドシステム

  （ヒルホールドシステム → 229 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

点滅した場合

- VSC、または TRC が作動しています。

（スリップインジケーター→ 226 ページ）

スリップインジケーター

（点滅）

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。
  - VSC
  - TRC

⚠ 警告

- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- スリップインジケーターが点滅した場合は、VSC、または TRC が作動していますので特に慎重に運転してください。

VSC OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを 3 秒以上押すと、VSC（TRC を含む）が作動停止状態となり点灯します。

（VSC & TRC OFF スイッチ
→ 228 ページ）

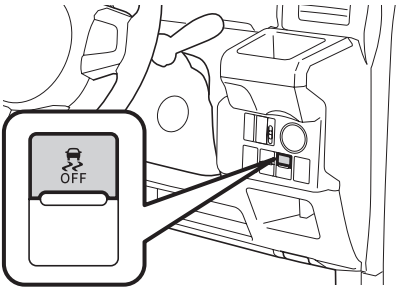
TRC OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを押すと、TRC が作動停止状態となり点灯します。

（VSC & TRC OFF スイッチ
→ 228 ページ）

VSC & TRC OFF スイッチ

VSC や TRC は新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときは VSC & TRC OFF スイッチを押して VSC と TRC を“OFF”にします。



▼ TRC を“OFF”にするとき

● エンジンスイッチが“ON”のとき、VSC & TRC OFF スイッチを押します。
（メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯します）

▼ VSC と TRC を“OFF”にするとき

● エンジンスイッチが“ON”で車両が停止しているとき、VSC & TRC OFF スイッチを 3 秒以上押し続けます。
（メーター内の TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します）

▼ 作動可能状態に戻すとき

VSC & TRC OFF スイッチをもう1度押します。
（TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が消灯します）

⚠ 警告

● VSC や TRC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は VSC や TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

知識

● VSC や TRC を作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的に VSC と TRC は作動可能状態に戻ります。

● TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステムは、急な上り坂で発進するときに起こる車両の後退を軽減し、坂道発進を容易にするシステムです。

ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み替えるとき、ブレーキをかけた状態を最長約 2 秒間保持します。

作動条件

以下の状態のとき、ヒルホールドシステムは作動します。

- 前進、または後退での上り坂発進時
- ブレーキペダルをしっかり踏んで停車しているとき
- 駐車ブレーキを解除しているとき

⚠ 警告

- ヒルホールドシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルホールドシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- VSC & TRC 警告灯が点灯すると、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。特に慎重に発進してください。
- 極端に急な上り坂、凍結した上り坂、ぬかるんだ上り坂など、路面の状態や乗員の人数、荷物の重さなどによっては車両が後退することがあります。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗員の人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。
- ヒルホールドシステムは、2 秒以上車両の後退を軽減することができません。

知識

●ヒルホールドシステムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
- ブレーキペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する

スマートアシストⅢ

オプション / グレード別装備

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢは次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム

（オートハイビーム→ 186 ページ）

⚠ 警告

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけください。
- 次の状況ではシステムは正しく動作しません。スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）

  - タイヤの空気圧が適正でないとき
  - スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
  - 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
  - タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
  - サスペンションを改造したとき
  - ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
  - ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき
  - ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき

⚠ 警告

- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

⚠ 注意

- 次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時的に機能停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は作動します。
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - お車を炎天下で放置した後など、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
  - エンジン始動直後
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
  - ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
  - 重い荷物を積んでいるとき
  - 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 機能によって認識性能の低下する条件や機能停止条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- ハンドル、シフトレバーの操作状況
- 車速などの車両の情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

▼ データの取扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

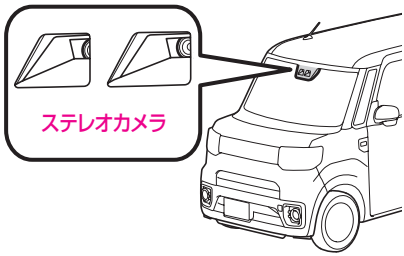
記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で使用します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム



⚠ 警告

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。

⚠警告

● 次のことをお守りください。お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ステレオカメラ前面のフロントガラスは常にきれいにしてください。
- フロントガラス外側に汚れ、油膜、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- フロントガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントガラスにガラスコーティング剤を使用していても、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- フロントガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。

マニュアルエアコン装着車

（ガラスの曇りを取るとき→ 297 ページ）

オートエアコン装着車

（ガラスの曇りを取るとき→ 303 ページ）

- フロントガラスのステレオカメラ前面の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーラバーまたはワイパーブレードを交換してください。ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

（ワイパーの交換→ 372 ページ）

- フロントガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。フロントガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントガラスに交換しないで下さい。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。
  レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 警告

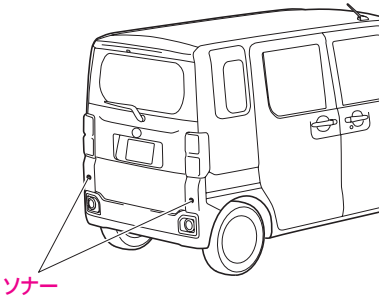
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- ルームミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部に物を置かないでください。フロントガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントガラスへの映りこみにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット、フロントグリル、フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

ソナー

ソナーは、次の機能で使用します。

- 誤発進抑制制御機能（後方）
- コーナーセンサー（リヤ）

（コーナーセンサー（リヤ）→273 ページ）

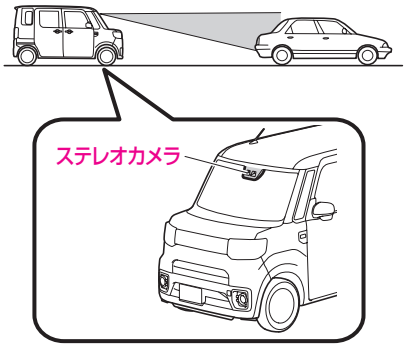


⚠ 警告

- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が自動的に停止します。
- 次のことをお守りください。
  お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ソナーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
  - ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかにふき取ってください。
  - ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
  - ソナー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
  - スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
  - ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
  - ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
  - ソナーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
  - ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。
  - リヤバンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
  - リヤバンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



衝突警報機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。

- 車速約４～100km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約４～100km/h で衝突のおそれがあるとき
  - 状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。
- 車速約４～50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約４～50km/h で衝突のおそれがあるとき

衝突回避支援ブレーキ機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約４～80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約４～80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約４～50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約４～50km/h で衝突のおそれがあるとき

被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約 30 ～ 80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 30 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 30 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突がさけられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

（次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。→ 245 ページ）
（次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。→ 242 ページ）

⚠ 警告

- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作しても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルペダルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキ機能が作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車との速度差が約30km/h を超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車との速度差が約 80km/h（対歩行者の場合は速度差が約50km/h）を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキ機能が作動したときに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

（シートベルト→ 35 ページ）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件について

次の条件をすべて満たすと衝突警報機能および衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストが作動できる状態になります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止”が消灯
- シフトレバーが P 、R レンジ以外
- 次に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差*1
衝突警報機能	対車両	約4～100km/h
	対歩行者	約4～50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約4～80km/h
	対歩行者	約4～50km/h
被害軽減ブレーキアシスト*2	対車両	約30～80km/h
	対歩行者	約30～50km/h

*1 自車と前方車、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。
*2 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込んだ場合

⚠ 注意

- ステレオカメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

⚠ 注意

● ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
- ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
- フロントガラスにフィルムを貼ったとき
- フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分にふき取れていないとき
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
- 前方車や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車、歩行者に接近したとき
- 前方車の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき

⚠ 注意

- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 前方車や対向車による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどがあるとき
- 自車が車線変更を行い、前方車のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 前方車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- 対向車やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車が傾いているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

⚠ 注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪溜まりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車に接近して走行するときや、前方の壁や前方車の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどで前方の視界が悪いとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車の方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車の二車線変更など、二つの物が交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

⚠ 注意

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障”が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止”が点灯しているとき（機能停止）

緊急ブレーキについて

- 緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

知識

- 緊急ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に、❶～❸の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

❶ 衝突警報

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性があると判断した場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

❷ 1次ブレーキ

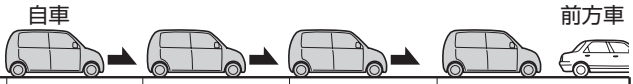
前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高いと判断した場合に、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車、歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

❸ 2次ブレーキ

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断した場合に、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

- 停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）
- 停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- システム作動中は、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起します。
- 緊急ブレーキ作動中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。



	❶衝突警報	❷1次ブレーキ	❸2次ブレーキ	（停止保持）
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
被害軽減ブレーキアシスト	—	作動*1		—
ブザー	ピピピピピピッ	ピピピピピピ・・・		ピピピッ・・・*2
スマートアシスト作動灯	点滅			点滅*2
マスターウォーニング	消灯	点灯		消灯

＊1 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込んだ場合に作動
＊2 運転者操作で終了

知識

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）

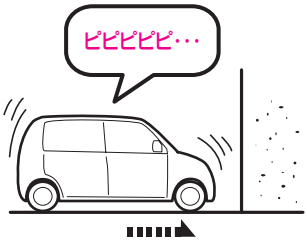
知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

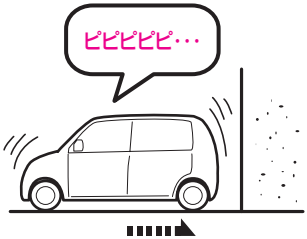
誤発進抑制制御機能（前方・後方）

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

● 前方は、ステレオカメラが約 4m 以内に障害物を認識している場合に作動します。



● 後方は、ソナーが約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

● エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。

● 後方で作動したとき、ブザーはリバース音よりも早い間隔で鳴ります。

（スマートアシストⅢの作動状態について→ 271 ページ）

⚠ 警告

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。機能に頼っていると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など障害物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。
  アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 誤発進抑制制御機能（後方）とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、誤発進抑制制御機能（後方）が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を障害物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。
  （スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRC を“OFF”または VSC&TRC を“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止”が消灯
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ～約 10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- TRC OFF 表示灯、VSC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、シフトレバーが D 、S 、B レンジ
- 後方の場合は、シフトレバーが R レンジ

⚠ 注意

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後

⚠ 注意

● ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- フロントガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
- ステレオカメラの温度が極端に高いとき
- 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
- 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
- ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
- 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 前方車などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ステレオカメラの認識エリア外に障害物が存在するとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
- しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 障害物や前方車（トレーラーや対向車など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して作動し、効果が充分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

⚠ 注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどを通過するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープ、道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

⚠ 注意

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の状態（積載、乗員など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
  - 動いているもの
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
  - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
  - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
  - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠ 注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障”が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止”が点灯しているとき（機能停止）

（メーター表示→ 264 ページ）

誤発進抑制制御機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 先行車発進お知らせ機能

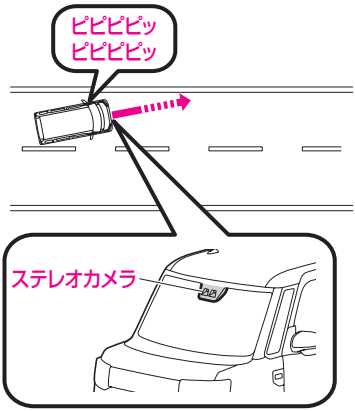
（スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。



⚠ 警告

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。
- 次のような条件では、車線逸脱警報機能を作動させない場合があります。
  - 車線内を走行していないとき
  - カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
  - 車線幅が狭いとき
  - 方向指示器を使用しているとき
  - 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
  - 車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

車線逸脱警報機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止”が消灯
- 車速が約 60km/h 以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 直線または緩やかなカーブの道路を走行している

⚠ 注意

次の条件では白線（黄線）を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）により白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

⚠ 注意

● 道路の状態（特に次のような場合）

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白線（黄線）のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
- 坂道や丘の頂上に近付いているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- ガードレールの影などがあるとき
- 区画線が二重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

⚠ 注意

● ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- フロントウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを押すことで、車線逸脱警報機能を“OFF”にすることができます。

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）

知識

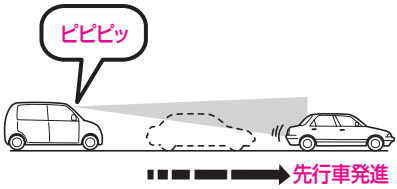
● 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンスイッチを“OFF”にしても維持されます。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

（スマートアシストⅢの作動状態について→ 271 ページ）



⚠ 警告

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

ブザーについて

- ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

先行車発進お知らせ機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止”が消灯
- シフトレバーが Ⓓ 、Ⓢ 、Ⓑ レンジでブレーキペダルを踏んでいる、または Ⓝ レンジ
- 停止してから数秒経過

知識

- 次のような場合は、先行車が発進していなくても機能がはたらいてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能がはたらかない場合があります。
  - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
  - 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
  - ステレオカメラが先行車を見失ったとき
  - 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
  - 自車が停止した時に先行車が動いている場合
  - 先行車との距離が極端に短いとき
  - 先行車が急発進や急旋回した場合
  - 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
  - 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
  - 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
  - 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
  - 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
  - 車高の低い先行車のとき
  - 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
  - ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
  - 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

メーター表示

マスターウォーニング

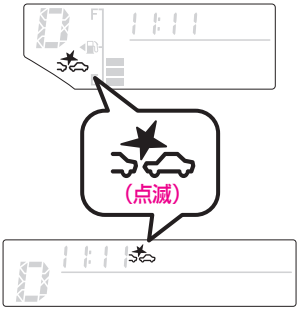
- エンジンスイッチを“ON”にすると、点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
  - スマートアシストⅢのシステムに異常があるとき
  - 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、2 次ブレーキが作動したとき
  - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）が作動したとき

⚠ 注意

点灯した場合

- スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が同時に点灯したときは、オートハイビームを除くスマートアシストⅢは作動しません。通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

スマートアシスト作動灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の機能が作動したときに点滅します。
  - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
  - 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
  - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
  - 先行車発進お知らせ機能

知識

- 緊急ブレーキが作動中または、誤発進抑制制御機能がエンジン出力を抑制しているときは、同時にマスターウォーニングも点灯します。

（マスターウォーニング→ 264 ページ）

スマートアシスト OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
  - スマートアシスト OFF スイッチで次の機能を“OFF”にしたとき
    - ・衝突警報機能（対車両・対歩行者）
    - ・衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
    - ・誤発進抑制制御機能（前方・後方）
    - ・先行車発進お知らせ機能
  - オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき

（スマートアシスト OFF スイッチ → 272 ページ）

知識

- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングと車線逸脱警報 OFF 表示灯も点灯します。

（マスターウォーニング→ 264 ページ）

車線逸脱警報作動灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、車線逸脱警報機能が作動したときに点滅します。

車線逸脱警報 OFF 表示灯

● エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
- スマートアシスト OFF スイッチで車線逸脱警報機能を“OFF”にしたとき
- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）

知識

● 車線逸脱警報機能は、エンジンスイッチを“OFF”にしても“ON”または“OFF”の状態を維持します。
“ON”の状態を維持しているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 272 ページ）

● オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングとスマートアシスト OFF 表示灯も点灯します。

（マスターウォーニング→ 264 ページ）

オートハイビーム作動灯

● エンジンスイッチが“ON”でオートハイビームが作動したときに点灯します。

スマートアシスト“故障”表示

● エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

● 点灯したときは、オートハイビームを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。
通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

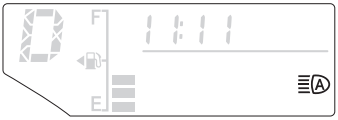
知識

● オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時に次の警告灯と表示灯が点灯します。

- マスターウォーニング
- スマートアシスト OFF 表示灯
- 車線逸脱警報機能 OFF 表示灯

（マスターウォーニング→ 264 ページ）

オートハイビーム“故障”表示



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームに異常があると点灯します。

⚠ 注意

- 点灯したときは、マスタウォーニングも同時に点灯し、オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

スマートアシスト“停止”表示

- エンジンスイッチが“ON”で、スマートアシストⅢの機能が一時的に停止したときに“スマアシ停止”と機能停止コードが点灯します。

知識

- 点灯したときは、スマートアシストⅢは作動しません。
  機能停止コードごとに適切な処置を行ってください。
  （機能停止コード→ 270 ページ）
- 点灯していても、オートハイビームは作動することがあります。

機能停止コード

機能停止コード	原因	処置
11E	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない	原因状態が解消されると、復帰します。
12E	ステレオカメラの作動条件を満たさなくなった（ステレオカメラ内が高温になったなど）	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にした後、再度エンジンスイッチを“ON”にしてください。
14E	スマートアシスト初期学習中	しばらく走行すると、復帰します。
15E	ソナー部（車両後側）に雪氷や泥が付着している	ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
16E	フロントワイパーを“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。

⚠ 注意

- 処置をしても、機能停止コードが点灯したままのときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

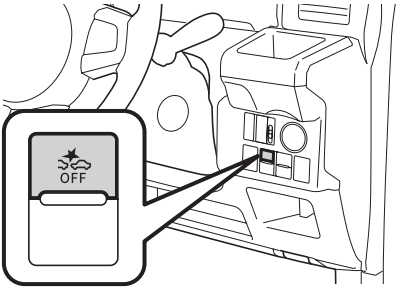
- 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「11E」は R レンジ以外、「15E」「16E」は R レンジのときに点灯します。

スマートアシストⅢの作動状態について

スマートアシストⅢの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが鳴ります。

			インジケーター	液晶部	ブザー
スマートアシストOFFスイッチで、次の機能を停止したとき ・衝突警報機能（対車両・対歩行者） ・衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者） ・誤発進抑制制御機能（前方・後方） ・先行車発進お知らせ機能			OFF が点灯	–	ピピッ
スマートアシストOFFスイッチで、車線逸脱警報機能を停止したとき			OFF が点灯	–	ピピッ
オートハイビームを除くシステム異常時			⚠ OFF OFF が点灯	次のシステムに異常がある場合、“スマアシ故障”が点灯 ・ステレオカメラ ・ソナー	–
オートハイビーム異常時			⚠ が点灯	Ⓐ が点灯	–
機能一時停止時			–	“スマアシ停止”と機能停止コードが点灯	–
衝突警報機能			–	が点滅	ピピピピピピッ
衝突回避支援ブレーキ機能	1次ブレーキ		⚠ が点灯		ピピピピピ…
	2次ブレーキ				ピピピピピ…
	停止保持		–		ピピピッ…
誤発進抑制制御機能（前方）		警報			ピピピピピピッ
		制御	⚠ が点灯		ピピピピピ…
誤発進抑制制御機能（後方）		警報	–		ピピピピピッ
		制御	⚠ が点灯		ピピピピピ…
先行車発進お知らせ機能			–		ピピピッ
車線逸脱警報機能			が点滅	–	ピピピピッ ピピピピッ
オートハイビーム			Ⓐ が点灯	–	–

スマートアシスト OFF スイッチ



エンジンスイッチが“ON”のとき、スマートアシスト OFF スイッチを操作することで、スマートアシストⅢの次の機能を停止することができます。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、誤発進抑制制御機能、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

- スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、“OFF”になります。
  - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON（作動可能状態）”に戻すときは、再度スイッチを約 2 秒以上押し続けます。
  - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

- スマートアシスト OFF スイッチを押すと、“OFF”になります。
  - メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON（作動可能状態）”に戻すときは、再度スイッチを押します。
  - メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

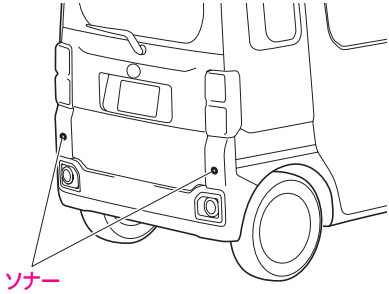
- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンスイッチを“OFF”にしても維持されます。

コーナーセンサー

オプション／グレード別装備

コーナーセンサー（リヤ）

コーナーセンサーは、徐行（車速約 10km/h 以下）状態で後退しているときに、リヤバンパーの左右ソナーで障害物とのおおよその距離を認識して、ブザーで障害物の接近を運転者にお知らせする補助装置です。



（ソナー→ 237 ページ）

⚠ 警告

コーナーセンサーをお使いになる前に

● 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h を超えないようにしてください。
- ソナーの認識エリア、コーナーセンサーの作動速度には限界があります。
  車を後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）やソナーの認識エリア外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。

⚠ 警告

コーナーセンサーについて

● 次のような場合は、コーナーセンサーが作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 後方障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - ・ソナーに非常に近い障害物のとき
    （障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
  - ・地面から高い位置に存在する障害物のとき
  - ・背の低い障害物のとき
  - ・小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
  - ・動いているもの（急に後方に現れたり、車両後方を横切るものなど）
  - ・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
  - ・障害物の面が車両の後面に対して斜めのとき
  - ・地面に対して垂直でない壁のとき
  - ・凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき

⚠警告

・針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
・壁から柱や配管などが突き出しているとき
・認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき
・ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき
・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

● コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能（後方）では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、誤発進抑制制御（後方）が作動する場合があります。

⚠注意

● 次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

⚠ 注意

- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

コーナーセンサーの異常について

● 次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 障害物を認識していない状態で、ブザーが鳴ったとき
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストⅢに異常があるとき、または“スマアシ停止”と機能停止コード“15E”が点灯しているとき

(スマートアシスト“停止”表示→ 269 ページ)
(機能停止コード→ 270 ページ)

● ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴ったときは、コーナーセンサーが一時停止、または故障しています。ソナーに氷・雪・泥などが付着していないか確認して、取り除いてください。氷・雪・泥などが付着していない場合はコーナーセンサーの異常が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

● ソナーの認識エリアはリヤバンパーの左右ソナー周辺に限られます。

● 障害物を認識してから、ブザーが鳴るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、ブザーが鳴る前に障害物に近付きすぎると、ブザーが鳴らない場合があります。

● オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

作動条件

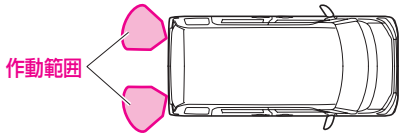
●次の条件をすべて満たしたときにコーナーセンサーは作動します。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- シフトレバーが R レンジのとき
- 車速が約 10km/h 以下のとき

●作動条件をすべて満たした状態で、駐車ブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

（ブザー→ 277 ページ）

作動範囲



ブザー

作動条件をすべて満たした状態で、駐車ブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

●障害物との距離が短くなると、ブザーが下表のとおり変化します。

ブザー	ソナーと障害物との距離
ピッピッピッ…（断続音）	約60～45㎝
ピピピ…（断続音）	約45～30㎝
ピー（連続音）	約30㎝以内

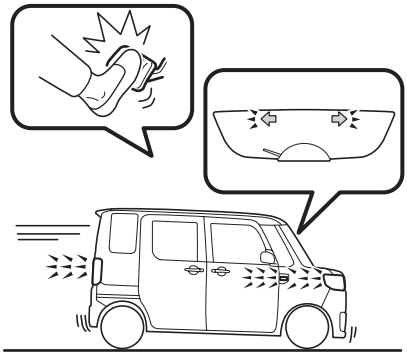
●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザーが鳴ります。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅灯が自動で高速点滅し、後続車に注意をうながすことで、追突される可能性を低減させるシステムです。

● 約 60km/h 以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



作動条件について

エマージェンシーストップシグナルは、自車が下記の条件を全て満たしたときに作動します。

● 非常点滅灯スイッチが“OFF”

● 約 60km/h 以上で走行中

● ブレーキペダルを踏み、急減速した、または ABS が作動した

作動停止について

エマージェンシーストップシグナルは、下記のいずれかのときに作動が停止します。

● 非常点滅灯スイッチを“ON”にした

● ブレーキペダルから足を離した

● 急減速でなくなった

● ABS が作動停止した

⚠ 警告

● エマージェンシーストップシグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。

● 運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

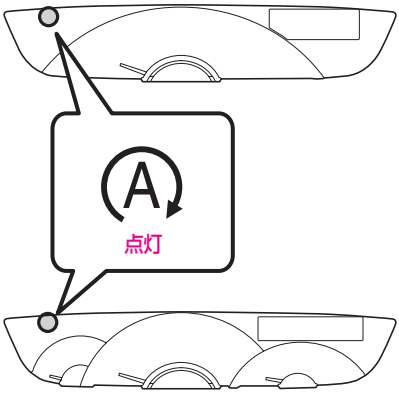
● ABS 警告灯、または VSC & TRC 警告灯が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しないことがあります。

アイドリングストップシステム

eco IDLE（エコアイドル）

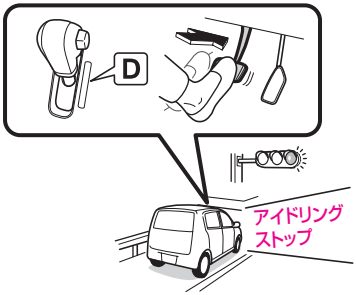
eco IDLE は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約 9km/h* 以下）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリングストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリングストップ、エンジン再始動のしかた



1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。
<スタンバイ状態>

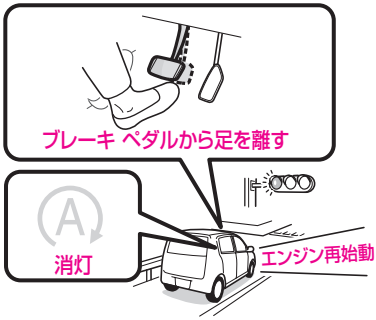
（スタンバイ条件→ 282 ページ）



2 Ⓓレンジのままブレーキペダルを踏み減速すると、停車前（約 9km/h 以下 *）もしくは停車後に、アイドリングストップします。
<アイドリングストップ状態>

- eco IDLE 表示灯はアイドリングストップ中も点灯し続けます。

（停車前のアイドリングストップ条件 → 283 ページ）
（停車後のアイドリングストップ条件 → 284 ページ）



3 ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。
<エンジン再始動>

- eco IDLE 表示灯は消灯します。

（エンジン再始動条件→ 284 ページ）

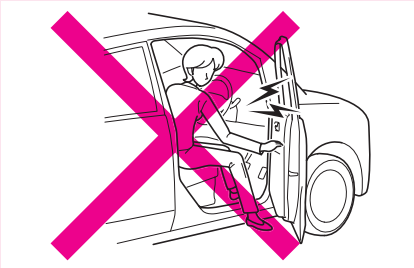
4 しばらく走行して、再びアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。

eco IDLE（エコアイドル）の注意事項

⚠ 警告

- アイドリングストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでいても、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。
  - 警告ブザーは約 5 秒間鳴ります。ただし運転席シートベルトと運転席ドアを元に戻すと警告ブザーが止まります。

（警告ブザー→ 286 ページ）



⚠ 注意

- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止させてください。

eco IDLE を正常に作動させるために

- 下記の場合、eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  - 運転席シートベルトを着用していても、シートベルト締め忘れ警告灯が点滅するとき
  - 運転席シートベルトを外していても、シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しないとき
  - 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
  - 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

知識

アイドリングストップ中の操作について

- アイドリングストップ中に、シフトレバーを D から N レンジ（または S レンジ）に操作してもアイドリングストップは継続します。
  ただし、シフトレバーを N レンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリングストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
  - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
  - ハンドル操作をする
  - eco IDLE OFF スイッチを押す

（eco IDLE OFF スイッチ→ 289 ページ）

アイドリングストップ中のエアコンの作動について

- アイドリングストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFF スイッチを押す

システムの作動条件について

スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯し、アイドリングストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき
  （eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
  （走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリングストップしません）
- シフトレバーが D レンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
  （走行状態によって、実際の外気温とメーター表示の外気温は、異なる場合があります）
- フロントデフロスタースイッチが“OFF”のとき（オートエアコン装着車）
- 車内温度が快適なとき（オートエアコン装着車の冷房時）
- システム（eco IDLE、エンジン電子制御、CVT、ABS、VSC、エアコン、電動パワーステアリング、車両通信）が正常なとき

知識

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
  - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
  - バッテリー交換などで、バッテリーの ⊖ 端子を外したあと
  - 冷房初期（オートエアコン装着車）

停車前のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車前にアイドリングストップします。

- 2WD 車、ターボ車は車速が約 9km/h 以下になったとき
  ターボ車以外の 4WD 車は車速が約 7km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- 車幅灯が消灯しているとき
- フロントワイパー・ウォッシャースイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストⅢ装着車）

知識

- 下記の場合、停車前アイドリングストップしない場合があります。
  - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
  - 勾配のある坂道を走行しているとき
  - ゆるやかに減速しているとき

停車後のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車後にアイドリングストップします。

- 車両が停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストⅢ装着車）

知識

- 下記の場合、アイドリングストップしない場合があります。
  - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
  - 急勾配の坂道で停車したとき

エンジン再始動条件

アイドリングストップ中に、下記のいずれかの操作を行うとエンジンが再始動します。

- ブレーキペダルから足を離す
- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- アクセルペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- シフトレバーを R・P レンジに操作する
- シフトレバーを N レンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- eco IDLE OFF スイッチを押して、システム作動を停止する
- フロントデフロスタースイッチを“ON”にする（オートエアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

知識

エンジンの再始動について

● 下記の場合でも、アイドリングストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象 * が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。

- アイドリングストップ中に、アイドリングストップが可能な条件を満たさなくなった場合（eco IDLE 表示灯は点滅後消灯）
  - ・ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
  - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
  - ・バッテリーの放電量が多いとき（パワースライドドアを自動開閉したとき等）
  - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS、VSC & TRC、電動パワーステアリング）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
  - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オートエアコン装着車）
  - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オートエアコン装着車）
  - ・アイドリングストップしてから約 3 分経過したとき
- アイドリングストップ中に、eco IDLE システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（eco IDLE OFF 表示灯が点滅）

アイドリングストップ時間が短くなる場合

● 下記の場合、アイドリングストップ時間が短くなる場合があります。

- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリングストップしたとき（オートエアコン装着車）
- 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

● 下記の場合、警告ブザーが鳴って eco IDLE 表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。

- アイドリングストップ中にボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 286 ページ）

エンジン再始動時の電装品の動作について

● オーディオの音量が大きいなど、アイドリングストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。

- オーディオ
- ナビゲーションシステム

● アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

* エンジンがかかっているとき、シフトレバーが P、N レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

警告ブザー

アイドリングストップ中に、運転席シートベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザー（断続音）が約 5 秒間鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

運転席シートベルトを外したとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

● 運転席シートベルトを確実に着用してください。
（警告ブザーが止まります）

運転席ドアを開けたとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

● 運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。
（警告ブザーが止まります）

ボンネットを開けたとき

安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。
（エンジン警告灯・充電警告灯・油圧警告灯も同時に点灯します）

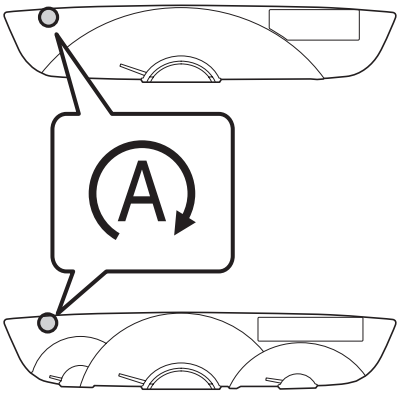
▼ 対処方法

● ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。

● シフトレバーを P レンジに操作してから、ブレーキペダルを踏んだままエンジンスイッチを操作して、エンジンを始動してください。

eco IDLE 表示灯

eco IDLE に関する操作状況、車両の状態をお知らせします。



点灯

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき（数秒後消灯）
- アイドリングストップが可能な条件を満たしたとき
  <スタンバイ条件成立>
- アイドリングストップ中

消灯

- アイドリングストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリングストップが可能な条件を満たしていないとき
  <スタンバイ条件不成立>

低速点滅後、消灯

アイドリングストップ中に、アイドリングストップが可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

高速点滅

アイドリングストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが約 5 秒間鳴ります。

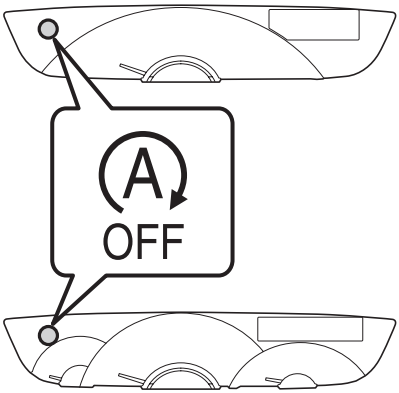
- 運転席シートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 286 ページ）

知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

eco IDLE OFF 表示灯



点灯

● eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE 作動を停止すると点灯します。

（eco IDLE OFF スイッチ
→ 289 ページ）

点滅

● 下記の状態になると、エンジンスイッチが“ON”のときに点滅します。

- eco IDLE システムに異常があるとき
- エンジン部品（スターター）が交換時期のとき

点滅後、消灯

● バッテリーが交換時期になると、エンジンスイッチを“ON”にすると点滅し、数秒後に消灯します。

⚠ 注意

点滅した場合

● ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

● 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

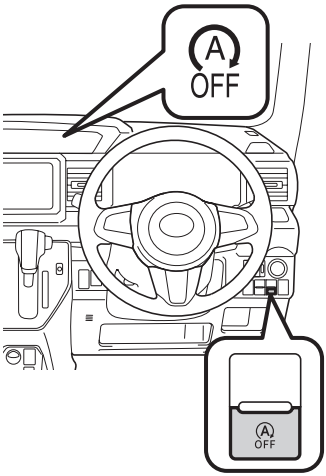
アイドリングストップ時間表示

アイドリングストップ時間を、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

（マルチインフォメーションディスプレイ→ 174 ページ）

eco IDLE OFF スイッチ

eco IDLE の作動を停止したいときにスイッチを押します。



▼ 操作方法

- スイッチを押すと、eco IDLE の作動停止状態になります。
  - メーター内の eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。
- もう一度スイッチを押すと、eco IDLE 作動停止状態が解除されます。
  - eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。

（eco IDLE 表示灯→ 287 ページ）
（eco IDLE OFF 表示灯→ 288 ページ）

知識

- アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE 作動停止状態になります。（eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- eco IDLE はエンジンスイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

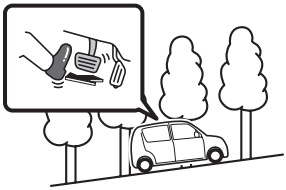
ヒルスタートシステム

アイドリングストップからブレーキペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

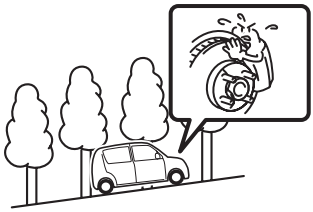
- 坂道発進時の後退を軽減します。（ただし、アイドリングストップしていないときは作動しません）

▼ 作動の流れ

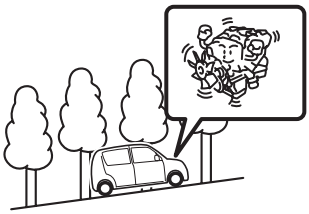
1 ブレーキペダルを踏む力をゆるめる



2 ブレーキ力保持



3 エンジン再始動



4 発進

⚠ 警告

- ヒルスタートシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリングストップしたあと、車両が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
  車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

知識

- ヒルスタートシステムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する
- ヒルスタートシステムは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

eco IDLE 専用バッテリー

eco IDLE 装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。
バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。

⚠ 注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE が正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

知識

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

エコ発電制御

エコ発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

装備品の使いかた

空調

マニュアルエアコン …… 294
オートエアコン …… 302
リヤウインドデフォッガー
スイッチ …… 311

オーディオ

ルーフアンテナ …… 312
オーディオ操作用ステアリング
スイッチ …… 313
バックカメラ …… 314
パノラマモニター …… 318

室内装備品

室内照明 …… 325
アクセサリーソケット …… 328
アームレスト …… 329
運転席シートヒーター …… 330
サンバイザー …… 331
格納式リヤドア
サンシェード …… 333
格納式アシストグリップ … 334
収納装備 …… 335
ラゲージルーム内装備 …… 339
ドリンクホルダー …… 349
ショッピングフック …… 351
助手席シートバック
テーブル …… 351

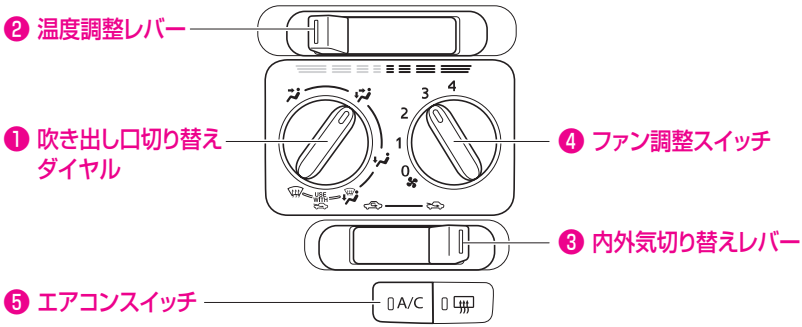
空調

マニュアルエアコン

オプション / グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロールパネル



マニュアルエアコンの使いかた

通常の暖房

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドする
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- ファン調整スイッチ（❹）を調整する

▼ 急速に暖房したいときは

温度調整レバー（❷）を一番右（高温側）にスライドして、内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。

知識

- 内外気切り替えレバー（❸）を にして長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
- 暖かくなってきたら温度調整レバー（❷）を左（低温側）にスライドして、お好みの温度に調整してください。

通常の冷房

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を ⁂ にする
- 温度調整レバー（❷）を左（低温側）にスライドする
- 内外気切り替えレバー（❸）を ⟲ にする
- ファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

知識

乗車直後に車内の温度が高いときは

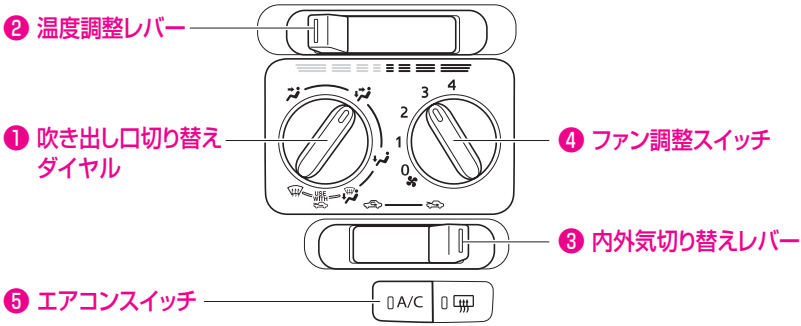
- 窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

▼ 急速に冷房したいときは

温度調整レバー（❷）を一番左（最低温）に操作して、内外気切り替えレバー（❸）を ⟲ にしてください。

知識

- 内外気切り替えレバー（❸）を ⟲ にして長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき内外気切り替えレバー（❸）を ⟲ にしてください。
- 冷えてきたら温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドして、お好みの温度に調整してください。



除湿暖房するとき（曇り止め）

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 状況に応じて温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 状況に応じてファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

換気するとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 状況に応じて温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 状況に応じてファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“OFF”にする

ガラスの曇りを取るとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 状況に応じて温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 状況に応じてファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。

- ファン調整スイッチ（❹）で風量を増す
- 温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドする

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整レバー（❷）を一番左（最低温）に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にすると、曇り取りと同時に足元にも送風します。

外気が汚れているときは

- 一時的に内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。

マニュアルエアコンの取扱いについて

⚠ 警告

● eco IDLE によるアイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

（ガラスの曇りを取るとき→ 297 ページ）

知識

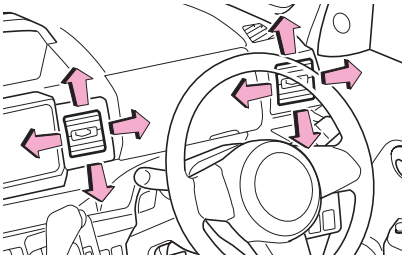
eco IDLE によるアイドリングストップ中にエアコンを作動させるには

● アイドリングストップ中はエアコンの冷房・除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- eco IDLE OFF スイッチを押す

（eco IDLE（エコアイドル）→ 279 ページ）

風向きの調整

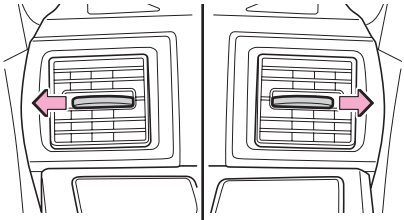
吹き出し口



左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

● ツマミを動かして調整します。

吹き出し口の開閉



〈助手席側〉 〈運転席側〉

▼ 左右吹き出し口

ツマミを矢印の方向いっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

知識

● 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

各ダイヤル／レバースイッチの使いかた

❶ 吹き出し口切り替えダイヤル

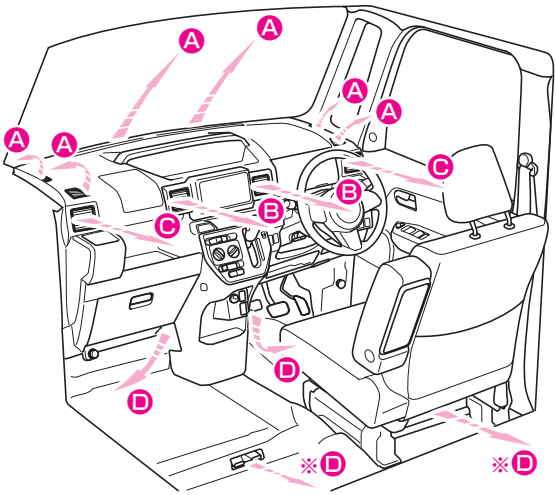
ダイヤルを左右に回して、吹き出し口を切り替えます。

● 風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル位置					
吹き出し口	B C	B C D	D (A) (C)	A D (C)	A (C)

(　)は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

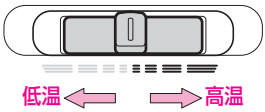
● 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を ⁂ または ⁂ に切り替えないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識

USE WITH

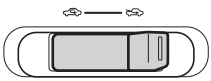
●このマークは、吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を または に合わせるときに内外気切り替えレバー（❸）を に合わせて使用することをおすすめするためのものです。
に合わせることでガラスが曇りにくくなります。

❷ 温度調整レバー



レバーを左右にスライドして、温度を調整します。

❸ 内外気切り替えレバー



レバーをスライドして内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環（）

●外気をしゃ断している状態です。
トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入（）

●外気を導入している状態です。
通常はこの位置でお使いください。

⚠ 注意

●“内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は“外気導入”を使用してください。
●トンネルや渋滞時などは、“内気循環” にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
●吹き出し口切り替えダイヤル（❶）が 、 また のとき “内気循環” にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。

知識

●エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

❹ ファン調整スイッチ

吹き出し口からの風量を調整します。

● 4 段階の切り替えができます。

❺ エアコンスイッチ

● ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。

- 作動表示灯が点灯します。

● もう一度押すとエアコンが停止します。

- 作動表示灯が消灯します。

知識

● 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

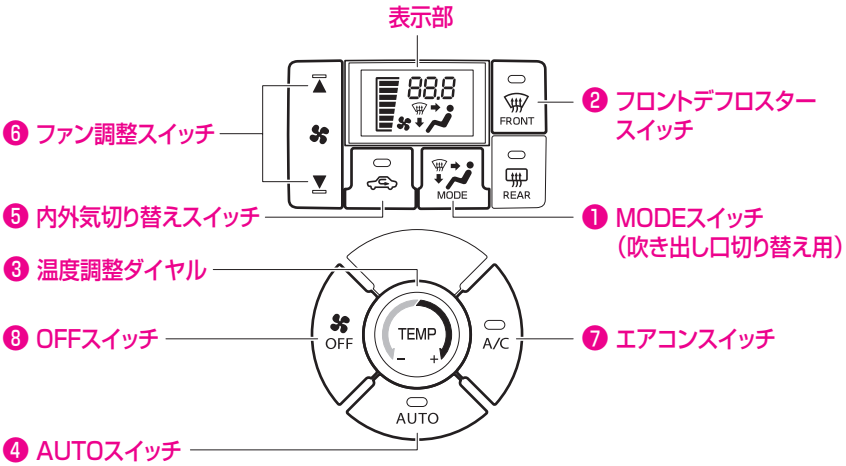
● 停車時（eco IDLE によるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。

オートエアコン

オプション / グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロールパネル



オートエアコンの使いかた

通常の使いかた

▼ 操作方法

1 エンジンを始動し、AUTO スイッチ（❹）を押す

- スイッチを“ON”にすると、吹き出し口・風量・および内外気切り替えが自動的に調整されます。

2 温度調整ダイヤル（❸）で温度を調整する

3 停止するときは、OFF スイッチ（❽）を押す

▼ 冷房・除湿をするときは

- エアコンスイッチ（❼）を押す

知識

- 設定温度は 25℃を目安に、お好みで調整してください。
  乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を 25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。

ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

▼ 操作方法

1 フロントデフロスタースイッチ（❷）を押すと、吹き出し口が切り替わる

- 自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。

2 スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻る

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ファン調整スイッチ（❻）を操作して、風量を増す
  - 温度調整ダイヤル（❸）を操作して、設定温度を上げる

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整ダイヤル（❸）を最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- フロントデフロスタースイッチ（❷）が“ON”のときは、eco IDLE によるアイドリングストップをしません。
- eco IDLE によるアイドリングストップ中にフロントデフロスタースイッチ（❷）を“ON”にすると、エンジンが再始動します。

外気が汚れているときは

- 一時的に“内気循環”にしてください。

換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

▼ 操作方法

1 内外気切り替えスイッチ（❺）を外気導入（作動表示灯が消灯）にする

2 MODE スイッチ（❶）を押して、“ ”に切り替える

オートエアコンの取扱いについて

⚠ 警告

- eco IDLE によるアイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

（ガラスの曇りを取るとき→ 303 ページ）

知識

- エアコンの操作や室内温度により、eco IDLE によるアイドリングストップをしない場合や、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

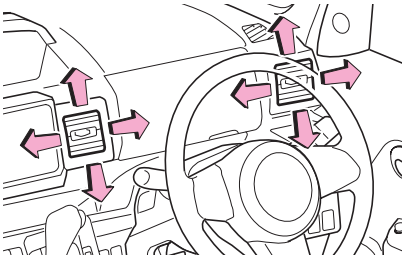
eco IDLE によるアイドリングストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリングストップ中はエアコンの冷房・除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFF スイッチを押す

（eco IDLE（エコアイドル）→ 279 ページ）

風向きの調整

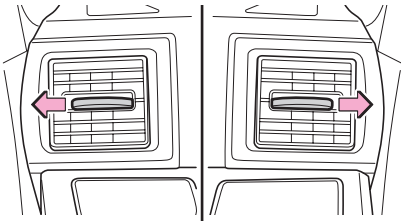
吹き出し口



左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

- ツマミを動かして調整します。

吹き出し口の開閉



〈助手席側〉 〈運転席側〉

▼ 左右吹き出し口

ツマミを矢印の方向いっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

知識

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

各ダイヤル／スイッチの使いかた

❶ MODE（吹き出し口切り替え）スイッチ

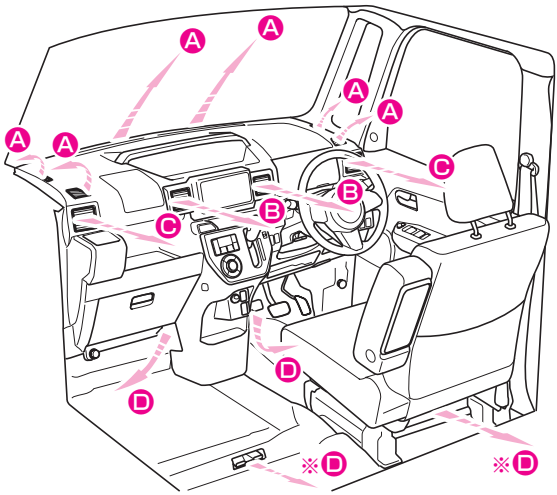
スイッチを押すごとに、吹き出し口が「→ → → 」の順に切り替わります。

- 選択された吹き出し口が表示部に表示されます。
- 風量は吹き出し口によって異なります。

表示				
吹き出し口	B C	B C D	D (A) (C)	A D (C)

(　)は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置



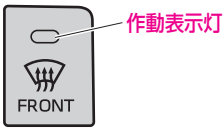
※はタイプ別装備

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を に切り替えないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

❷ フロントデフロスタースイッチ



- スイッチを押すと、吹き出し口が切り替わり、自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。
  - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻ります。
  - 作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

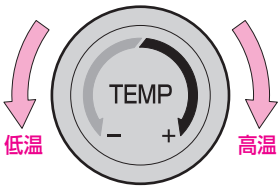
ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識

- スイッチが“ON”のときは、eco IDLE によるアイドリングストップをしません。
- eco IDLE によるアイドリングストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。
（eco IDLE（エコアイドル）→ 279 ページ）

❸ 温度調整ダイヤル



ダイヤルを左右に回して、設定温度を調整します。

- 設定温度が表示部に表示されます。

知識

- 設定温度を 18℃～ 32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

❹ AUTO スイッチ

スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。

● 作動表示灯が点灯します。

知識

AUTO スイッチが“ON”のときは

● 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度 AUTO スイッチを押してください。

● 吹き出し口が ⁂ または ⁂ で、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。

● 吹き出し口が ⁂ または ⁂ で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

● AUTO スイッチが“ON”のときで、eco IDLE によるアイドリングストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

（eco IDLE（エコアイドル）→ 279 ページ）

❺ 内外気切り替えスイッチ

スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環（作動表示灯が点灯）

● 外気をしゃ断している状態です。
トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入（作動表示灯が消灯）

● 外気を導入している状態です。
通常はこの位置でお使いください。

⚠ 注意

● “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。
● トンネルや渋滞時などは、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。

知識

● 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
● エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

❻ ファン調整スイッチ

吹き出し口からの風量を調整します。

● 風量が表示部に表示されます。

▼ 風量を強くするには

● スイッチの“▲”側を押します。

▼ 風量を弱くするには

● スイッチの“▼”側を押します。

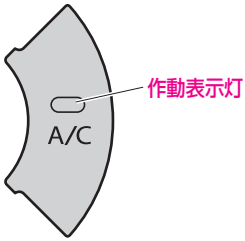
▼ ファンを停止するときは

● OFF スイッチ（❽）を押します。

知識

● 吹き出し口が ⁘ または ⁘ で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動する場合があります。
● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

❼ エアコンスイッチ



- ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。
  - 作動表示灯が点灯します。
- もう一度押すとエアコンが停止します。
  - 作動表示灯が消灯します。

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 停車時（eco IDLE によるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
  冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。

❽ OFF スイッチ

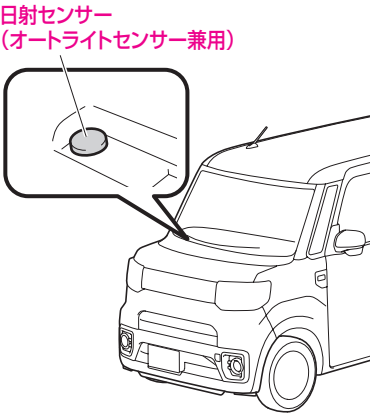
スイッチを押すと、空調機能が停止します。

温度調節センサー

オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

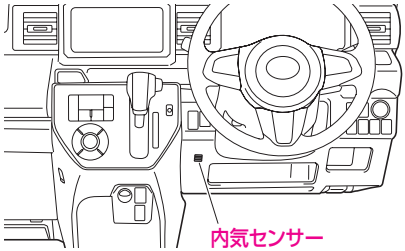
日射センサー

日射量を検知します。



内気センサー

室内温度を検知します。



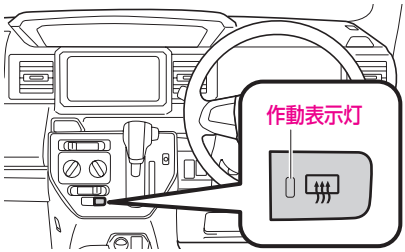
知識

- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

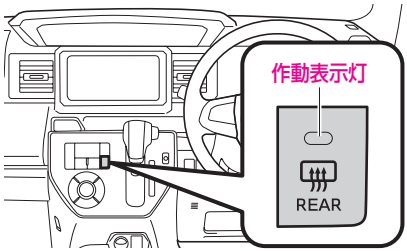
リヤウインドデフォッガースイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

マニュアルエアコン装着車



オートエアコン装着車



- スイッチを押すと、リヤウインドガラスが暖められ、曇りを取ることができます。
  - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
  - 作動表示灯が消灯します。
- ヒーテッドドアミラー装備車では、リヤウインドガラスと同時にドアミラーも暖められ、ミラーについた曇りを取ることができます。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

知識

リヤウインドガラス内面を清掃するときは

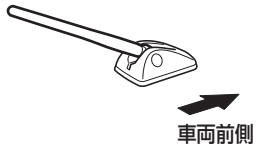
- リヤウインドガラス内面の電熱線を傷付けないでください。

オートエアコン装着車

- スイッチを押すと、約 15 ～ 60 分後に自動的に作動が停止します。
  （外気温や車両の走行状態によって作動時間が異なります）

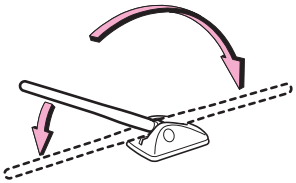
オーディオ

ルーフアンテナ



▼ 使用方法

ラジオを受信するときは、アンテナを図のように立てた状態にしてください。



▼ 倒しかた

前後方向に倒すことができます。

▼ 取り外しかた、取り付けかた

アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回します。

- 取り付け時はしっかりと締め付けてください。

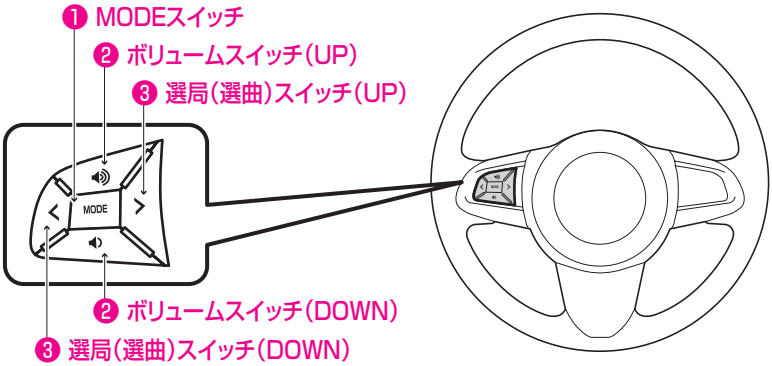
⚠ 注意

- アンテナは横方向への調整はできません。
- アンテナを取り扱うときは、無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。
- 下記のようなときは、アンテナを取り外してください。破損したり、変形したりする場合があります。
  - 自動洗車機使用時
  - ボデーカバーをかけるとき
  - 降雪時に長時間駐車するとき
- 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるときは、アンテナを倒してください。
- 洗車時などアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。

オーディオ操作用ステアリングスイッチ

オプション / グレード別装備

エンジンスイッチが“ON”または“ACC”のとき、ハンドルにあるスイッチでオーディオを操作することができます。



知識

- オーディオ、ナビゲーションシステムにより、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属している各取扱説明書をお読みください。

バックカメラ

オプション / グレード別装備

知識

- ナビゲーションに付属している取扱説明書もあわせてお読みください。

バックカメラは車を後退させるとき、ナビゲーションの画面に車両後方の映像を表示します。

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- 後退するときは、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- バックカメラのレンズの特性により、映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。
- バックカメラを過信しないでください。一般の車両と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。特に周辺に駐車している車両や障害物などに接触しないように注意してください。
- 映像だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て後退すると車両をぶつけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 次のような状況では使用しないでください。
  - 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - タイヤチェーンを使用しているとき
  - バックドアが完全に閉まっていないとき
  - 坂道など平坦でない道路
- 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目視で確認してから運転してください。

⚠ 注意

● バックカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- バックカメラ周辺にはカメラの視野に影響を及ぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
- バックカメラ周辺を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃をあたえないでください。バックカメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- バックカメラは取り外したり、分解、改造をしないでください。
- バックカメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- バックカメラ周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
- バックカメラのカバーは樹脂部品ですので、ワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときに、お湯をかけるなどして急激な温度変化をあたえないでください。
- バックカメラ周辺をぶつけたときは、バックカメラが故障しているおそれがありますので、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

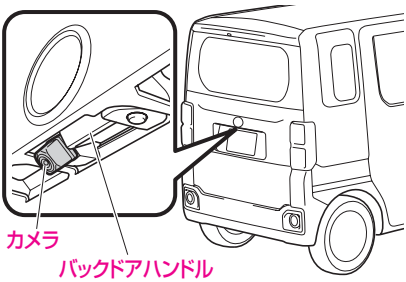
知識

● バックカメラ装着車は、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

バックカメラのレンズが汚れている場合

● バックカメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を映すことができません。水滴、雪、泥などの汚れが付着したときは水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

バックカメラの位置



バックドアハンドルの横に取り付けられています。

バックカメラの使い方

エンジンスイッチが“ON”のときに、シフトレバーを Ⓡ レンジにすると、ナビゲーションのバックモニター画面に車両後方の映像を表示します。

● シフトレバーを Ⓡ レンジ以外にすると、元の画面に戻ります。

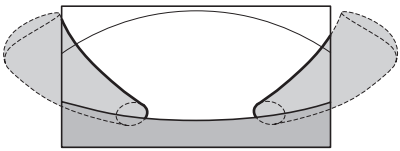
知識

● バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

画面に映る範囲

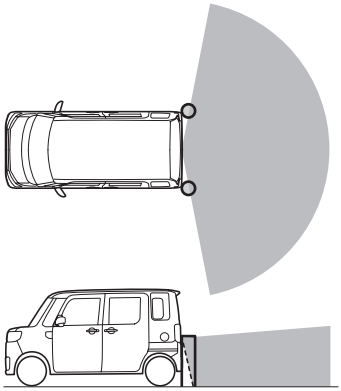
リヤバンパー後端から車両の後方（下図の範囲）が映ります。

映像



バンパーの両端付近は映りません

映る範囲



知識

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
  - 暗いところ（夜間など）
  - レンズ付近の温度が高い、または低いとき
  - バックカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
  - バックカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
  - 太陽やヘッドランプの光が直接バックカメラのレンズに当たったとき

パノラマモニター

オプション / グレード別装備

知識

● ナビゲーションに付属している取扱説明書もあわせてお読みください。

パノラマモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してナビゲーションの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。
画面を左右 2 分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。
また、レフト & ライトサイドビューやレフトサイド & リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。

● 画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。

（画面に映る範囲→ 321 ページ）

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

● 後退するときは、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
● カメラのレンズの特性により、映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。
● パノラマモニターを過信しないでください。一般の車両と同様、必ず周辺の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車両や障害物などに接触しないように注意してください。
● 映像だけを見ながら運転することは絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て運転すると車両をぶつけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。
● 次のような状況では使用しないでください。
  - 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - タイヤチェーンを使用しているとき
  - バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ドアミラーを格納しているとき
  - 坂道など平坦でない道路
● 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目視で確認してから運転してください。

⚠ 注意

● カメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
- カメラ周辺にはカメラの視野に影響を及ぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
- カメラ周辺を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃をあたえないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラは取り外したり、分解、改造をしないでください。
- カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- カメラ周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
- カメラのカバーは樹脂部品ですので、ワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときに、お湯をかけるなどして急激な温度変化をあたえないでください。

● 次の場合は、カメラが故障しているおそれがありますので、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- カメラ周辺をぶつけたとき
- トップビューの映像が大きくずれているとき

知識

● バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

● パノラマモニター対応純正ナビゲーション以外を装着した場合は、パノラマモニターが正常に作動しないことがあります。

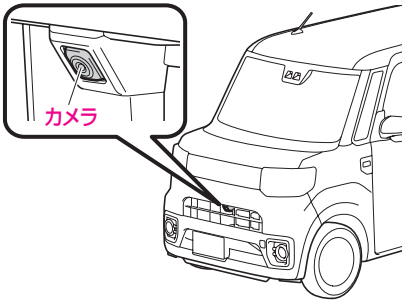
カメラのレンズが汚れている場合

● カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を映すことができません。水滴、雪、泥などの汚れが付着したときは水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

カメラの位置

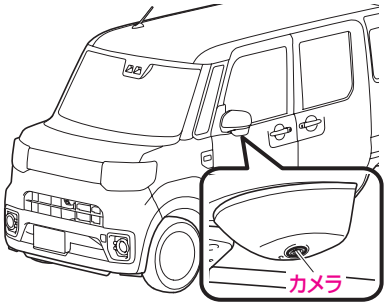
フロントカメラ

フロントグリルセンター部に取り付けられています。



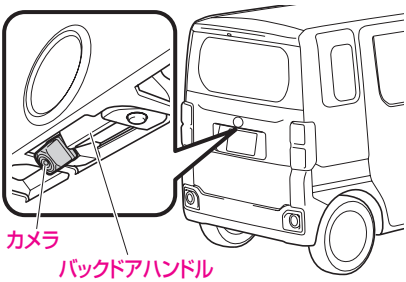
サイドカメラ

ドアミラー下部に取り付けられています。



バックカメラ

バックドアハンドルの横に取り付けられています。



パノラマモニターの使いかた

エンジンスイッチが“ON”のときに、シフトレバーの位置や車速、ナビゲーションの操作に応じて、ナビゲーションの画面に映像を表示します。詳しくはナビゲーションに付属している取扱説明書をお読みください。

知識

- バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

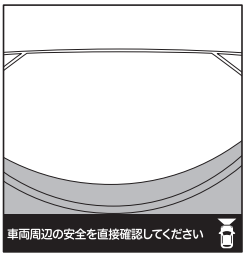
画面に映る範囲

フロントビュー

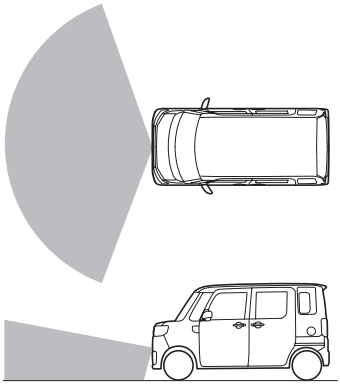
車両の前方（下図の範囲）が映ります。

フロントビュー

▼ 映像

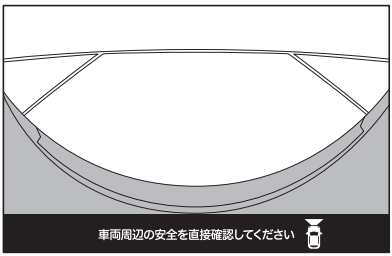


▼ 映る範囲

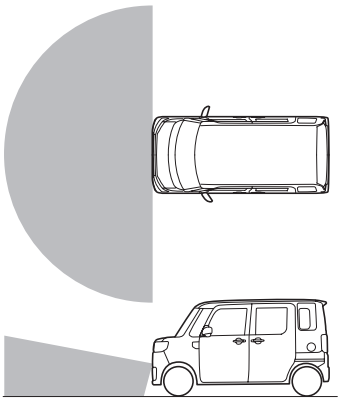


フロントワイドビュー

▼ 映像



▼ 映る範囲

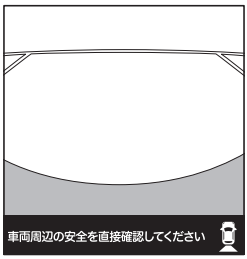


リヤビュー

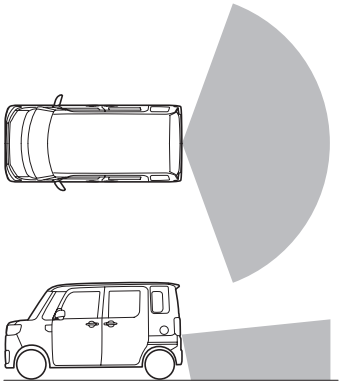
車両の後方（下図の範囲）が映ります。

リヤビュー

▼ 映像

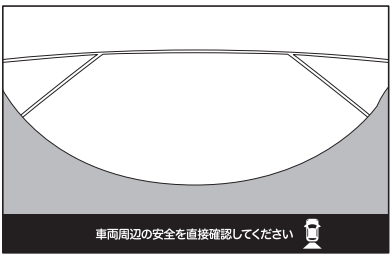


▼ 映る範囲

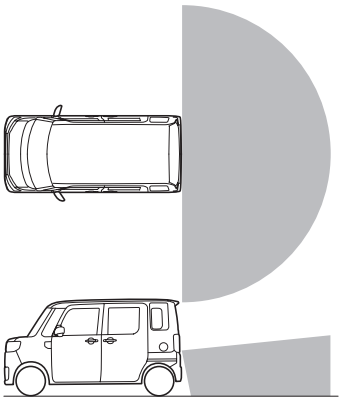


リヤワイドビュー

▼ 映像



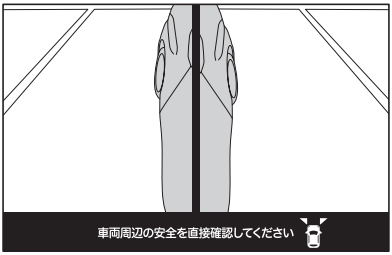
▼ 映る範囲



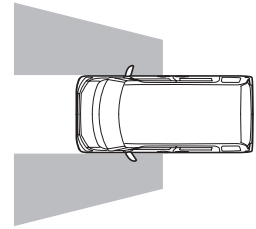
サイドビュー

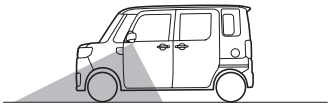
車両の側方（下図の範囲）が映ります。

▼ 映像



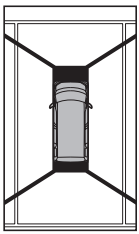
▼ 映る範囲





トップビュー

車両の周囲が下図のように映ります。



知識

- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗員人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
  - 暗いところ（夜間など）
  - レンズ付近の温度が高い、または低いとき
  - カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
  - カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
  - 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たったとき

室内装備品

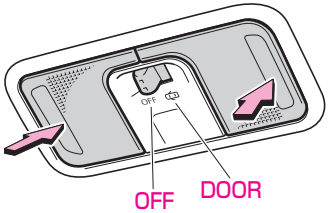
室内照明

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

フロントパーソナルランプ



フロントパーソナルランプのレンズを押すと、スイッチの位置、ドアの開閉に関係なく点灯します。

もう一度押すと消灯します。

▼ スイッチが“OFF”のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

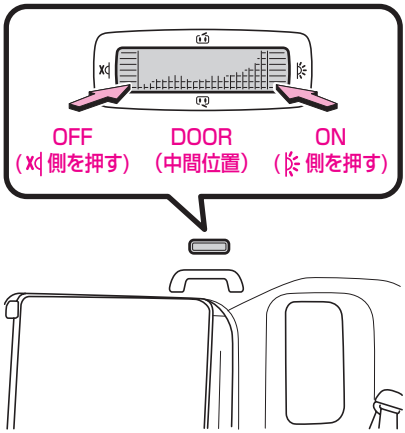
● レンズを押して点灯しているときは、消灯しません。

▼ スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

● レンズを押して点灯しているときは、ドア連動機能による消灯はしません。

リヤパーソナルランプ



▼ スイッチが“ON”のとき

ドアの開閉に関係なく点灯します。

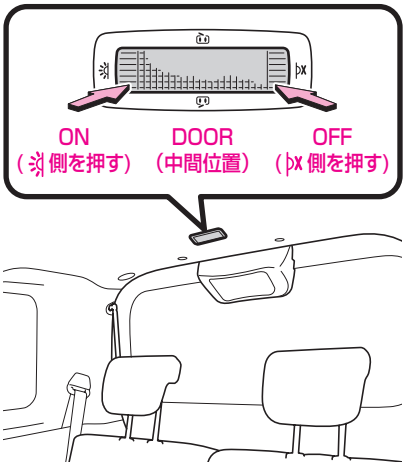
▼ スイッチが“OFF”のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

ラゲージルームランプ



▼ スイッチが“ON”のとき

ドアの開閉に関係なく点灯します。

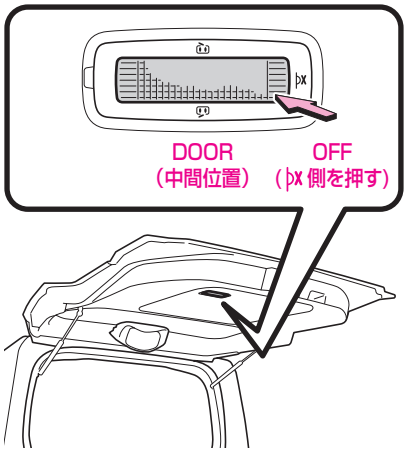
▼ スイッチが“OFF”のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

バックドアランプ



▼ スイッチが“OFF”のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

ドア連動機能

ドア操作、エンジンスイッチ操作に連動して、室内照明が点灯・消灯する機能です。

●スイッチ付き室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。

▼ エンジンスイッチの切り替え

エンジンスイッチ	室内照明
OFFまたはACC → ON	消灯
ON → ACCまたはOFF	約15秒間点灯後に消灯

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席ドアロック	室内照明
解錠 → 施錠	消灯(点灯中は減光後に)
施錠 → 解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
全閉 → いずれか開	点灯
いずれか開 → 全閉	約15秒後に消灯

知識

●室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

▼ ドア連動機能による点灯時

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”で、ドアをあけたまま約 10 分経過すると、自動的に消灯します。

●下記のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
- すべてのドアを閉めて、再度開ける
- エンジンスイッチを“ON”にする

▼ 室内照明のスイッチが“ON”のとき

フロントパーソナルランプ
リヤパーソナルランプ
ラゲージルームランプ

エンジンスイッチが“OFF”で、室内照明のスイッチが“ON”のまま約 12 分経過すると、自動的に消灯します。

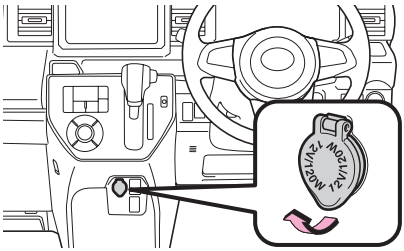
●下記のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
- キーレスエントリーによる施錠・解錠
- キーフリーシステムによる施錠・解錠
- ドアの開閉
- エンジンスイッチを“ACC”、または“ON”にする

アクセサリーソケット

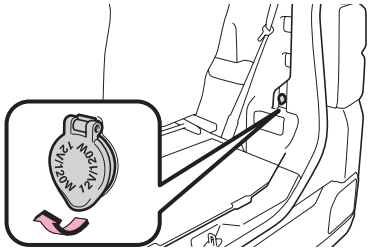
電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

● カバーを開け、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

フロント



リヤ



⚠ 注意

● 電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。

● アクセサリーソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを停止した状態で使用しないでください。

● エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

知識

● アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
（eco IDLE（エコアイドル）→ 279 ページ）

● 故障を防ぐため、電化製品はダイハツ純正用品をおすすめします。

アームレスト

運転席

▼ 使用方法

前に倒して使用します。

⚠ 注意

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

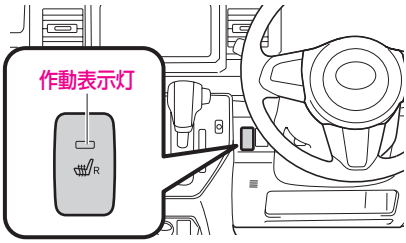
知識

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アームレストも同時に動きます。
- 小物入れとして使用することもできます。

（アームレストボックス→ 336 ページ）

運転席シートヒーター

オプション / グレード別装備



エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

- スイッチを押すと、運転席シートが暖まります。
  - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
  - 作動表示灯が消灯します。

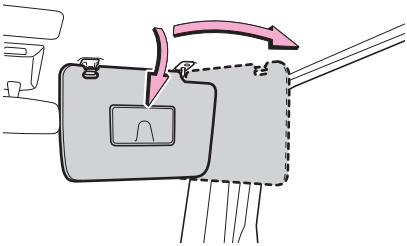
⚠ 注意

- 下記に相当されるかたがご使用になるときは、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
  - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
  - 皮ふの弱いかた
  - 疲労の激しいかた
  - ねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用されたかた
- 毛布や座布団など保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。
- 凸凹のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。
- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- 液体をこぼしたときは、速やかに乾いた布で拭き取ってください。
- 使用中に異常が発生したときは、ただちにスイッチを“OFF”にし、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めて長時間使用しないでください。

サンバイザー



直射日光などでまぶしいときに使用します。
側面に移動させて使用することもできます。

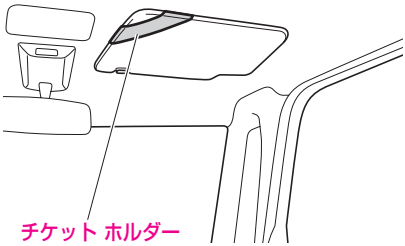
▼ 使用方法

矢印の方向に動かします。

知識

- サンバイザーと天井の間にものをはさまないでください。 発進時などに物が落ちるおそれがあります。

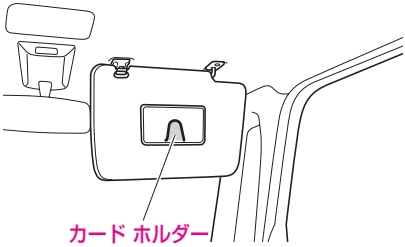
チケットホルダー



チケット類を収納することができます。

カードホルダー

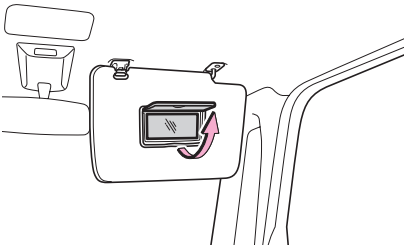
カード類を収納することができます。



知識

- サンバイザーのチケットホルダー、カードホルダーには、使用用途以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあります。

バニティーミラー



▼ 使用方法

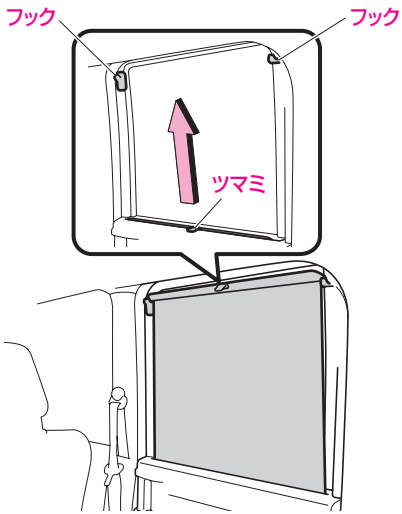
カバーを矢印の方向に開けます。

注意

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

格納式リヤドアサンシェード

オプション / グレード別装備



▼ 使用方法

ツマミをしっかり持って上方向にゆっくり引き出し、フックに引っ掛けます。

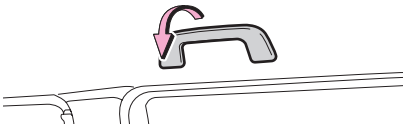
▼ 格納するとき

ツマミをしっかり持ってフックから外し、ゆっくり下げて元の位置に格納します。

⚠ 注意

- 操作するときは、ツマミを最後までしっかり持って操作してください。途中で手を離すと、巻き戻ったサンシェードで手や指をはさむなど思わぬけがをするおそれがあります。
- サンシェードを上以外の方向に引っ張らないでください。破損の原因になります。

格納式アシストグリップ



引き起こして使用します。

▼ 使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。

⚠ 注意

- 特に重たい物や、大きな物を格納式アシストグリップにかけないでください。格納式アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

収納装備

収納装備はグレードやオプション装備により、一部異なることがあります。

⚠ 警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。 炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。 ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

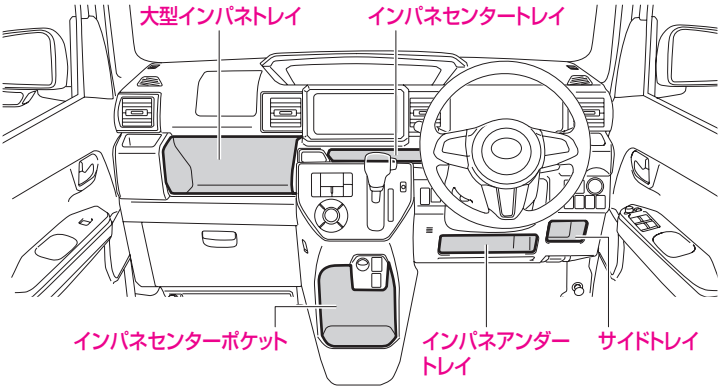
⚠ 注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。 炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。 思わぬ事故につながるおそれがあります。

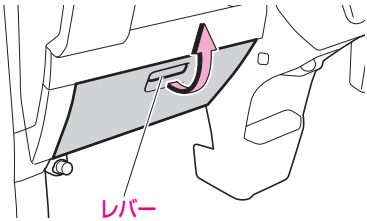
フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。 急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。
- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。 変形や破損のおそれがあります。

インパネトレイ、インパネポケット



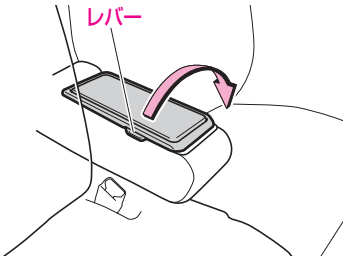
グローブボックス



▼ 使用方法

- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

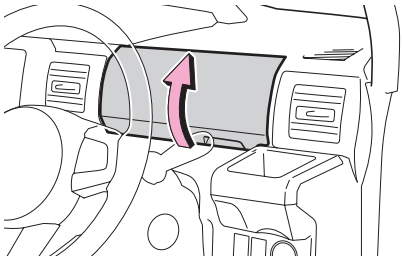
アームレストボックス



▼ 使用方法

- アームレストを倒して、レバーを押して開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

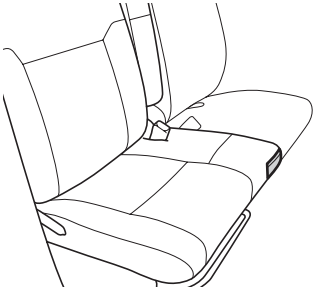
インパネアッパーボックス



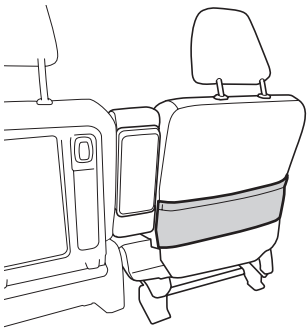
▼ 使用方法

- フタを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

運転席シートクッションポケット



運転席シートバックポケット

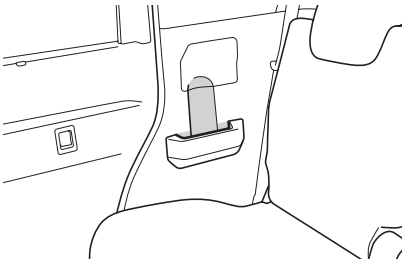


⚠ 注意

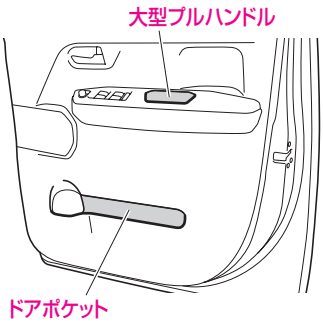
運転席シートバックポケット、シートクッションポケットについて

● シート表皮を損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

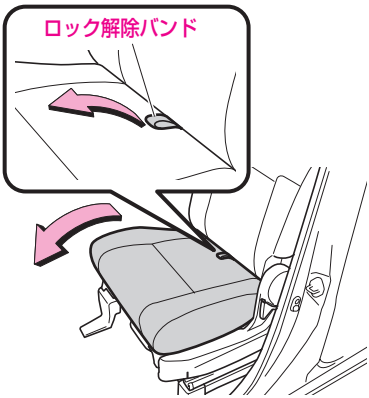
後席クォーターポケット（左右）



大型プルハンドル、ドアポケット

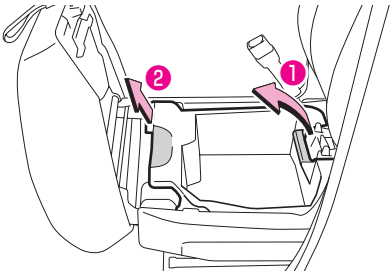


助手席アンダーボックス



▼ 取り外しかた

1 ロック解除バンドを引いて、シートクッションを起こす



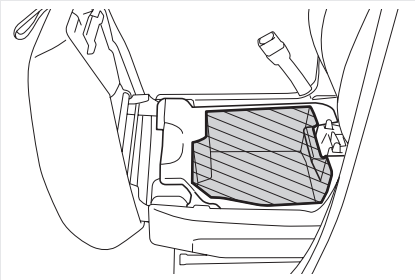
2 アンダーボックスの後端部（❶）を上げてから、前端部（❷）を引き上げて取り外す

▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

⚠ 注意

- 図の斜線部分よりも大きな荷物が入っていないことを確認してください。高さのある荷物を積み込むとシートクッションが固定されないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- 特に重たい物を積まないでください。ボックスが破損するおそれがあります。（最大荷重量約 3kg）

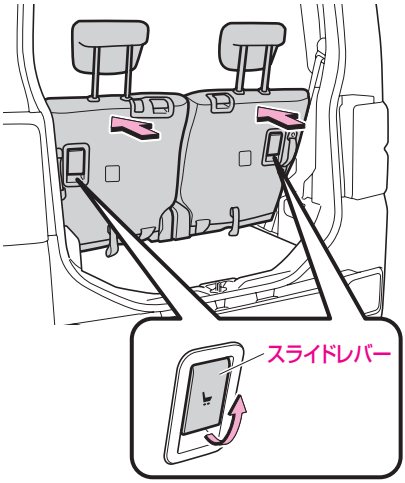
ラゲージルーム内装備

ラゲージアンダートランク

1 バックドアを開ける

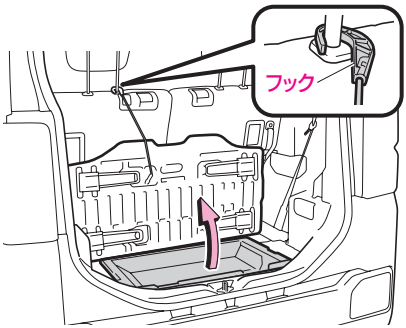
（バックドア→ 116 ページ）

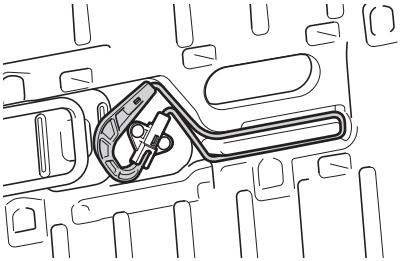
2 リヤシートの背もたれ後方にあるスライドレバーを引き上げながら背もたれを持って、リヤシートを前方へ動かす



3 デッキボードを持ち上げる

● フックをデッキボードから外し、リヤシートの助手席側ヘッドレストにかけておくと、荷物などを置くときに便利です。





▼ フックの収納方法

図のようにデッキボードに収納します。

⚠ 注意

● ラゲージルームでの作業時は、リヤシートをスライドさせないでください。手を挟むなどけがをするおそれがあります。

上下 2 段調節式デッキボード

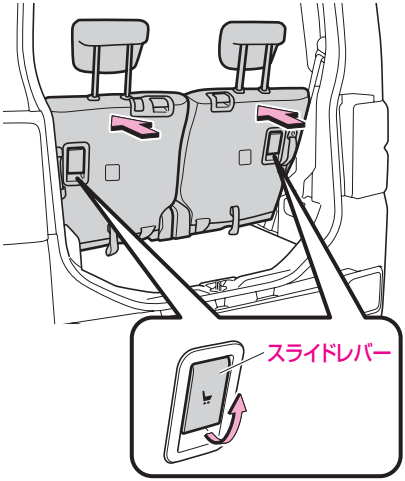
オプション / グレード別装備

デッキボードを上段モードにするには

1 バックドアを開ける

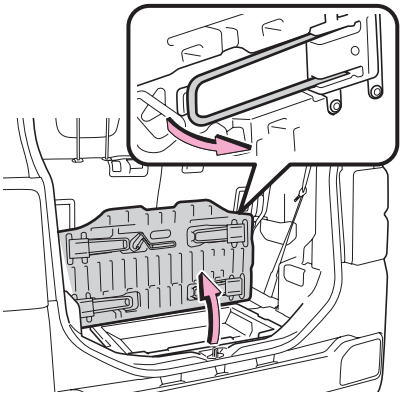
（バックドア→ 116 ページ）

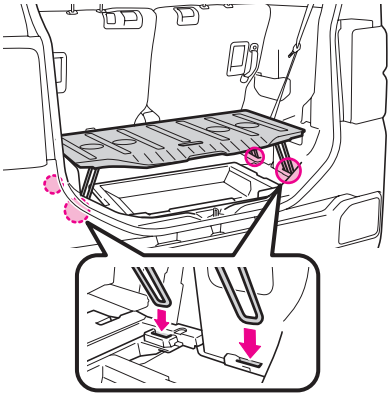
2 リヤシートの背もたれ後方にあるスライドレバーを引き上げながら背もたれを持って、リヤシートを一番前へ、スライドさせる



3 デッキボードを持ち上げて、脚をロックがかかる位置まで開く

● 他の脚も同じように開きます。





4 デッキボードの脚を確実に車両の溝に入れて固定する

- 大きな荷物を積むときは、リヤシートのリクライニングレバーで背もたれを前に倒します。

（シートアレンジ → 135 ページ）

⚠ 注意

- デッキボードの上に荷物を置かない場合は、デッキボードを上段モードにして使用しないでください。衝突されたときなどに外れて、乗員に当たって傷害につながるおそれがあります。
  デッキボードの上に荷物を置かずに使用する場合はシートの背もたれを起こして使用してください。
- デッキボードを上段モードにして使用するときは、以下のことをお守りください。
  - 荷物が転がらないように固定してください。
  - デッキボードに乗ったり、イスとして使用しないでください。
  - デッキボードを上段モードにしているときは、リヤシートを後方へスライドさせないでください。
  - リヤシートをフラットラゲージモード格納状態にしないでください。
    リヤシートを戻すときに、デッキボードに当たり破損するおそれがあります。

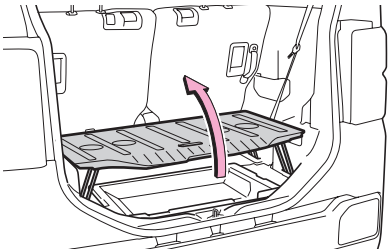
最大荷重量について

- 最大荷重量は約 20kg です。
  最大荷重量を超える荷物を積むと、デッキボードが変形や破損するおそれがあります。
- 最大荷重量内であっても荷重が一部分に集中する荷物は、デッキボードが変形や破損するおそれがありますので注意してください。

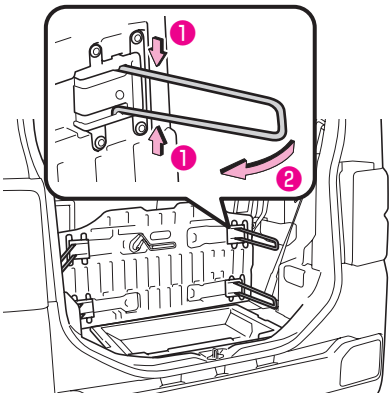
デッキボードをたたむには

1 バックドアを開ける

（バックドア→ 116 ページ）

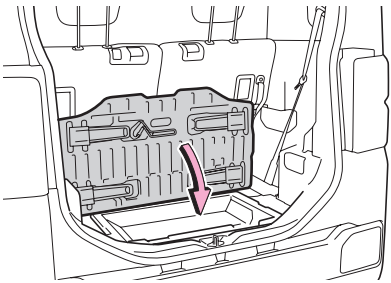


2 デッキボードを持ち上げる



3 脚の付け根を握って（❶）折りたたむ（❷）

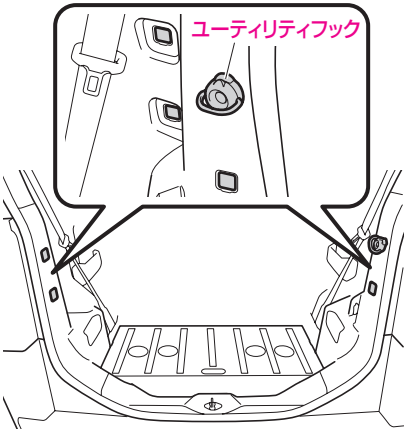
● 他の脚も同じようにたたみます。



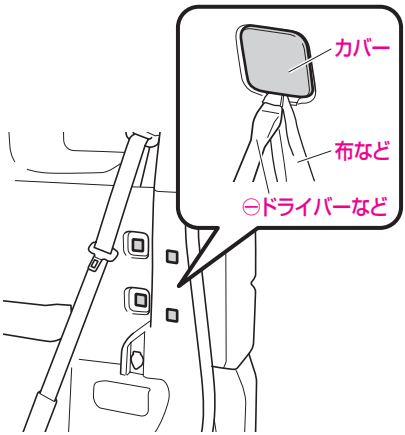
4 デッキボードを倒す

ユーティリティフック

オプション / グレード別装備



左右それぞれ４ヵ所（合計８ヵ所）の取付位置に、４つのユーティリティフックを取り付けて、いろいろな荷物を固定することができます。



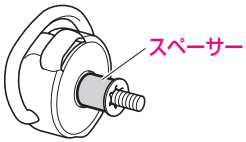
▼ ユーティリティフックの取り付け方法

1 ユーティリティフックカバーに ⊖ドライバーなどを差し込んで取り外す

知識

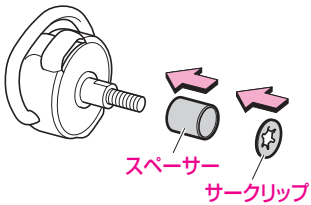
● 取り外したユーティリティフックカバーは大切に保管してください。

2 ユーティリティフックにスペーサーが付いていることを確認する

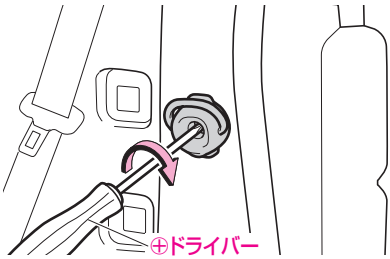


知識

● スペーサーが外れているときは、スペーサーとサークリップをユーティリティフックに取り付けます。部品の取付について不慣れな方は、ダイハツサービス工場にご相談ください。



3 ⊕ドライバーでユーティリティフックを確実に取り付ける



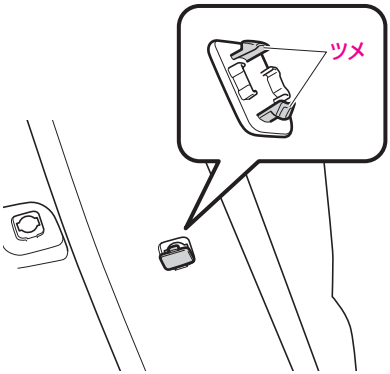
⚠ 注意

最大荷重量について

● 下記の重さ以上の物をかけないでください。
- 走行時に使用されるときは約 2kg です。
- 駐車時に使用されるときは約 10kg です。

知識

● 固定後もフックの向きは自由に動かすことができます。
● 走行中に荷物が脱落しないように確実に固定してください。



▼ ユーティリティフックの取り外し方法

1 ⊕ドライバーでユーティリティフックを取り外す

2 ユーティリティフックカバーを取り付ける

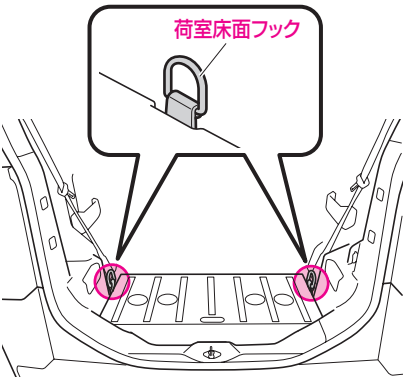
- カバーのツメの向きが上下になるように取り付けます。

知識

- ユーティリティフックを使用しないときは、大切に保管してください。

荷室床面フック

オプション / グレード別装備



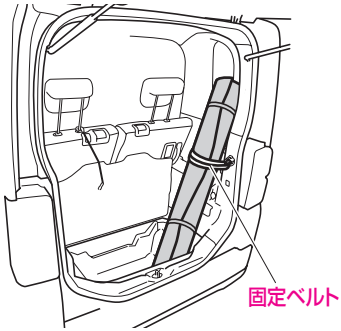
荷室床面フックを使用して荷物を固定することができます。

⚠ 注意

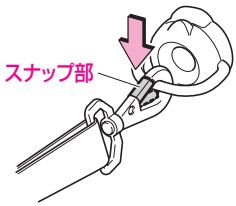
- 荷室床面フックを使用しないときは外側に倒してください。内側に倒れているとデッキボードを持ち上げたときに損傷するおそれがあります。

固定ベルト

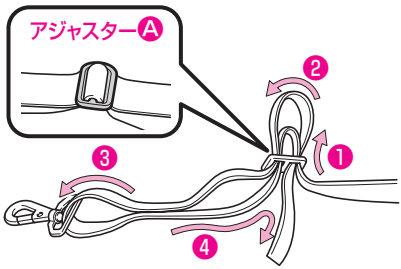
オプション / グレード別装備



- 固定ベルトをユーティリティフックや荷室床面フックにかけて、荷物を締め付けて固定することができます。
- 固定ベルトは、ラゲージアンダートランクにあります。



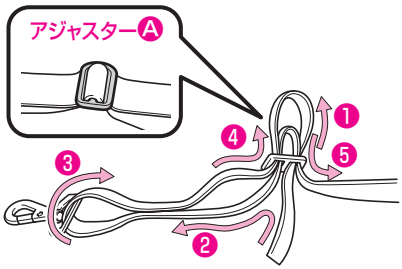
- スナップ部を押すとフックから取り外すことができます。



▼ 固定ベルトの縮めかた

1 固定ベルト（❶）をアジャスターⒶに入れて、たわませる

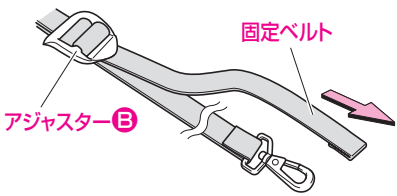
2 固定ベルト（❷❸❹）の順にベルトを引き込む



▼ 固定ベルトの伸ばしかた

1 固定ベルト（❶）をアジャスターⒶに入れて、たわませる

2 固定ベルト（❷❸❹❺）の順にベルトを引き込む



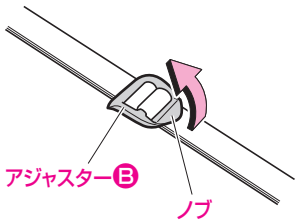
▼ 荷物の固定方法

アジャスターⒷの固定ベルトを引っ張る。

● 固定ベルトが縮み、荷物が固定されます。

知識

● 固定ベルトを強く引くと荷物が破損または変形するおそれがあります。



▼ 荷物のゆるめかた

アジャスターⒷのノブを引き上げる。

● 固定ベルトが伸びて荷物がゆるみます。

ドリンクホルダー

⚠ 注意

- 飲み物は振動で中身がこぼれるおそれがありますので、フタをしてこぼれないようにしてください。特に温かい飲み物は、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ドリンクホルダーには、使用用途以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。
- ペットボトルは、形状によってはしっかり固定されない場合があります。
  しっかり固定されないままで走行すると、振動でペットボトルが落下し、運転のさまたげになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

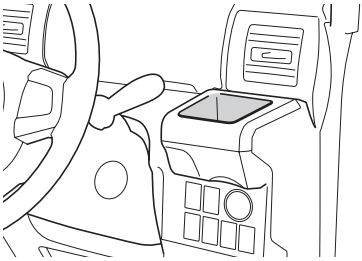
知識

- ペットボトルの大きさや形状によっては収納できないことがあります。

カップホルダー

ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

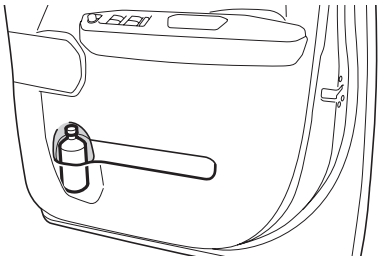
インパネ（運転席、助手席）



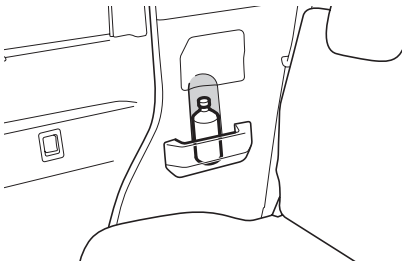
ボトルホルダー

ペットボトルなどを置くときに便利です。

フロントドア左右



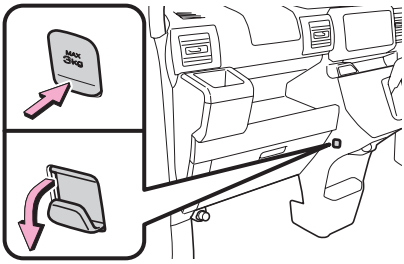
後席シート左右



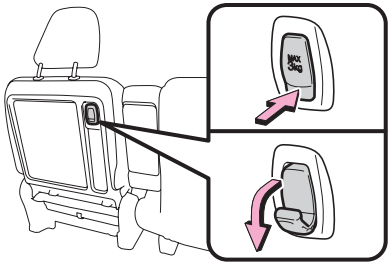
ショッピングフック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。
インストルメントパネル（助手席側）・助手席シートバックにあります。

インストルメントパネル（助手席側）



助手席シートバック



▼ 使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、逆に反転させフックを格納してください。

⚠ 注意

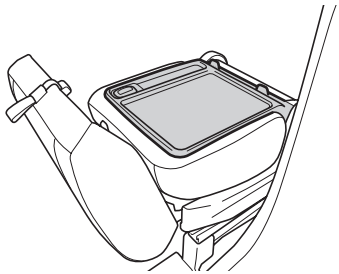
- 使用しないときは元に戻しておいてください。

最大荷重量について

- 特に重たい物や、大きな物をショッピングフックにかけないでください。
  フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。
  - インストルメントパネル（助手席側）約 3kg
  - 助手席シートバック約 3kg

助手席シートバックテーブル

（テーブルモードにするには
→ 137 ページ）



MEMO

車のお手入れ

日常のお手入れ
ボデー、塗装面の
お手入れ …… 354
室内のお手入れ …… 356
簡単な点検・部品の交換
エンジンルーム内の点検 … 358
消耗品の補給、交換 …… 362
タイヤの点検 …… 365
ワイパーの交換 …… 372
エアコンガス、
フィルターの交換 …… 376
ヒューズの交換 …… 377
電球（バルブ）交換 …… 380
キーの電池交換 …… 393

日常のお手入れ

ボデー、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデーカバーを付けるように心がけましょう。

車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コールタール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

知識

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

⚠ 注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。

洗車のしかた

1 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う
- 汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に流します。

2 水が乾かないうちにふき取る

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ルーフアンテナは取り外し、前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナを元通りに取り付けてください。
- ドアミラーは必ず格納し、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。洗車機によっては、ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアガラスやドア周りなどの開閉部分は高圧洗車は避けてください。
  - ドアガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

キーフリーシステム装着車

- フロントドア、バックドアのリクエストスイッチ、またはスライドドアのワンタッチスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

バックカメラ装着車、パノラマモニター装着車

- カメラ、またはカメラ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりカメラが破損したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠ 注意

- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。

キーフリーシステム装着車

- フロントドア、バックドアのリクエストスイッチ、またはスライドドアのワンタッチスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

知識

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

塗装部品のお手入れ

塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

知識

- 塗装部品の傷の補修をする場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミホイールのお手入れ

オプション / グレード別装備

アルミホイールはボデーの洗車と同じ要領で行い、ボデーと同じワックスでワックスがけをしてください。

注意

- アルミホイールにワックスがけをする際は、ホイールナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材などの汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインドガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- 助手席シートクッションのロック付近を清掃するときは、必ず水またはぬるま湯を含ませた布でふいてください。アルカリ性や酸性の洗剤を使用すると、クッションロックの故障や破損の原因となります。

⚠ 注意

- シートベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。変色・ひび割れの原因となります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。
- 液体芳香剤は、こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因となります。

車内に水などをかけないでください

- インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにダイハツサービス工場にご相談ください。

フロントウインドガラスの内側を清掃するとき（スマートアシストⅢ装着車）

- ステレオカメラにさわらないように注意してください。誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストⅢの誤作動や故障につながるおそれがあります。

スーパー UV & IR カットガラス（フロントドア）を清掃するときは

オプション / グレード別装備

- 汚れたら早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤や鋭利なもの、硬いもので清掃しないでください。室内側のコーティングを損傷させるおそれがあります。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、開閉を繰り返さないでください。

知識

- リヤウインドガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

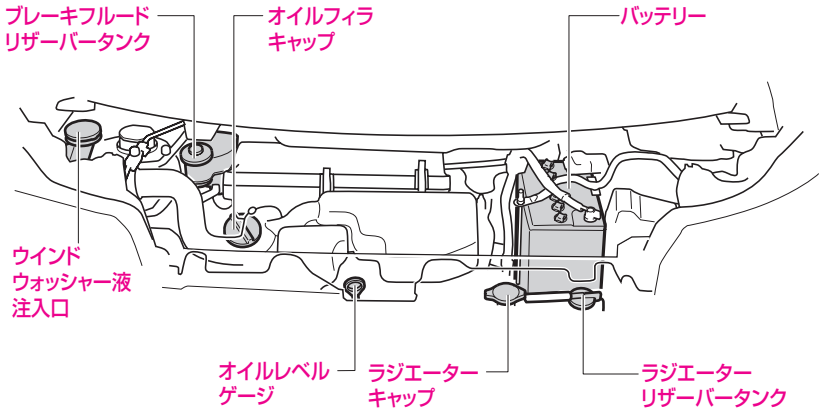
簡単な点検・部品の交換

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

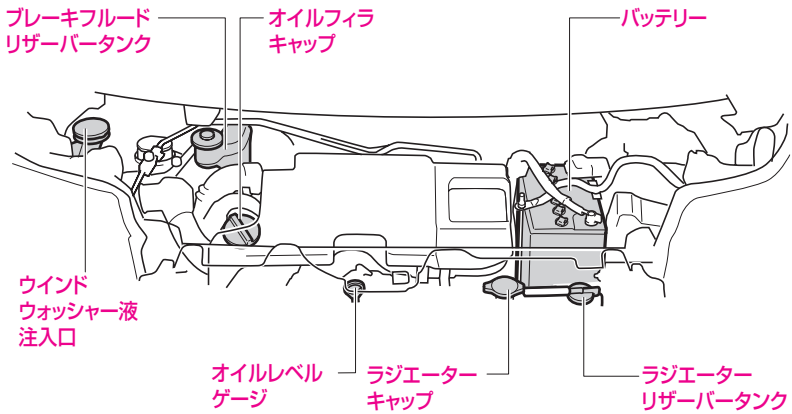
エンジンルーム内の点検

グレードの違い、注文装備も記載しています。

ターボ車以外

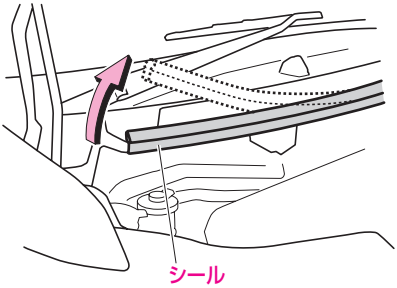


ターボ車



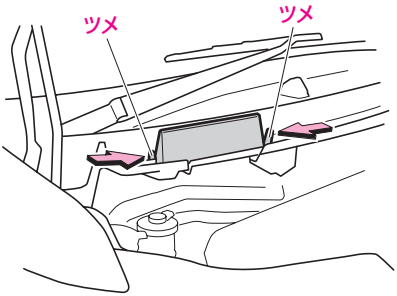
エンジンルームサービスカバー

ブレーキフルードの点検・交換をするときは、エンジンルームサービスカバーを取り外します。



▼ カバーの外しかた

1 車両の中央部あたりまで、シールをめくる



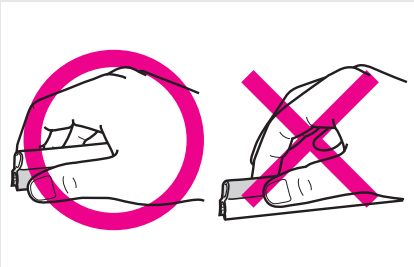
2 ツメを矢印の方向に押しながら、カバーを取り外す

▼ カバーの取り付けかた

逆の手順で行います。

⚠ 注意

- シールをめくるときは、下側の取り付け部を持ってください。上側を持ってめくると、シールが破れるなど破損するおそれがあります。



- シールを元に戻すときは、中央側から取り付けてください。端側から取り付けるとシールがたわみ、ボンネットが確実に閉まらない場合があります。

ボンネットの開閉

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、エンジンルームが大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、エンジンルームを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。
  - ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
  - お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。

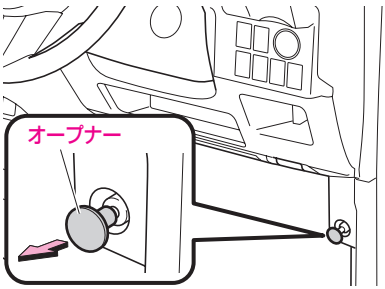
点検作業をしたあとは

- エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

ボンネットの開けかた

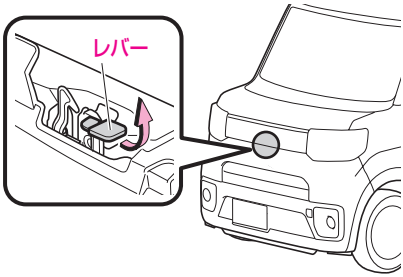
⚠ 注意

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

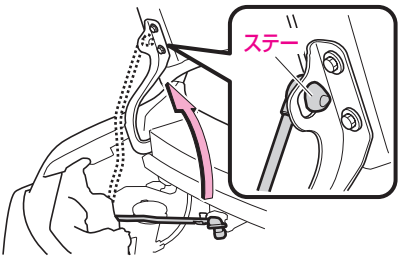


1 インストルメントパネル右下のオープナーを手前に引く

- オープナーを引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。



2 ボンネット前部のキャッチフックレバーを矢印の方向に引き上げる



3 ボンネットを持ち上げる

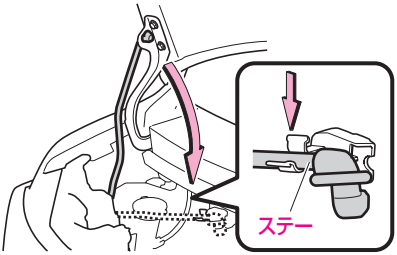
4 ステーを外し、ボンネットの固定穴に差し込む

5 ボンネットが確実に固定されたことを確認する

▼ ボンネットの閉めかた

1 ボンネットを片手で支える

2 ステーを外して元の位置へ戻す



3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

知識

● ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。

消耗品の補給、交換

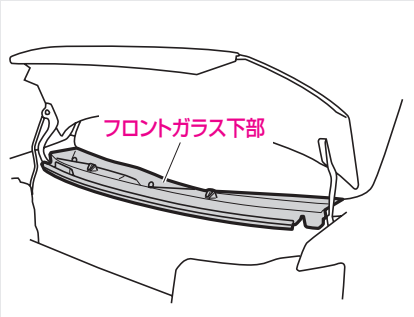
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

⚠ 警告

- エンジンルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

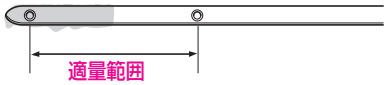
⚠ 注意

- エンジンルームを点検するときは、フロントガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。



エンジンオイル

エンジンオイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイルレベルゲージ

知識

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイルフィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

ラジエーターリザーバータンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 警告

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。

ウインドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、ダイハツ純正ウインドウォッシャー液を補給します。

⚠ 警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

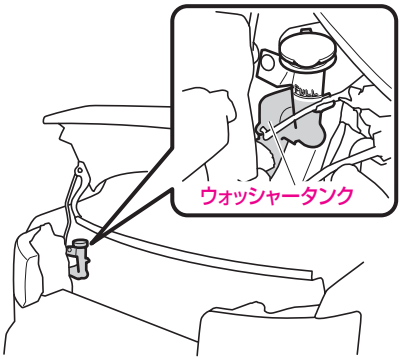
- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

知識

- ウインドウォッシャー液はダイハツ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウォッシャー液を“FULL”ライン以上入れないでください。
- ウインドウォッシャータンクはフロント、リヤ兼用です。

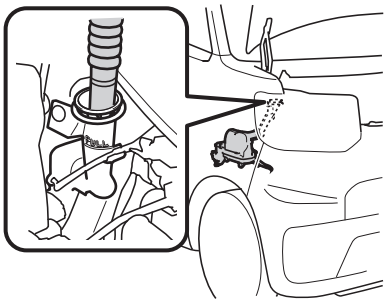
▼ 点検のしかた

ウォッシャータンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して“FULL”まで補給します。



タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、法的に義務付けられています。最低でも月に 1 回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）

⚠ 警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象 * によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km 以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20 ～ 30kPa（0.2 ～ 0.3 {kgf/cm^2}）空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

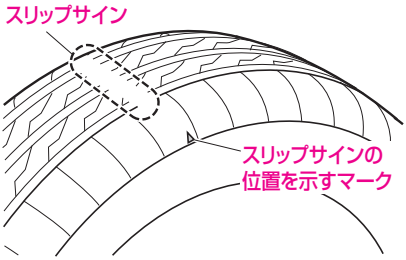
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠ 警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、ダイハツサービス工場で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

⚠ 警告

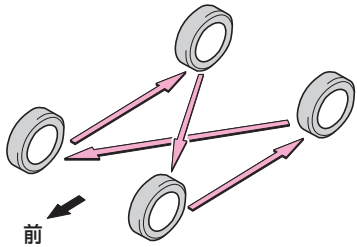
- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象 * により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは 5,000km 走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた



図の順にローテーションしてください。

（タイヤの交換→ 367 ページ）

知識

- タイヤパンク応急修理セット装着車では、応急用スペアタイヤが搭載されていないため応急用スペアタイヤを利用するタイヤのローテーションができません。ダイハツサービス工場にご相談ください。

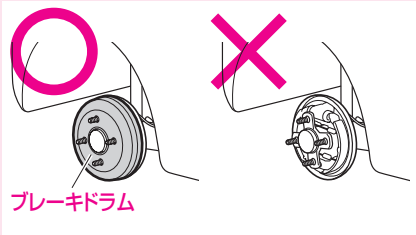
* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- アルミホイール装着車は、ダイハツ純正アルミホイール専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

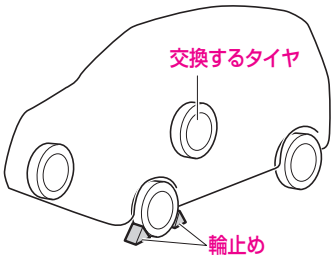
⚠ 注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

交換の手順

1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフトレバーをⓅレンジの位置にする

2 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め * を置く



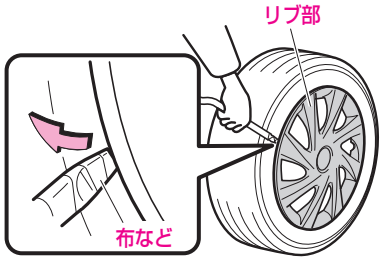
知識

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

3 工具、ジャッキを取り出す

（格納場所→ 404 ページ）
（ジャッキの使いかた→ 406 ページ）

4 フルホイールキャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフルホイールキャップを外す



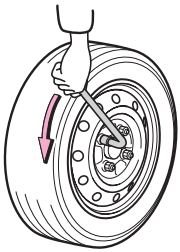
注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイールキャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボデーなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイールキャップが割れるおそれがあります。

 * 輪止めはダイハツサービス工場で購入できます。

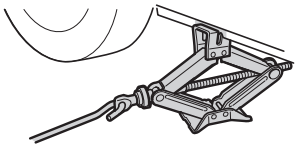
▼ タイヤの取り外し

1 ホイールナットはホイールナットレンチを使って、手で回るくらいまでゆるめる



2 タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりジャッキアップし、車体を上げる

（ジャッキの使いかた→ 406 ページ）

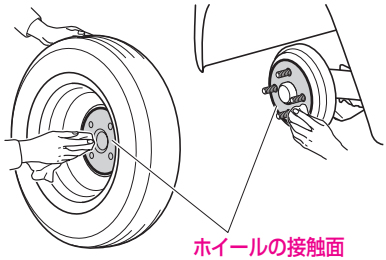


3 ホイールナット（4 つ）を外し、タイヤを取り外す

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きにしてください。

▼ タイヤの取り付け

1 取り付けるタイヤのホイール接触面の汚れをふき取る



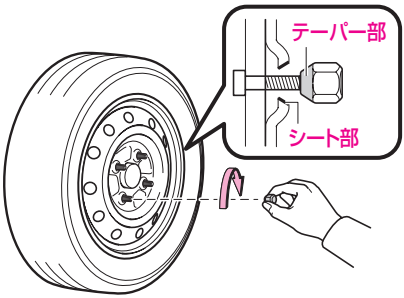
⚠ 警告

- ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

2 タイヤを取り付ける

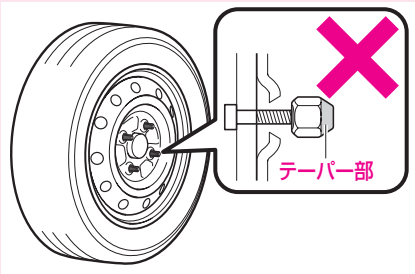
3 ホイールナットを、タイヤががたつかない程度まで仮締めする

- ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで回します。



⚠ 警告

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

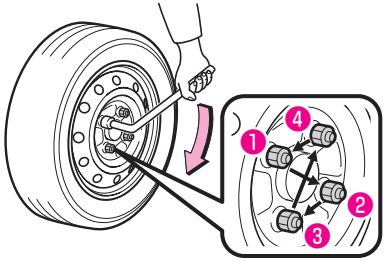


- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

4 車体をおろす

5 ナットを締め付ける

- ナットはホイールナットレンチで、対角線上に2、3度しっかり締め付ける
  - 締付力（レンチ先端にて）：440～590N {45～60kgf}
  - 締付トルク：103N•m {1,050kgf•cm}

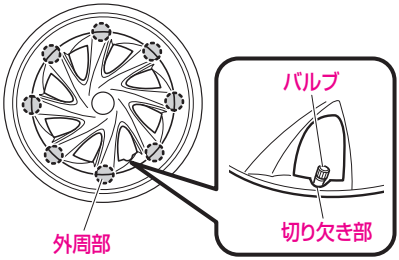


⚠ 注意

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。

6 フルホイールキャップ装着車は、フルホイールキャップを取り付ける

- タイヤのバルブとフルホイールキャップの切り欠き部を合わせ、フルホイールキャップの外周部を押して取り付けます。



7 工具、ジャッキ、タイヤを片付ける

▼ タイヤを取り付けた後は

- しばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランス点検をダイハツサービス工場で受けてください。

ワイパーの交換

⚠ 注意

- ワイパーブレード、ラバーはダイハツ純正をおすすめします。ダイハツ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパーブレードラバーを使用し続けると、ウインドガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- ワイパーブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパーアームが変形したり、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

フロントワイパー

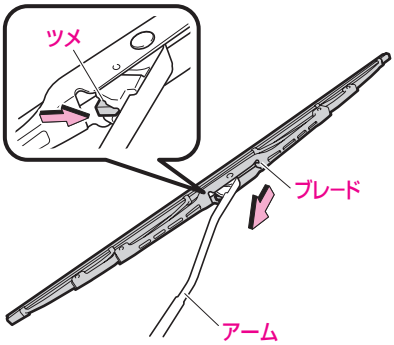
ワイパーブレード

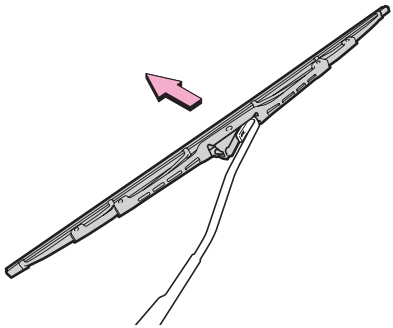
▼ 取り外しかた

1 アームを起こす

2 ブレードをツメが見える角度まで傾ける

3 ツメを押しながら、ブレードをスライドさせてアームから外す





▼ 取り付けかた

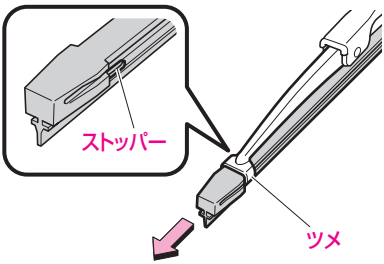
ブレードをアームに取り付ける

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

1 ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引く



2 ラバーをそのままブレードから引き抜く

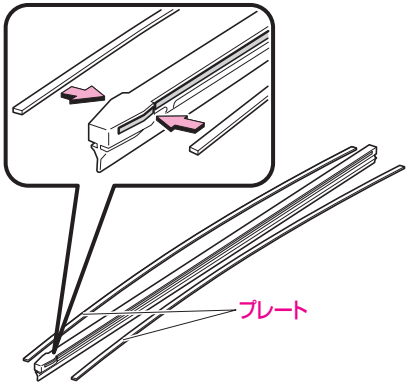
▼ 取り付けかた

1 プレートをラバーから取り外す

2 ラバーを交換する

3 プレートをラバーに差し込む

- プレートの反りの向きに注意してください。



4 ラバーはストッパーがない側からブレードに挿入する

5 ラバーのストッパーをブレードのツメで確実にとめる

⚠ 注意

- ストッパーが確実にとまっていないと、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

知識

アームに取り付けるときは

- ストッパーのある側が運転席側になるように取り付けてください。

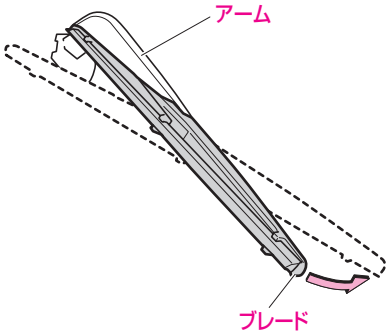
リヤワイパー

ワイパーブレード

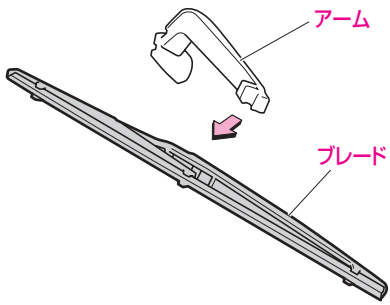
▼ 取り外しかた

1 アームを起こす

2 ブレードを図の角度まで回す



3 ブレードを図の方向に引いて、アームから外す



▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

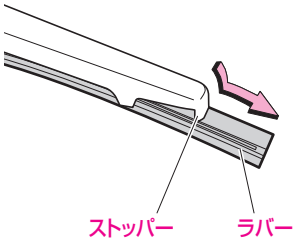
- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

1 ラバーの先端部を引き、ブレードのストッパーから外す

2 ラバーをブレードから引き抜く



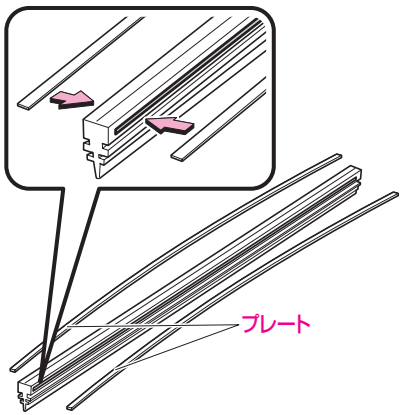
▼ 取り付けかた

1 ラバーからプレートを外す

2 ラバーを交換する

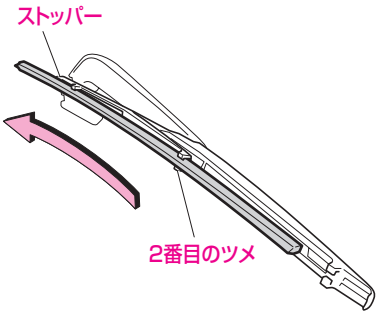
3 プレートをラバーに差し込む

- プレートの反りの向きに注意してください。



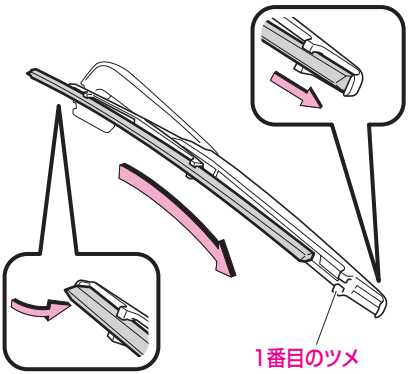
4 ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込む

5 ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す



6 ブレードの 1 番目のツメにラバーを通す

7 ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して確実に固定する



⚠ 注意

● ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

エアコンガス、フィルターの交換

エアコンガス

エアコンガスは新冷媒 HFC134a（R134a）を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

知識

- エアコンガスの補充、エアコンの修理をする場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

クリーンエアフィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーンエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

スーパークリーンエアフィルター

花粉など、より細かい粉じんを除去するフィルターです。

- 交換の目安は 20,000km です。
（大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉の多い場所は 10,000km です）

クリーンエアフィルター

- 交換の目安は 20,000km です。
（大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km です）

知識

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ヒューズの交換

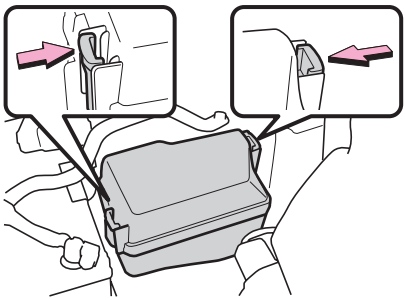
下記のような症状が見られるとヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。

- ランプが点灯しない
- 電気系統の装置がはたらかない

ヒューズについてはダイハツサービス工場にご相談ください。

ヒューズの位置

エンジンルーム内

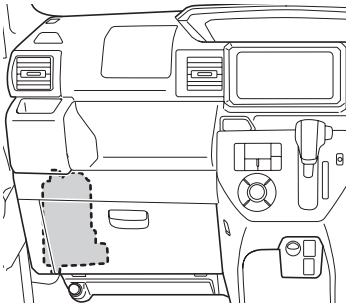


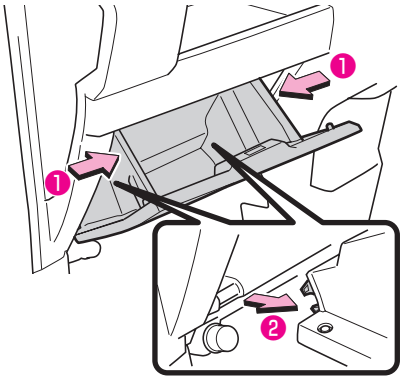
▼ カバーの取り外しかた

1 エンジンスイッチを“OFF”にする

2 カバー横のツメを押しながら取り外す

助手席足元





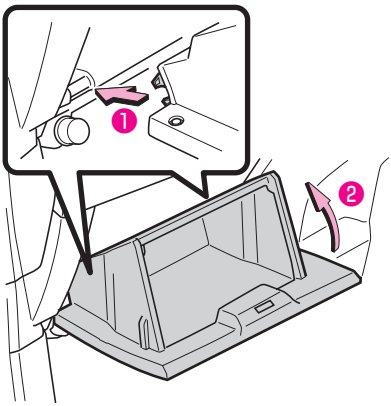
▼ グローブボックスの取り外しかた

1 エンジンスイッチを“OFF”にする

2 ボックスを開け、上部のツメを外す

- 側面を左右の順でたわませます（❶）。

3 下部のツメ（❷）を外し、ボックスを取り外す



▼ グローブボックスの取り付けかた

1 下部のツメ（❶）を取り付ける

2 ツメがしっかりかん合していることを確認し、ボックスを押し込む（❷）

知識

- ツメのかん合が不十分だと、ボックスが開かなくなることがあります。

ヒューズの点検と交換

各ヒューズの配置と容量

▼ エンジンルーム内

ヒューズボックスのカバーに表示しています。

▼ 助手席足元

グローブボックスの裏側に表示しています。

知識

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。また、装置がなくてもヒューズだけがついている場合があります。

ヒューズの点検・交換方法

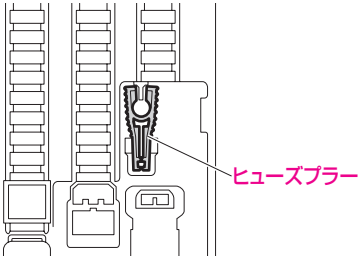
⚠ 警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

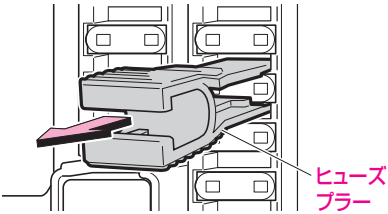
知識

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

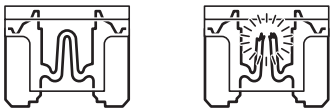
1 ヒューズプラーを助手席足元のヒューズボックスから取り出す



2 ヒューズをヒューズプラーで挟んで外す



3 取り外したヒューズを点検する



▼ ヒューズが切れているときは

- 規定容量のヒューズと交換してください。

▼ ヒューズが切れていないときは

- ほかに原因が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

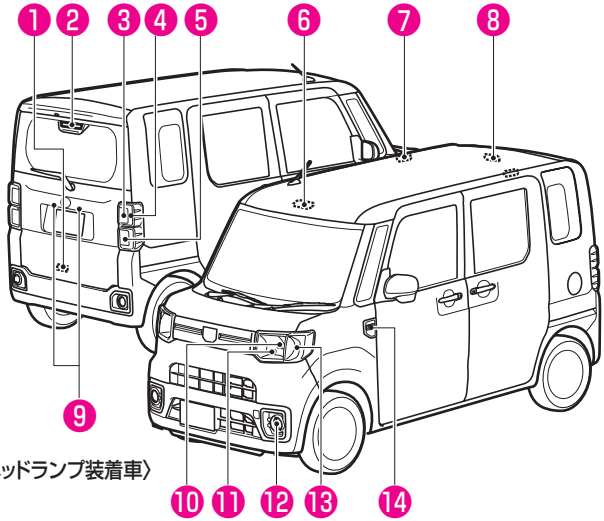
電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

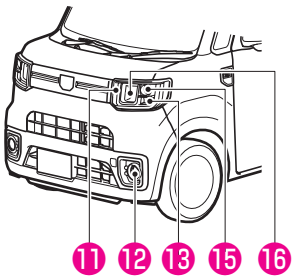
- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

バルブの位置

グレードの違い、注文装備も記載しています。



〈ハロゲンヘッドランプ装着車〉



〈LEDヘッドランプ装着車〉

電球（バルブ）			W(ワット)数
❶	バックドアランプ	LEDタイプ以外	5
		LEDタイプ	LED
❷	ハイマウントストップランプ		LED
❸	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯		21
❹	制動灯 兼 尾灯		LED
❺	後退灯		16
❻	フロントパーソナルランプ	LEDタイプ以外	5
		LEDタイプ	LED
❼	リヤパーソナルランプ	LEDタイプ以外	5
		LEDタイプ	LED
❽	ラゲージルームランプ	LEDタイプ以外	5
		LEDタイプ	LED
❾	番号灯		5
❿	前照灯(Hi/Low)	ハロゲンヘッドランプ装着車	60/55
⓫	車幅灯	ハロゲンヘッドランプ装着車	5
		LEDヘッドランプ装着車	LED
⓬	フォグランプ	LEDタイプ以外	19
		LEDタイプ	LED
⓭	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯		21
⓮	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯		※
⓯	前照灯(Low)	LEDヘッドランプ装着車	LED
⓰	前照灯(Hi)	LEDヘッドランプ装着車	60

※　バルブのみの交換をすることができません。
点検・交換の際はダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

● 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプ（フロントパーソナルランプ除く）は、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ハイマウントストップランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。
- 制動灯 兼 尾灯（❹）の中央部には LED が入っていないため点灯しません。

電球の交換

⚠ 警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

⚠ 注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- 前照灯（フォグランプ含む）などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
  また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

レンズ内の水滴と曇りについて

- ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

交換作業をするときは

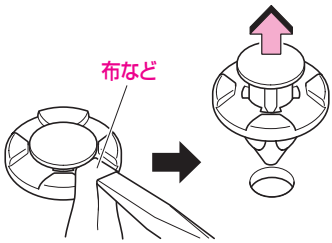
⚠ 注意

- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

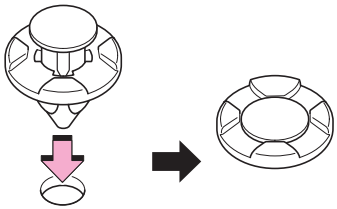
フェンダーライナーを固定しているクリップは、以下の手順で脱着します。

▼ クリップタイプ Ⓐ

1 取り外すときは、ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る

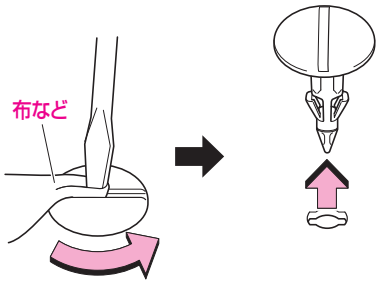


2 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む

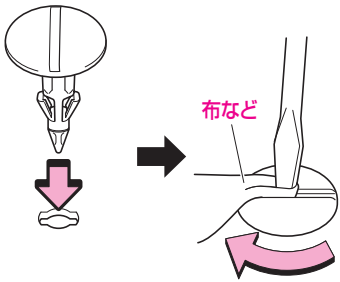


▼ クリップタイプ Ⓑ

1 取り外すときは、ドライバーで矢印の方向へ 90°回して取り外す



2 取り付けるときは、差し込んでからドライバーで矢印の方向へ 90°回して取り付ける



前照灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

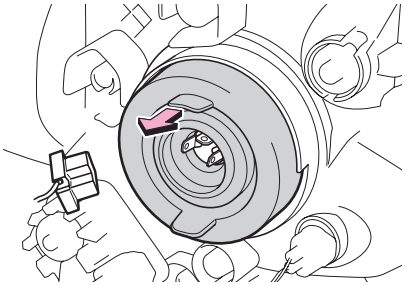
▼ 取り外し手順

1 ボンネットを開ける

（ボンネットの開閉→ 360 ページ）

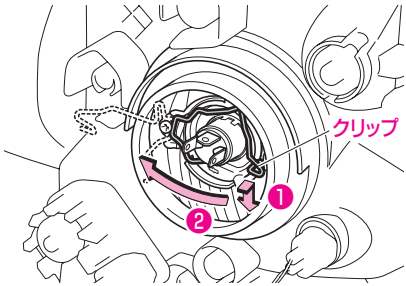
2 コネクターを取り外す

3 ゴムカバーを取り外す

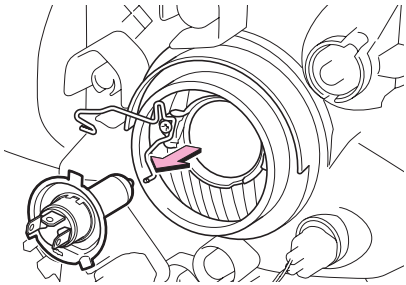


4 クリップをフックから外す

●クリップを押しながら（❶）矢印の方向に寄せて外します（❷）。



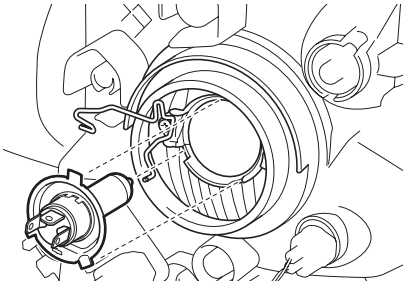
5 バルブを取り外す



▼ 取り付け手順

1 バルブを取り付ける

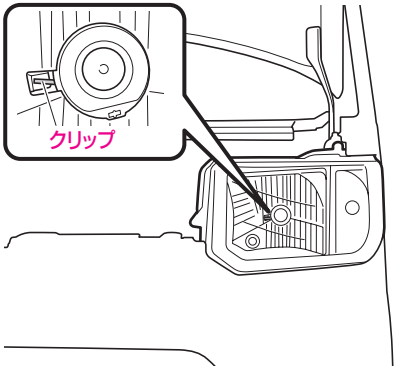
- ヘッドランプ本体の溝にバルブの突起部が合うように、はめ込みます。



2 クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定する

知識

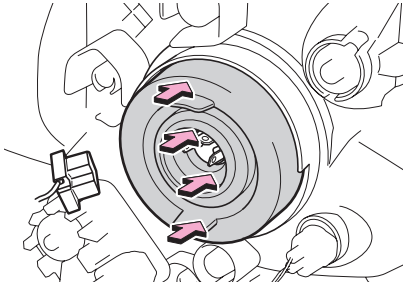
- バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。
  確実に固定されている場合は、クリップが見えます。



3 ゴムカバーを確実に取り付ける

- ゴムカバーを矢印方向にしっかり押さえます。

4 コネクターを取り付ける



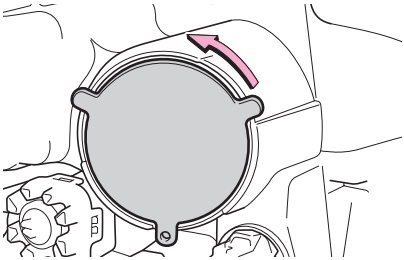
前照灯／ハイビーム

LED ヘッドランプ装着車

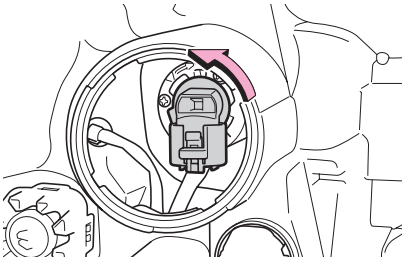
▼ 取り外し手順

1 ボンネットを開ける
（ボンネットの開閉→ 360 ページ）

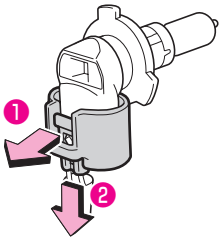
2 カバーを外す



3 バルブを回して外す



4 コネクターのツメ（❶）を起こして、コネクターからバルブを引き抜く（❷）



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

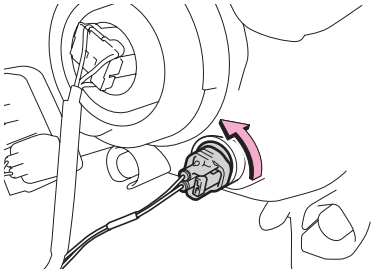
車幅灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

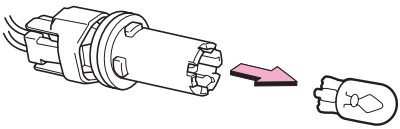
▼ 取り外し手順

1 ボンネットを開ける
（ボンネットの開閉→ 360 ページ）

2 ソケットを回して取り外す



3 ソケットからバルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

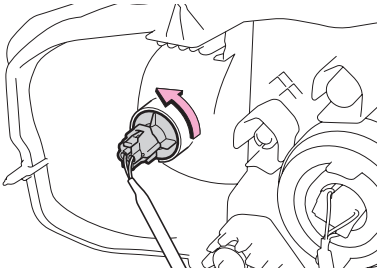
前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

▼ 取り外し手順

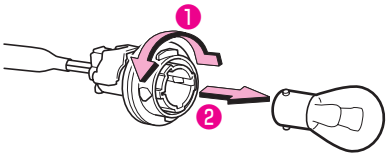
ハロゲンヘッドランプ装着車

1 ボンネットを開ける
（ボンネットの開閉→ 360 ページ）

2 ソケットを回して取り外す



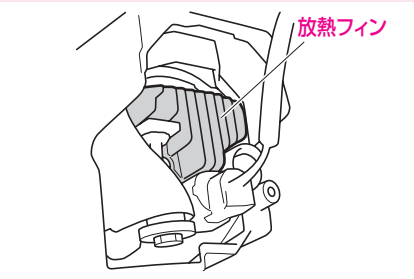
3 バルブを押しながら回して（❶）、外す（❷）



LED ヘッドランプ装着車

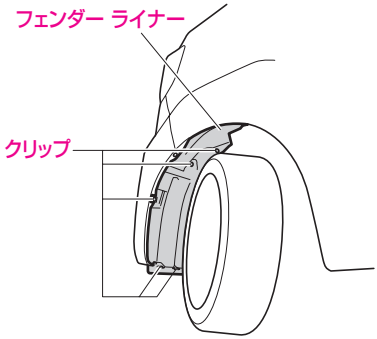
⚠ 警告

● フォグランプが点灯しているとき、および消灯した直後はランプ裏側の放熱フィンが高温となっているため、触らないでください。やけどをするおそれがあり危険です。



1 ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回す

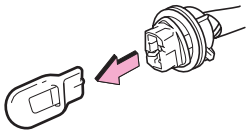
2 交換する側のフェンダーライナーのクリップ（5 個）を取り外す



3 フェンダーライナーを、手が入る程度にめくる

4 ソケットを回して取り外す

5 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

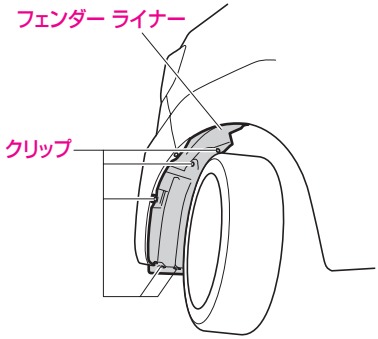
フォグランプ

LED タイプ以外

▼ 取り外し手順

1 ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回す

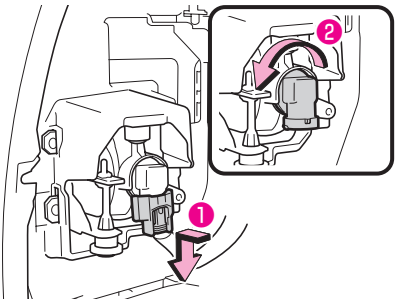
2 交換する側のフェンダーライナーのクリップ（5 個）を取り外す



3 フェンダーライナーを、手が入る程度にめくる

4 コネクターはツメ（❶）を押して取り外す

5 バルブを回して（❷）取り外す



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

リヤコンビランプ（後面方向指示灯、後退灯）

▼ 取り外し手順

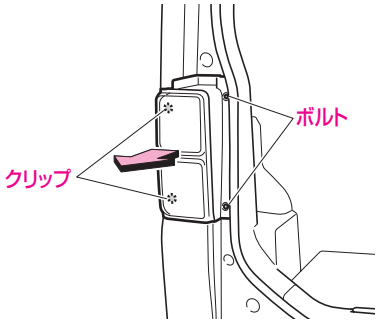
1 バックドアを開ける

（バックドア→ 116 ページ）

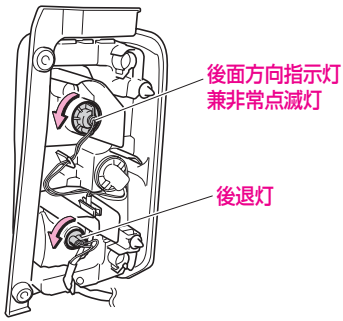
2 ランプ本体のボルトを取り外す

3 ランプ本体を車両後方に引いて取り外す

- 車両後方に引くと、クリップが外れます。



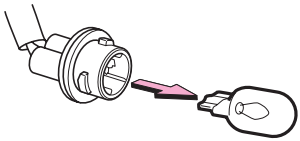
4 交換するバルブのソケットを回して取り外す



5 ソケットからバルブを取り外す

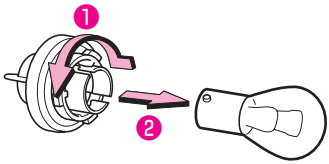
後退灯

●バルブを引き抜きます。



後面方向指示灯

●バルブを押しながら回して（❶）、外します（❷）。

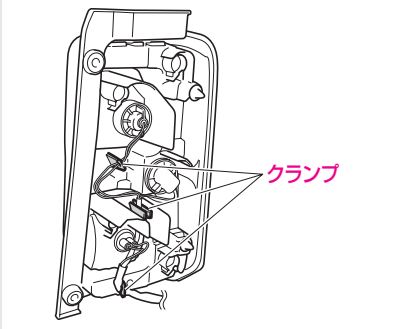


▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠ 注意

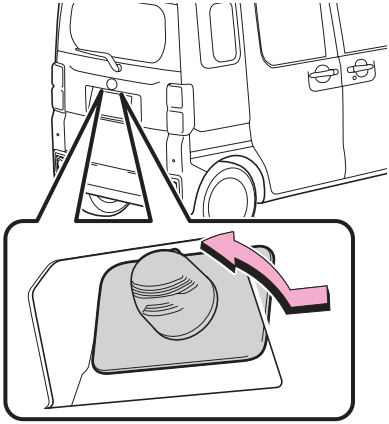
●ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線のテーピング部を目印にしてクランプに取り付けてください。
クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



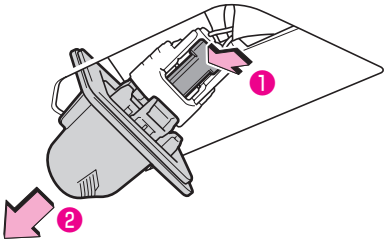
番号灯

▼ 取り外し手順

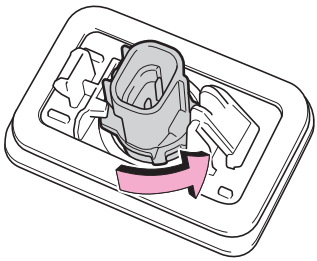
1 ランプ本体をスライドして取り外す



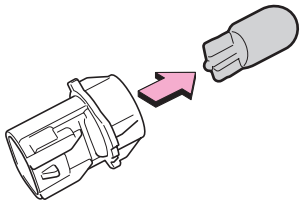
2 ツメを押して（❶）、コネクターを取り外す（❷）



3 ソケットを回して取り外す



4 バルブを取り外す

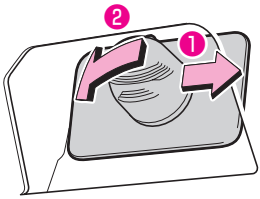


▼ 取り付け手順

1 逆の手順でバルブ、ソケット、およびコネクターを取り付ける

2 ランプ本体を取り付ける

- 車両右側に押しながら（❶）、ランプ本体を取り付けます（❷）。

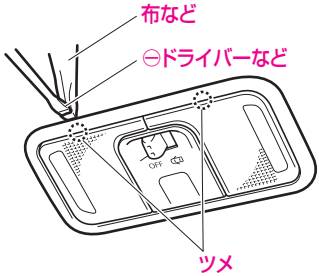


フロントパーソナルランプ

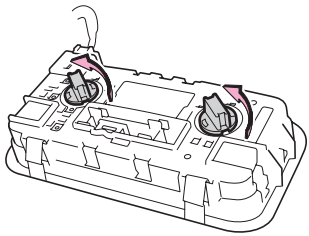
▼ 取り外し手順

LED タイプ以外

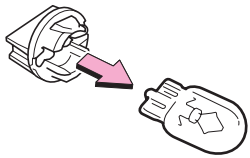
1 ⊖ドライバーなどを差し込み、ツメ（2カ所）を外してランプ本体を取り外す



2 交換するバルブのソケットを回して取り外す

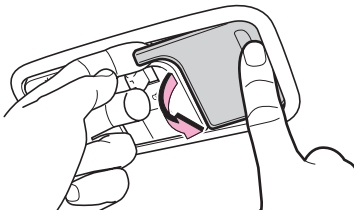


3 ソケットからバルブを引き抜く

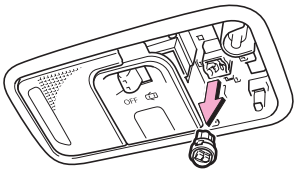


LED タイプ

1 ランプのスイッチを押しながら、カバーを取り外す



2 バルブを取り外す



▼ 取り付け手順

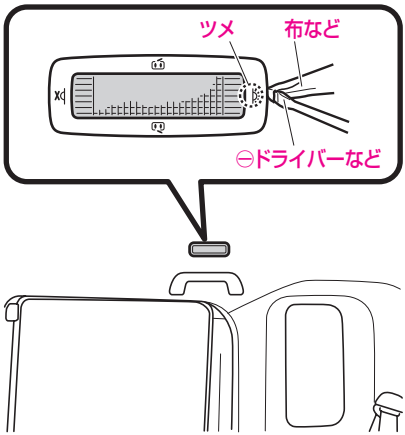
逆の手順で行います。

リヤパーソナルランプ

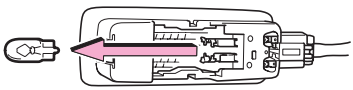
LED タイプ以外

▼ 取り外し手順

1 ⊖ドライバーなどを差し込み、ランプ本体を取り外す



2 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

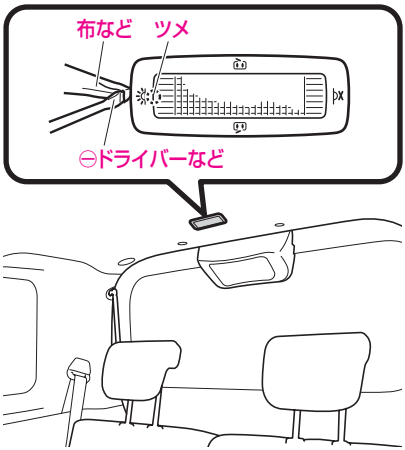
逆の手順で行います。

ラゲージルームランプ

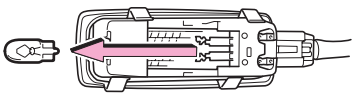
LED タイプ以外

▼ 取り外し手順

1 ⊖ドライバーなどを差し込み、ランプ本体を取り外す



2 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

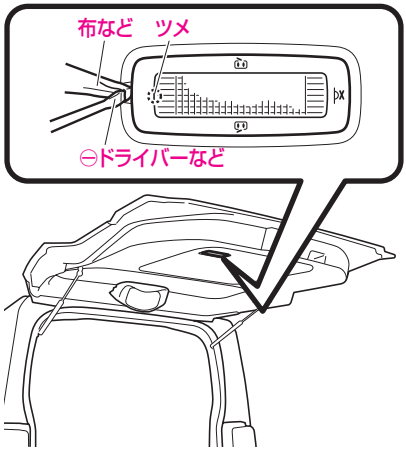
バックドアランプ

LED タイプ以外

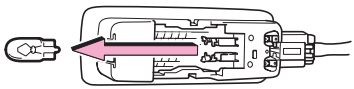
1 バックドアを開く

（バックドア→ 116 ページ）

2 ⊖ドライバーなどを差し込み、ランプ本体を取り外す



3 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、ダイハツサービス工場での交換をおすすめします。

交換方法

⚠ 注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。
- 電池を交換するときは以下のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
  - 濡れた手で電池交換をしない
  - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
  - 油や異物を入れない

キーレスエントリー装着車

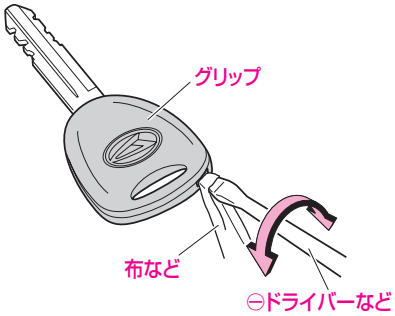
▼ 用意するもの

- 「CR1620（3V）」の新しい電池
- 薄刃の ⊖ ドライバーなど
  （くぼみに入る程度の幅のもの）
  - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

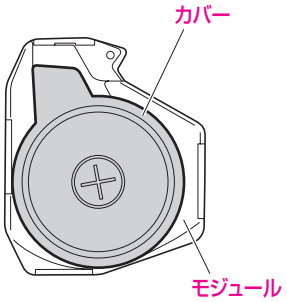
▼ 交換方法

1 メインキーのグリップを外す

- 用意した ⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

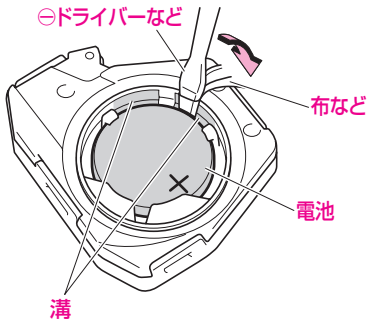


2 モジュール裏側のカバーを外す



3 電池を取り出す

- 用意した ⊖ドライバーなどを溝に差し込みます。

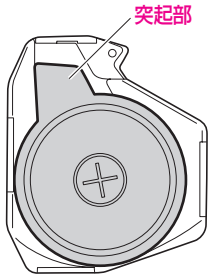


4 新しい電池と交換する

- 電池は ⊕ 極を上側にして取り付けます。

5 カバーとモジュール、およびグリップを取り付ける

- カバーを突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。

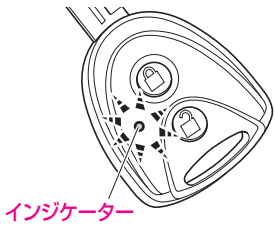


知識

カバーをはめ込むときは

- 確実にはめ込んでください。浮いたりしていると、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。

6 スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



キーフリーシステム装着車

▼ 用意するもの

●「CR2032（3V）」の新しい電池

●薄刃の ⊖ ドライバーなど
（くぼみに入る程度の幅のもの）

• 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

▼ 交換手順

1 電子カードキーのカバーを外す

●ダイハツマーク側を上にして外します。

●用意した ⊖ ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

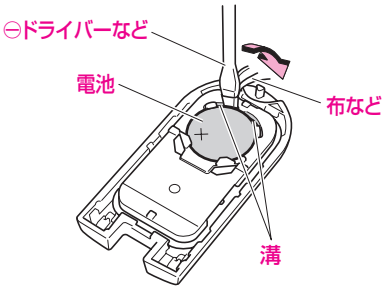
⚠ 注意

●ダイハツマーク側を下にしてカバーを外さないでください。電子カードキーのスイッチや電子部品などが落下して破損するおそれがあります。

2 電池を取り出す

●用意した ⊖ ドライバーなどを溝に差し込みます。

• カバーを外した時に、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が張り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

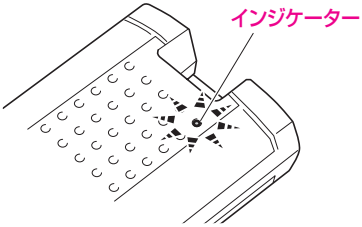


3 新しい電池と交換する

●電池は ⊕ 極を上側にして取り付けます。

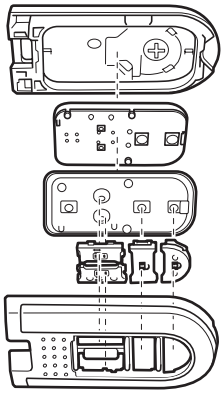
4 カバーを取り付ける

5 スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



▼ 電子カードキーの部品がばらけたときは

図を参考に組み付けてください。



⚠ 注意

- 電子部品の基板面に触れないでください。故障の原因になります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い
冬に向かってのお手入れ … 398
走行前点検と準備 …… 399
積雪、寒冷時の走行 …… 400
走行中の点検と注意 …… 401
走行後の取り扱い …… 402

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキーフリーシステム（オプション / グレード別装備）に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジンオイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をダイハツサービス工場に依頼してください。

ウインドウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパーブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。

寒冷地用ワイパーブレードは、ダイハツサービス工場で各車指定のブレードをご購入ください。

⚠ 注意

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりウインドガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠ 注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠ 注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドガラスが割れるおそれがあります。
- ガラスに付いた氷を除去するとき、氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠ 注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。

⚠ 注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  チェーン装着車、冬用タイヤ装着車、また 4WD 車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは 2WD 車、4WD 車ともに必ず前輪に装着します。
- チェーンはタイヤサイズに合った物を使用ください。
  - 適合するタイヤチェーンについては、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

- タイヤチェーンは車のタイヤサイズに合った、ダイハツ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- タイヤチェーンの取り付けは各タイヤチェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤチェーン装着時は 30km/h 以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。

⚠ 注意

- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- チェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。
  - VSC
  - TRC

知識

- タイヤチェーンを装着するとホイールキャップやアルミホイールに傷が付くおそれがあります。ホイールキャップ装着車はホイールキャップを取り外した状態で、タイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤの装着

⚠ 注意

- 冬用タイヤは必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキパッドのしめりを乾かしてください。

⚠警告

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠警告

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤパンク応急修理セットで応急修理をしてください。

（タイヤパンク応急修理セット
→ 410 ページ）

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。
また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠ 警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。シフトレバーを P レンジに入れて輪止め * を置いてください。

知識

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
（ルーフアンテナ→ 312 ページ）

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

知識

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデーカバーを使用してください。

⚠ 注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

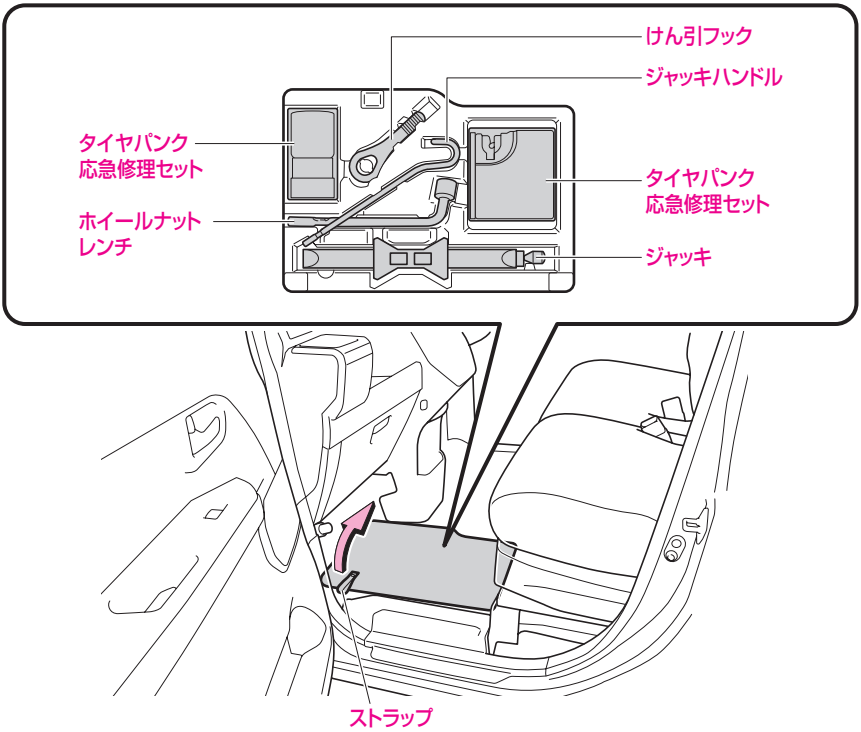
 * 輪止めはダイハツサービス工場で購入できます。

いざというときに

工具類
格納場所 …… 404
ジャッキの使いかた …… 406
タイヤパンク
応急修理セット …… 410
いざというときの処置
エンジンが
かからないとき …… 419
スタック（立ち往生）
したとき …… 419
故障したとき …… 420
けん引されるとき …… 422
パンクしたとき …… 425
バッテリーあがりの処置 … 425
オーバーヒートの処置 …… 429
電子カードキーが
使用できないとき …… 431
キーを閉じ込めたとき …… 434
車両を緊急停止するには … 435
水没・冠水したときは …… 436
事故が起きたとき …… 436

工具類

格納場所



ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは、助手席のフロアーボード下にあるアンダーボックスに収納しています。

● ストラップを引いて、フロアーボードを取り外します。

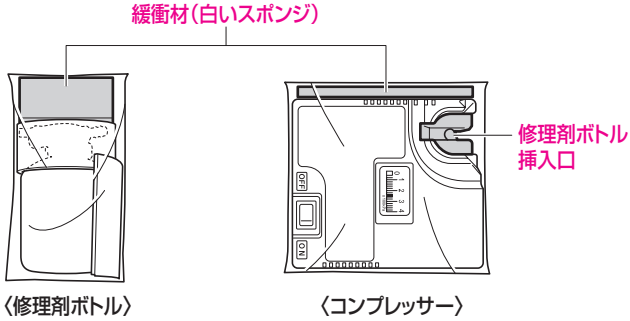
（ジャッキの使いかた→ 406 ページ）
（けん引されるとき→ 422 ページ）
（タイヤパンク応急修理セット→ 410 ページ）

⚠ 注意

● ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セット、フロアーボードは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

▼ タイヤパンク応急修理セットについて

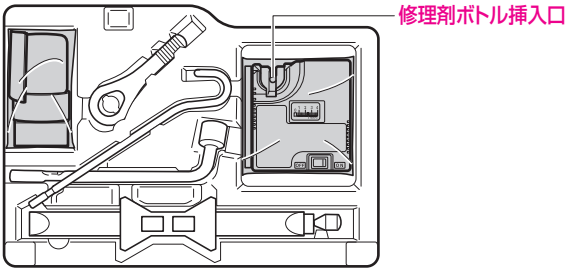
使用するときは、袋から出してください。



⚠ 注意

タイヤパンク応急修理セットを取り出したときは

- 下図のように収納してください。誤った方向で収納すると、助手席フロアに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。
- 緩衝材（白いスポンジ）を必ず同封して収納してください。
- 修理剤ボトル挿入口が図の向きになるように注意してコンプレッサーを収納してください。



ジャッキの使いかた

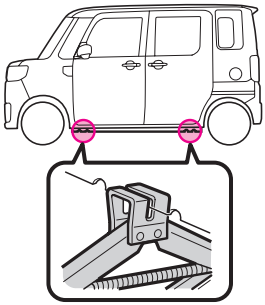
⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを Ⓟ レンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキアップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤパンク応急処理およびタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキアップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠ 注意

- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

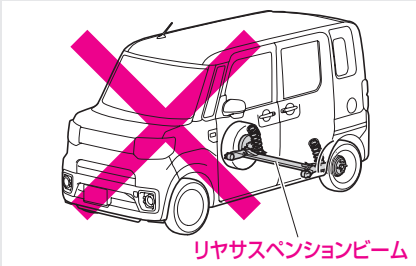
ジャッキをセットする位置



取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にセットします。

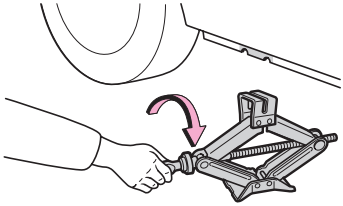
⚠ 注意

- ジャッキは必ずジャッキセット位置にセットしてください。
- 2WD車はリヤサスペンションビームにジャッキをかけないでください。

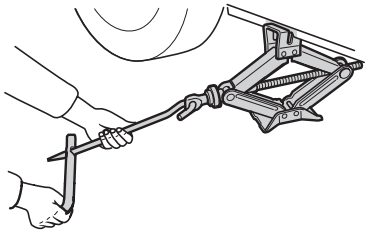


ジャッキのかけかた

▼ 操作手順



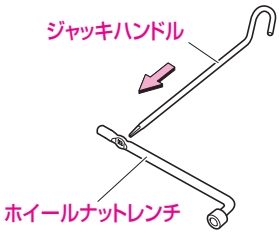
1 ジャッキを手で回して、セット位置まで上げる



2 ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げる

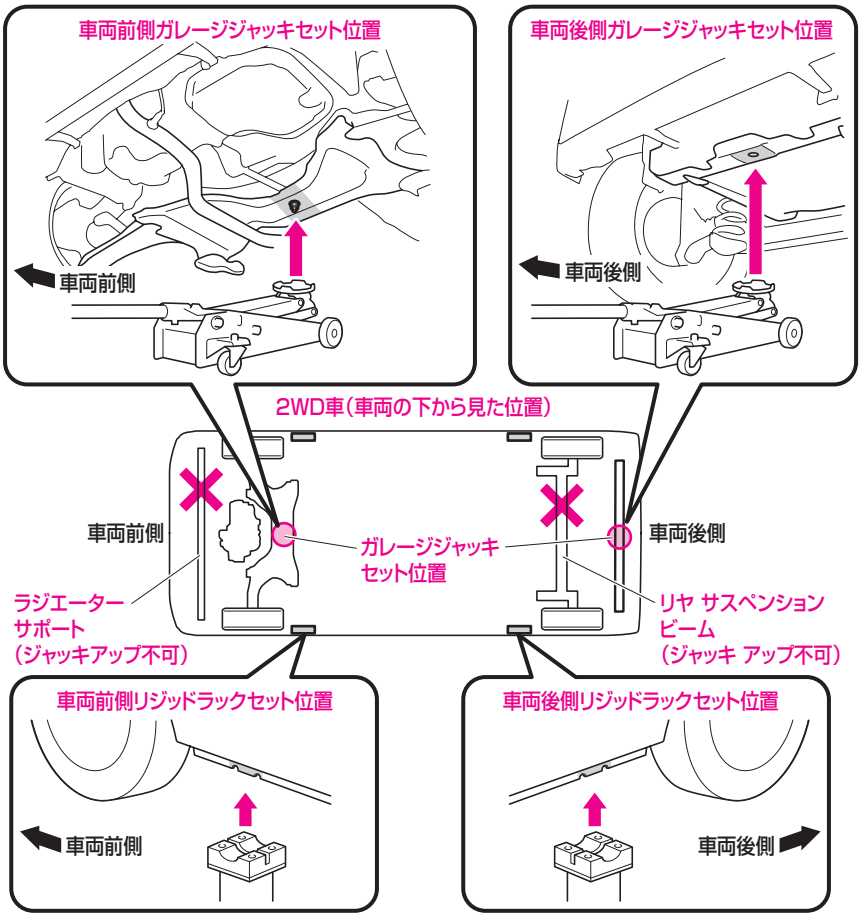
知識

- ジャッキハンドルは図のように組み立てて使用してください。

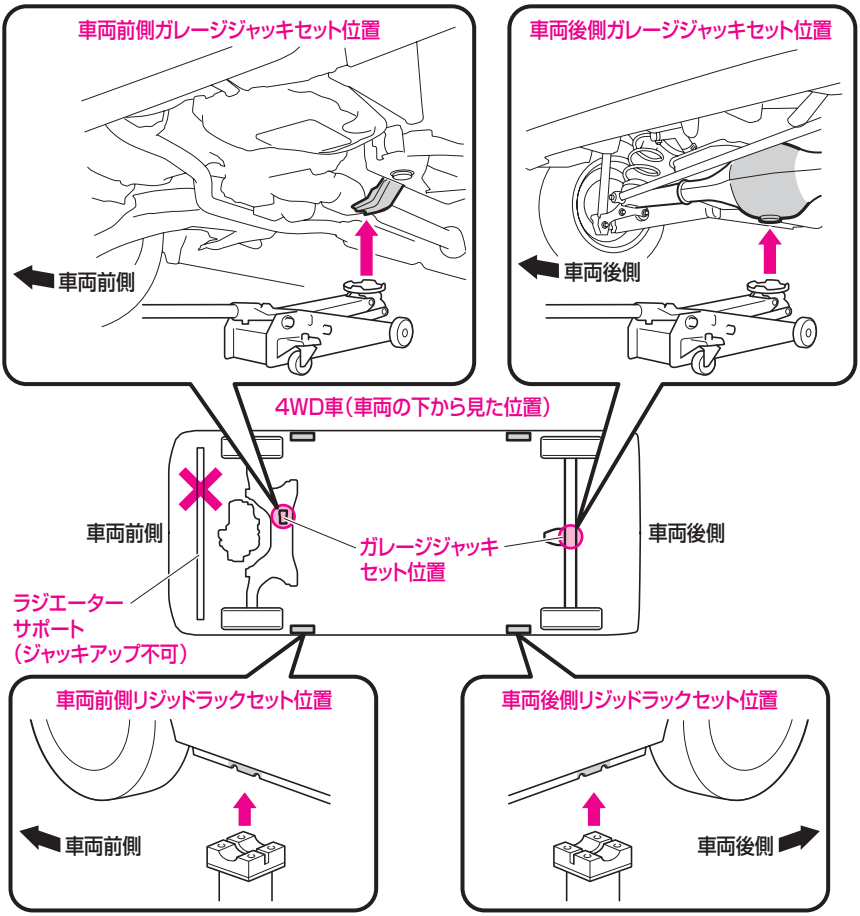


ガレージジャッキ（市販品）を使用する場合

2WD 車



4WD車

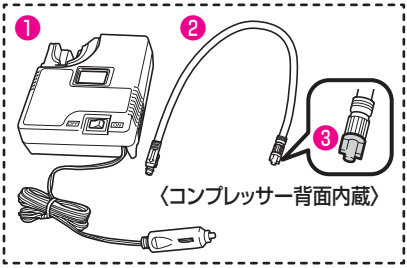


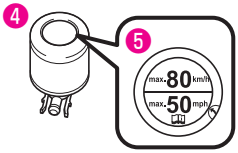
ガレージジャッキを使用する場合は、図のガレージジャッキ位置にセットしてジャッキアップを行ってください。その際は、必ずリジッドラック（市販品）をリジッドラックセット位置にセットしてください。

⚠ 注意

- ガレージジャッキおよびリジッドラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしていないと、けがをしたり、車が損傷したりするおそれがあります。

タイヤパンク応急修理セット





❶ コンプレッサー
❷ ホース
❸ ホース栓
❹ 修理剤ボトル
❺ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットは、コンプレッサーで空気とパンク穴をふさぐ修理剤を同時に充填して、軽度なパンクを応急修理することができます。

- タイヤパンク応急修理セット装着車には、応急用スペアタイヤは装着されていません。
- タイヤパンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはダイハツサービス工場で、点検、修理を受けてください。

⚠ 注意

修理剤について

- 飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 衣服などに付着した場合はすぐに拭き取ってください。衣服にしみこむと取れなくなるおそれがあります。

知識

- タイヤパンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
（格納場所→ 404 ページ）

コンプレッサーについて

- パンク応急修理専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 40 分以上連続して使用しない
  - 降雨時など、水がかからないようにする
  - 砂ぼこりなどを吸い込ませない
  - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置する
  - 分解、改造などは絶対にしない
  - 強い衝撃や圧力を加えない

タイヤパンク応急修理セットの点検

いざというとき使用できるようにタイヤパンク応急修理セットの日常点検を実施してください。

- 修理剤の有効期限の確認
- アクセサリーソケット電源の確認
  （電化製品などを作動させて点検してください）
- コンプレッサー作動の確認
  （コンプレッサーの電源プラグを
  アクセサリーソケットに差し込み、
  エンジンを始動します）

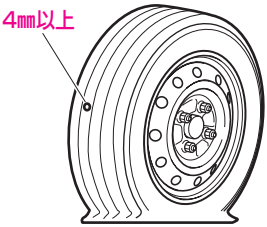
タイヤパンク応急修理セットが使用できない状況

下記のような場合は、タイヤパンク応急修理セットによる応急修理ができません。

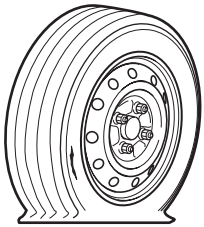
ダイハツサービス工場または JAF* などにご連絡ください。

- 修理剤の有効期限が切れている

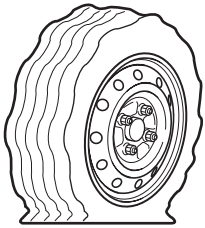
- 約 4㎜以上の切り傷や刺し傷がある



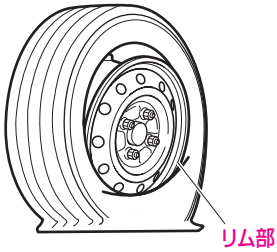
- タイヤサイド部が損傷を受けている



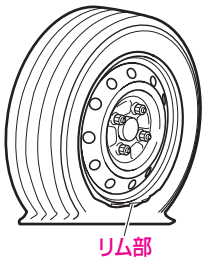
- ほとんど空気の抜けた状態で走行した



- タイヤがリムの外側に完全に外れている



- リム部が破損している



- タイヤが 2 本以上パンクしている
  （修理剤はタイヤ 1 本分です）

* 別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

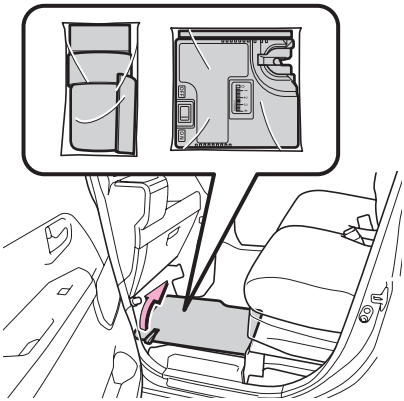
タイヤの応急修理方法

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

知識

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

▼ タイヤパンク応急修理セットの格納場所



▼ 応急修理のしかた

⚠ 注意

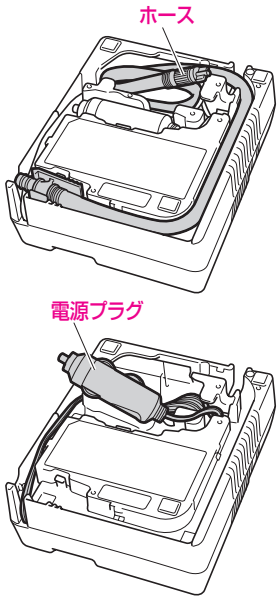
- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

1 修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

⚠ 注意

- 緩衝材（白いスポンジ）が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（交換用修理剤ボトルには、緩衝材が入っていませんので再使用してください）

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

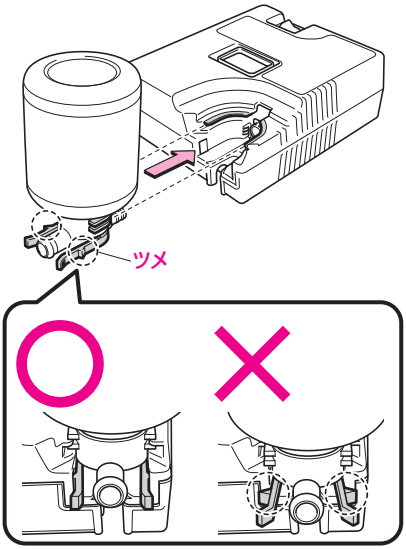


3 修理剤ボトルをよく振る

- 修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

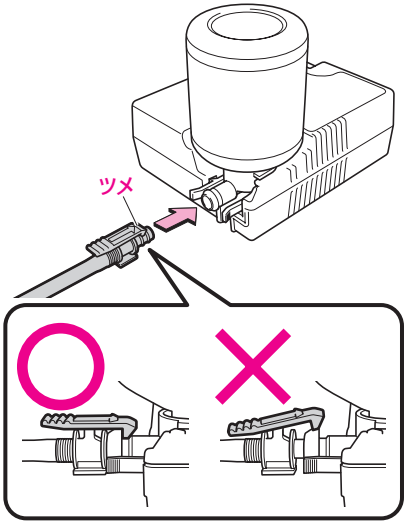
4 コンプレッサーに修理剤ボトルを強く押し込み固定する

- ボトルのツメが固定されるまで、しっかりと押し込んでください。



5 修理剤ボトルにホースを差し込む

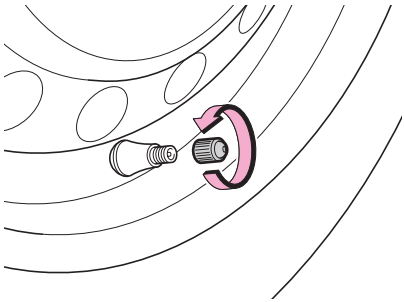
- ホースのツメが固定されるまでしっかりと差し込んでください。



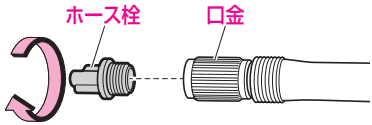
⚠ 注意

- 接続部が確実に固定されていることを確認してください。

6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す

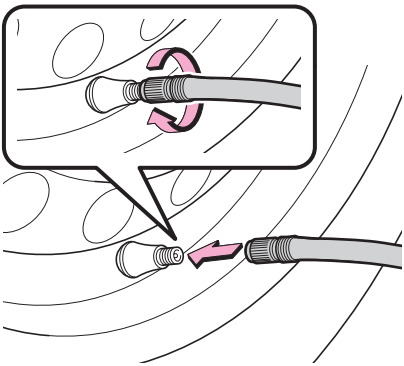


7 ホースの口金からホース栓を取り外す

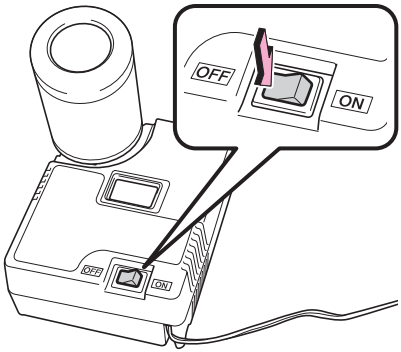


8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する

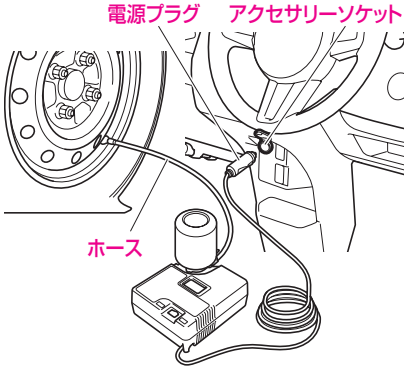
- ホースの口金を回して最後までしっかりとねじ込みます。



9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する



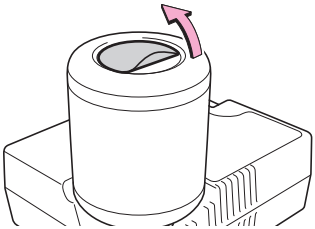
10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込む



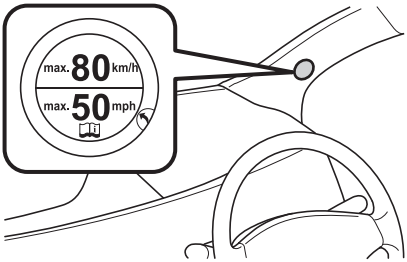
⚠ 注意

- 手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリーソケットに差し込んでください。

11 修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



⚠ 警告

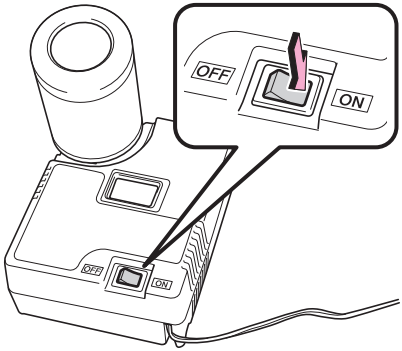
- 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面に貼らないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けるおそれがあります。また、メーターやウインドガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

13 タイヤの指定空気圧を確認する

- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

14 エンジンを始動する

15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、修理剤と空気を充填する



⚠ 注意

- コンプレッサーは 40 分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。

知識

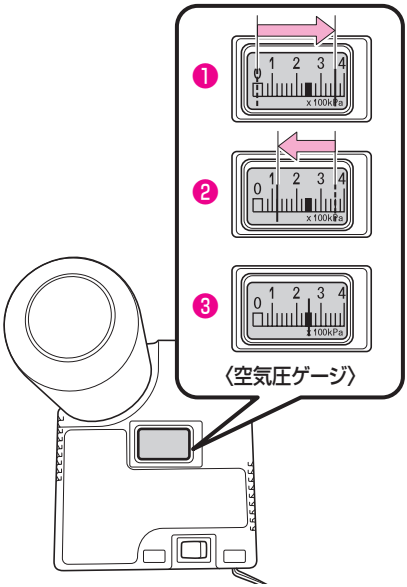
- 5 分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で 2 ～ 3 回以上回し、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。
（ジャッキの使いかた→ 406 ページ）

16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

❶コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくは修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約300～400kPaまで上がります。

❷1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になります。

❸指定空気圧になるまで昇圧します。



●次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、またはJAFなどにご連絡ください。

- 修理剤が5分以内に充填できない
- 25分以内に指定空気圧まで上がらない

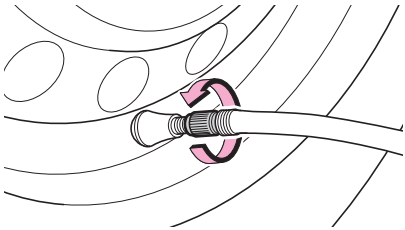
知識

●ダイハツサービス工場、またはJAFロードサービスについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

▼ 空気を入れすぎてしまったときは

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 注意

●タイヤの空気を抜くときに、充填した修理剤が飛散するおそれがあります。修理剤が目に入らないように注意してください。

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

知識

- ホースの口金を取り外すときに修理剤がもれることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

注意

- コンプレッサーに取り付けた修理剤ボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った修理剤がこぼれるおそれがあります。

21 いったんボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

22 空気が抜けるのを防ぐため、すみやかに走行を開始する

- 急加速･急ブレーキ･急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約5km 程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンを始動する
- コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

- 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、手順 6 ～ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▼ 空気圧が 130kPa 以下に低下していたら

- タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、すみやかにダイハツサービス工場まで走行する

- 急加速･急ブレーキ･急ハンドルをさけ、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

応急修理後の処置

修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

知識

- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理セットを使用したことを知らせてください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しい物と交換してください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カットシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カットシステムが作動している可能性があります。燃料カットシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジンスイッチを“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのダイハツサービス工場にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠ 警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。
  スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
  （けん引されるとき→ 422 ページ）

知識

● TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC を停止してください。
（VSC & TRC OFF スイッチ→ 228 ページ）

▼ 脱出手順

1 駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを Ⓟ レンジに入れ、エンジンを停止する

2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く

3 スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにする

4 エンジンを始動する

5 シフトレバーを Ⓓ または Ⓡ レンジに入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏む

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠ 注意

● 車を押す場合、シフトレバーは Ⓝ レンジに入れてください。

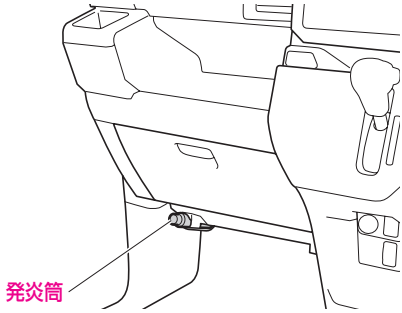
知識

● 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

踏切内の場合

踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒



発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼ 設置場所

グローブボックスの左下に設置されています。

⚠ 注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

知識

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、ダイハツサービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で４輪とも持ち上げて運搬してください。

（別冊の「メンテナンスノート」巻末のダイハツサービス網、JAF ロードサービスを参考にしてください）

⚠ 警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD 車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

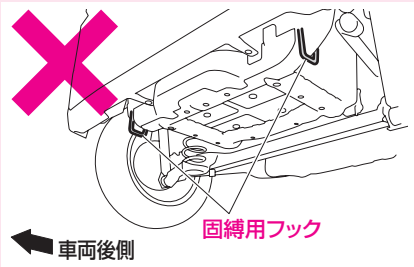
やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼ けん引を行う前に

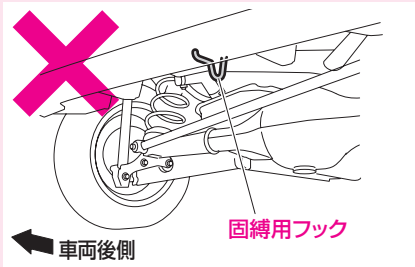
⚠ 警告

- 他車をけん引する能力はありません。固縛用フックなど、車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。車両を損傷したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

2WD 車



4WD 車



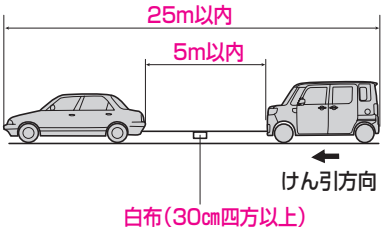
⚠ 注意

- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、ダイハツサービス工場にご確認ください。
  駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。

⚠ 注意

- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにダイハツサービス工場にご連絡ください。
  - エンジンはかかるが車が動かない
  - 異常な音がする
- ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h 以下、けん引距離は 50km 以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- プッシュボタンスタートスイッチが故障したときは、ハンドルロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。
- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
  - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
  - エンジンスイッチはハンドルロックを解除させるために“ON”にし、シフトレバーは Ⓝ レンジにしてください。
  - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
    また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。
  - 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法



- 前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
- けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。

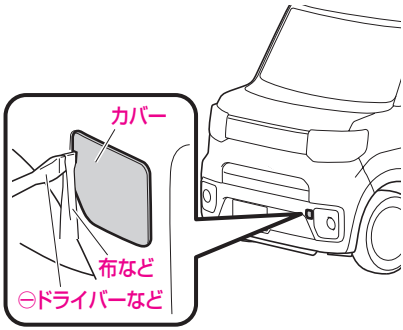
- けん引フックは、助手席フロアボード下のアンダーボックスに格納しています。

（格納場所→ 404 ページ）

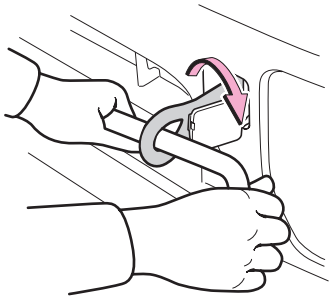
▼ けん引フックの取り付けかた

1 カバーを外す

- 薄刃の ⊖ ドライバーなどをカバーの切りかきに差し込みます。
（傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻いてください）



2 けん引フックを差し込み、ホイールナットレンチでしっかりと固定する



知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

パンクしたとき

⚠ 警告

- 高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
  急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。
- パンクしたまま走行しないでください。
  短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

（タイヤパンク応急修理セット→ 410 ページ）

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない
- ヘッドランプがいつもより暗い
- ホーンの音が小さい、または鳴らない
- キーフリーシステム装着車の電子カードキーでドアが解錠しない

処置のしかた

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースターケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの ⊖ 端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続するとき、端子と端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12V バッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブル接続の際には、⊕ 端子をボデー金属部や ⊖ 端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

▼ 処置の手順

1 バッテリーの ⊕ 端子のカバーを外す

2 1 本目のブースターケーブルを以下の順に接続する

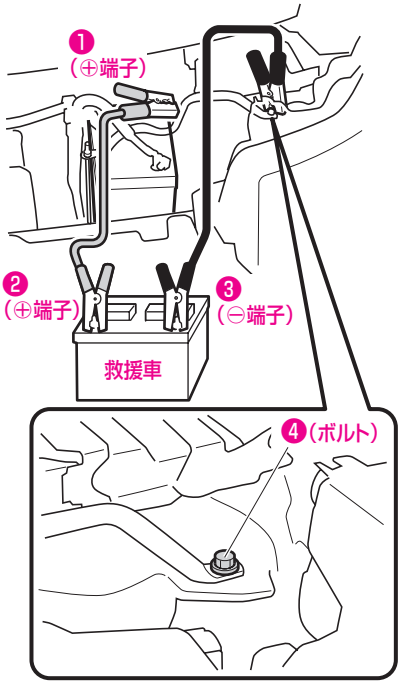
❶ バッテリーあがり車の ⊕ 端子

❷ 救援車の ⊕ 端子

3 2 本目のブースターケーブルを以下の順に接続する

❸ 救援車の ⊖ 端子

❹ 未塗装の金属部
（図に示すような固定された部分）



4 救援車のエンジンを始動し、少しエンジン回転を高めに保つ

5 バッテリーあがり車のエンジンを始動する

6 ブースターケーブルを接続順序の逆で外す

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● 下記のことをお守りください。

- エンジンを止めたままライトをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。

バッテリーを交換するときは

⚠ 警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

（eco IDLE 専用バッテリー→ 291 ページ）

知識

- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。

オーバーヒートの処置

下記の状態がオーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

処置のしかた

車を安全な場所に止め、以下の処置をしてください。

⚠ 警告

処置を行う前に

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1 ボンネットから蒸気が出ているとき

- エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。

2 ボンネットから蒸気が出ていないとき

- エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。

3 1または2の処置を行ったあと、エンジンルームをチェックする

- 下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてダイハツサービス工場にご連絡ください。
  - 冷却ファンが回転していないとき
  - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
  - ラジエーターリザーバータンクの水がないとき
  - ファンベルトが切れているとき

4 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止める

5 エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファンベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検する

6 冷却水が不足しているときは、補給する

- 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

📖 知識

オーバーヒートを防ぐために

- 日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンスノート」参照）

電子カードキーが使用できないとき

キーフリーシステム装着車

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合は、一時的な対処として、電子カードキーとエマージェンシーキーを使用してドアの施錠、解錠、およびエンジンをかけることができます。

⚠ 警告

- 電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合でも、発信機は電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車外発信機・車内発信機から約 22㎝以内に近付かないようにしてください。

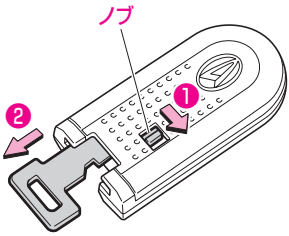
（発信機→ 79 ページ）

知識

- ここで説明しているエンジンのかけかたは一時的な対処です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

（キーの電池交換→ 393 ページ）

エマージェンシーキーの取り出しかた



電子カードキーのノブを（❶）の方向にスライドさせたまま、エマージェンシーキーを（❷）の方向に引いて取り出します。

- 使用後は、エマージェンシーキーを必ず電子カードキーに格納しておいてください。

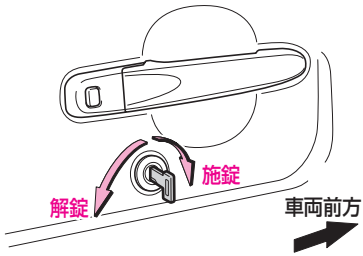
ドアの施錠、解錠

知識

セキュリティアラームがセットされている場合

- キーを差して解錠しドアを開けると、セキュリティアラームの警報が作動します。
  アラームが作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1 ～ 3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。
  （セキュリティアラーム→ 65 ページ）
（エンジンのかけかた→ 433 ページ）

▼ 操作方法



キーを確実に差し込み、
施錠：車両前方に回す
解錠：車両後方に回す

施錠・解錠すると、すべてのドアが施錠・解錠されます。

知識

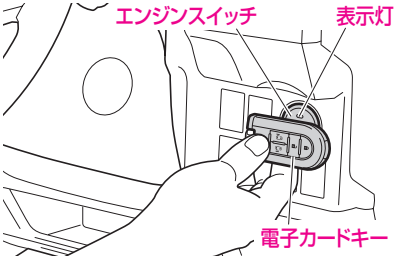
- キーは挿入口に確実に差し込んでください。
- キー挿入口は助手席側ドアには設定していません。

エンジンのかけかた

1 シフトレバーがⓅレンジの位置で、ブレーキペダルをしっかりと踏む

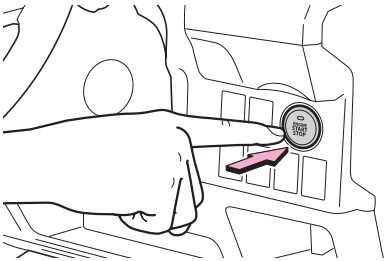
2 ブレーキペダルを踏んだまま、キーを図のようにエンジンスイッチに接触させる

- 電子カードキーの中心をスイッチの中心に接触させます。



3 キーが認識されて、エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯する

4 表示灯が点灯している間にスイッチを押すと、エンジンが始動する



▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、シフトレバーをⓅレンジに入れて、スイッチを押します。

知識

- 下記の状態になると、エンジンスイッチを押してもエンジンの始動はできません。もう一度はじめからやり直してください。
  - キーの認識後、表示灯が消灯した
  - エンジンスイッチを“OFF”にした
- 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

▼ エンジンスイッチモードの切り替え

電子カードキーをエンジンスイッチに接触させたまま、エンジンスイッチを押します。

スイッチを押すごとに

「OFF → ACC → ON → OFF」の順に切り替わります。

ハンドルロックを解除するには

エンジンの始動操作をしたときに、エンジンスイッチの表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドルロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAF などを呼んでください。
別冊の「メンテナンスノート」巻末の JAF ロードサービスのご案内を参照してください。

▼ キーをなくした場合

キーレスエントリー装着車

保管していたキーナンバープレートを最寄りのダイハツサービス工場にお持ちください。

知識

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
  - 日頃からキーを使ってロックしてください。
  - バッグなどにスペアキーを入れておいてください。

キーフリーシステム装着車

保管していた電子カードキーとキーナンバープレートを最寄りのダイハツサービス工場にお持ちください。

知識

- 電子カードキー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ず電子カードキーを携帯していることを確認するか、リモコン操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

⚠ 警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

緊急停止方法

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

⚠ 警告

- ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを Ⓝ レンジに入れる

▼ **シフトレバーがニュートラルに入った場合**

3 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止する

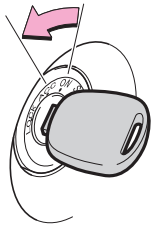
▼ **シフトレバーがニュートラルに入らない場合**

4 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

5 エンジンを停止する

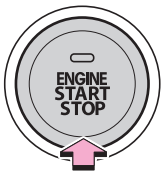
キーレスエントリー装着車

- エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。



プッシュボタンスタート装着車

- スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。



3秒以上押す、または3連打する

6 車を安全な道路脇に停める

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

⚠ 警告

走行中の警告

- 冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

知識

水位がフロアを超えると

- 水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

緊急脱出用ハンマー * の使用について

- 合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
  この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

事故が起きたとき

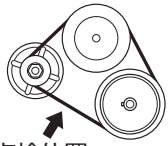
交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

 * 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

サービスデータ

項目			サービスデータ	
点火プラグ	エンジン型式＼プラグ型式		NGK	デンソー
	KF型(ターボ車以外)		ILKR6F11 (イリジウムプラグ)	SXU20HPR11 (イリジウムプラグ)
	KF型(ターボ車)		ILKR7D8 (イリジウムプラグ)	SXU22HPR8 (イリジウムプラグ)
ファンベルト	たわみ量(㎜) 押力98N{10kgf}時		7.9～9.7(点検時)  点検位置	
アイドリング回転数(rpm)			800	
ブレーキペダル	遊び(㎜)		0.5～3.0	
	床板とのすき間(㎜) (踏力294N{30kgf}時)	2WD車	143.6以上	
		4WD車	143.0以上	
駐車ブレーキ	踏みしろ (踏力245N{25kgf}時)		5～7ノッチ	
バッテリー			M-42	
フューエルタンク	容量(ℓ) (無鉛ガソリン使用)	2WD車	36	
		4WD車	34	
ウォッシャータンク	容量(ℓ)		1.5	

項目			サービスデータ
エンジンオイル	使用オイルと交換時期	ターボ車以外	・アミックス EXTRA 0W-20*1 ・アミックス EXTRA 5W-30 6か月ごとまたは、 10,000kmごと(5,000kmごと*2) のどちらか早い方
		ターボ車	アミックス EXTRA 5W-30*1 6か月ごとまたは、 5,000kmごと(2,500kmごと*2) のどちらか早い方
	交換量(ℓ)	オイル交換時	約2.7
		オイルとオイルフィルター(オイルクリーナー)交換時	約2.9
オイルフィルター(オイルクリーナー)	交換時期		10,000kmごと(5,000kmごと*2)
トランスミッションオイル	交換時期		50,000kmごと
	使用オイル		アミックスCVTフルード- DFE*1 またはDC
	交換量(ℓ)	ターボ車以外	約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)
		ターボ車	約2.5(ドレン)、約5.8(全容量)

＊1　省燃費性に優れるオイルです。

＊2　シビアコンディション条件での定期交換の場合
シビアコンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上／年)や短距離走行の繰り返し(8km以下／回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

CVT 車のトランスミッションオイルを交換する場合

● ダイハツ純正オイル（アミックス CVT フルード -DFE または DC）のみご使用ください。
ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。
オイルの交換については、必ずダイハツサービス工場にご相談ください。

項目		サービスデータ
トランスファオイル	交換時期	100,000㎞ごと
	使用オイル	アミックスデファレンシャルハイポイドギヤオイルSAE80W-90（API分類GL-5）
	交換量（ℓ）	約0.57
リヤデファレンシャルオイル	交換時期	30,000㎞または2年（初回は3年）
	使用オイル	アミックス ATF D3-SP
	交換量（ℓ）	約0.73
ブレーキオイル	交換時期	2年ごと（初回は3年）
	使用オイル	アミックスブレーキフルード（DOT3相当）
エアクリーナーエレメント	交換時期	40,000㎞ごと（20,000㎞ごと*）
冷却水（除くリザーバータンク）	交換時期	2年ごと（初回は3年）
	使用液	アミックスロングライフクーラント（高防錆力タイプ）
	規定濃度（%）	30（寒冷地50）
	交換量（ℓ）	約3.5

＊ シビアコンディション条件での定期交換の場合
シビアコンディション条件とは、走行距離大（20,000㎞以上／年）や短距離走行の繰り返し（8㎞以下／回）または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧（空車時：kPa{kgf/㎠}）				タイヤの溝の深さ（㎜）	タイヤ位置交換時期
	前　輪		後　輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14 75S	240{2.4}				1.6以上	5,000㎞ごと
165/55R15 75V						

MEMO

さくいん

ア

アームレスト …… 329
アームレストボックス …… 336
アイドリング回転数 …… 438
アイドリングストップ時間 …… 179
アイドリングストップシステム …… 279
アイドリングストップ積算時間 …… 180
アウター（ドア）ミラー …… 145
アクセサリーソケット …… 328
アシストグリップ …… 334
足踏み式駐車ブレーキ …… 216
アンダートランク …… 339
アンダーボックス …… 338
アンチロックブレーキシステム（ABS） …… 221
アンテナ …… 312

イ

イージークローザー …… 104
イージースタートサポート …… 203
EPS（電動パワーステアリング）警告灯 …… 162
EBD …… 221
イグニッション（エンジン）スイッチ
・キーフリーシステム装着車 …… 211
・キーレスエントリー装着車 …… 209
イグニッションキー …… 72
ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー＆トップテザーアンカー …… 51
イモビライザー機能 …… 64
インジケーターランプ（表示灯） … 164
インターロック …… 210
インナーハンドル
・スライドドア …… 103
・バックドア …… 119
インナー（ルーム）ミラー …… 145
インパネアッパーボックス …… 336
インパネアンダートレイ …… 336
インパネセンターポケット …… 336
インパネトレイ …… 336

ウ

ウインカー（方向指示）スイッチ … 196
ウインカー（方向指示）表示灯 …… 164
ウインドウォッシャー液の補給 …… 364
ウインドガラス（パワーウインド） …… 120
ウインドデフォッガースイッチ …… 311
ウォーニングランプ（警告灯） …… 153
ウォッシャースイッチ …… 193
ウォッシャータンクの容量 …… 438
上向き表示灯 …… 165
運転席 SRS エアバッグ …… 53
運転席シートクッションポケット … 337
運転席シートバックポケット …… 337
運転席シートリフター …… 128
運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯 …… 157

エ

エアクリーナーエレメントの
データ …… 440
エアコン
・オート …… 302
・マニュアル …… 294
エアコンガス …… 376
エアバッグ …… 53
エアフィルター …… 376
ABS …… 221
ABS 警告灯 …… 160
eco IDLE（エコアイドル）…… 279
eco IDLE OFF スイッチ …… 289
eco IDLE OFF 表示灯 …… 288
eco IDLE 表示灯 …… 287
エコドライブアシスト照明 …… 183
エコドライブアシスト照明の
表示設定 …… 180
エコ発電制御 …… 292
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ警告灯 …… 160
SRS エアバッグコンピューター …… 62
SRS サイドエアバッグ …… 53
エマージェンシーキー …… 73
エマージェンシーストップ
シグナル …… 278
LLC（冷却水）のデータ …… 440
エンジンオイルのデータ …… 439
エンジンオイルレベルゲージ …… 363
エンジン回転計（タコメーター）… 173
エンジンがかからないとき …… 419
エンジンキー …… 72
エンジン警告灯 …… 153
エンジンスイッチ
・キーフリーシステム装着車 …… 211
・キーレスエントリー装着車 …… 209
エンジンフード（ボンネット）…… 360
エンジンルーム …… 358
エンジンルームサービスカバー …… 359

オ

オイルの交換量 …… 439
オイルフィルターのデータ …… 439
オイルプレッシャー（油圧）
警告灯 …… 154
応急修理セット …… 410
大型プルハンドル …… 337
オーディオ …… 312
オートエアコン …… 302
オートドアロック機能／
アンロック機能 …… 97
オートハイビーム …… 186
オートハイビーム“故障”表示 …… 269
オートハイビーム作動灯 …… 267
オート（パワー）ウインド …… 120
オートライト機能 …… 184
オートレベリング警告灯 …… 161
オーバーヒートの処置 …… 429
オープナー
・フューエルリッド …… 126
・ボンネット …… 360
お子さま専用シート …… 40
オドメーター（積算距離計）…… 175
オルタネーター（ファン）ベルトの
点検基準値 …… 438
温度調節センサー …… 310

カ

カードホルダー …… 332
外気温 …… 178
鍵（キー） …… 72
格納式アシストグリップ …… 334
格納式リヤドアサンシェード …… 333
カップホルダー …… 350
間欠ワイパー（ワイパー・ウォッシャースイッチ） …… 193

キ

キー …… 72
キーインターロック …… 210
キー（エンジン）スイッチ
・キーフリーシステム装着車 …… 211
・キーレスエントリー装着車 …… 209
キー閉じ込み防止機能 …… 96
キー抜き忘れ警告ブザー …… 210
キーの電池交換 …… 393
キーフリー警告灯 …… 87
キーフリーシステム …… 78
キーフリーシステムの警告 …… 82
キーレスエントリー …… 77
キーを閉じ込めたとき …… 434
機能停止コード（スマートアシストⅢ） …… 270
給油口（フューエルリッド） …… 126
緊急停止するには …… 435

ク

空気圧のデータ …… 441
空調 …… 294
クーラー（エアコン）
・オートエアコン …… 302
・マニュアルエアコン …… 294
クーラント（冷却水）のデータ …… 440
区間距離計（トリップメーター） …… 175
曇り取り
・フロント（オートエアコン） …… 303
・フロント（マニュアルエアコン） …… 297
・リヤ …… 311
クラクション（ホーン）スイッチ …… 196
クリーナー（オイルフィルター）のデータ …… 439
クリーンエアフィルター …… 376
グローブボックス …… 336

ケ

警音器（ホーン）スイッチ …… 196
計器（メーター） …… 172
警告灯 …… 153
警告ブザー
・アイドリングストップシステム警告ブザー …… 286
・エンジン冷却水温ブザー …… 156
・キー抜き忘れ警告ブザー …… 210
・キーフリーシステム警告ブザー … 82
・シートベルト締め忘れ警告ブザー（運転席・助手席）…… 157
・シートベルト締め忘れ警告ブザー（後席）…… 158
・スマートアシストⅢのブザー … 271
・駐車ブレーキ警告ブザー …… 216
・電動パワーステアリングシステム警告ブザー …… 162
・燃料残量警告ブザー …… 159
・ブレーキ警告ブザー …… 155
・ライト消し忘れ警告ブザー …… 191
警報（セキュリティアラーム）の停止方法 …… 68
けん引されるとき …… 422

コ

工具 …… 404
高水温警告灯 …… 156
後席クォーターポケット …… 337
後席シートベルト締め忘れ警告ブザー …… 158
後席（リヤシート） …… 130
航続可能距離 …… 177
故障したとき …… 420
固定バー …… 51
固定ベルト …… 347
コーナーセンサー（リヤ） …… 273
誤発進抑制制御機能（前方・後方）…… 249
小物入れ
・アームレストボックス …… 336
・インパネアッパーボックス …… 336
コンビネーションメーター …… 172

サ

サービスデータ …… 438
サイドアンダーミラー …… 148
サイドエアバッグ …… 53
サイド（ドア）ミラー …… 145
サイドトレイ …… 336
サンシェード …… 333
3 点式 ELR シートベルト …… 35
サンバイザー …… 331

シ

シート
・フロント …… 128
・リヤ …… 130
シートアレンジ …… 135
シートバックテーブル …… 351
シートヒーター …… 330
シートベルト …… 35
シートベルト締め忘れ警告灯（運転席・助手席）…… 157
シートベルト締め忘れ警告灯（後席）…… 158
シートリフター …… 128
CVT 警告灯 …… 157
CVT シフトインジケーター …… 168
CVT 車 …… 200
事故が起きたとき …… 436
室内照明 …… 325
シフトインジケーター …… 168
シフトレバー …… 217
シフトロック解除ボタン …… 219
シフトロック機構 …… 218
車載工具 …… 404
車線逸脱警報 OFF 表示灯 …… 267
車線逸脱警報機能 …… 257
車線逸脱警報作動灯 …… 266
ジャッキの使いかた …… 406
車両盗難防止（イモビライザー）機能 …… 64
車両を緊急停止するには …… 435
集中（パワー）ドアロック …… 95
充電警告灯 …… 154
使用オイル …… 439
衝撃感知ドアロック解除システム …… 97
上下 2 段調節式デッキボード …… 341
照度調整 …… 181
衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）…… 238
衝突警報機能（対車両・対歩行者）…… 238
照明 …… 325
助手席 SRS エアバッグ …… 53
助手席シートアンダーボックス …… 338
助手席シートベルト締め忘れ警告灯 …… 157
ショッピングフック …… 351

ス

水温警告灯 …… 156
水温表示灯 …… 166
水没・冠水したときは …… 436
スタック（立ち往生）したとき …… 419
ステアリングスイッチ
・オーディオ …… 313
・D assist 切り替えスイッチ …… 219
ステアリングホイール（チルトステアリング）…… 150
ステレオカメラ …… 234
スノー（タイヤ）チェーン …… 400
スパーク（点火）プラグの型式 …… 438
スピードメーター …… 173
スマートアシスト OFF スイッチ …… 272
スマートアシスト OFF 表示灯 …… 266
スマートアシスト機能停止コード …… 270
スマートアシスト“故障”表示 …… 268
スマートアシスト作動灯 …… 265
スマートアシストⅢ …… 231

スマートアシスト“停止”表示 …… 269
スライド調整
・フロントシート …… 128
・リヤシート …… 130
スライドドア …… 100
スライドドアイージークローザー … 104
スリップインジケーター …… 226

セ

積算距離計（オドメーター） …… 175
セキュリティアラーム …… 65
セキュリティアラーム作動の
停止方法 …… 68
セキュリティインジケーター …… 167
セレクト（シフト）レバー …… 217
先行車発進お知らせ機能 …… 261
洗車 …… 354
前照灯（ヘッドランプ）の
切り替え …… 185
前席（フロントシート） …… 128

ソ

速度計（スピードメーター） …… 173
ソナー …… 237

タ

ターボ車 …… 200
ターンシグナルインジケーター
（方向指示表示灯） …… 164
ターンシグナル（方向指示）
スイッチ …… 196
タイヤ交換 …… 367
タイヤチェーン …… 400
タイヤの点検 …… 365
タイヤのデータ …… 441
タイヤのローテーション …… 366
タイヤパンク応急修理セット …… 410
タコメーター …… 173
暖房（エアコン）
・オートエアコン …… 302
・マニュアルエアコン …… 294

チ

チェーン …… 400
チェックエンジン警告灯 …… 153
チェンジ（シフト）レバー …… 217
チケットホルダー …… 331
チャージ（充電）警告灯 …… 154
チャイルドシート …… 40
チャイルドシート固定バー …… 51
チャイルドシートの選びかた …… 42
チャイルドシートの固定のしかた …… 47
チャイルドシートの種類 …… 41
チャイルドセーフティ …… 96
駐車ブレーキ …… 216
駐車ブレーキの点検基準値 …… 438
チルトステアリング …… 150

ツ

ツール（工具） …… 404

テ

D assist 切り替えスイッチ …… 219
TRC …… 224
TRC OFF 表示灯 …… 227
低水温表示灯 …… 166
ディスクホイール（タイヤ）の交換 …… 367
ディスクホイール（タイヤ）のデータ …… 441
テールインジケーター …… 165
テザーアンカー …… 51
デッキ（ラゲージ）アンダーボックス …… 339
デッキ（ラゲージ）ボード …… 339
デッキ（ラゲージ）ユーティリティフック …… 344
デッキ（ラゲージ）ルームランプ …… 326
デファレンシャルオイルのデータ …… 440
デフォッガースイッチ …… 311
デフロスター（曇り取り）
・フロント (オートエアコン) …… 303
・フロント（マニュアルエアコン） …… 297
・リヤ …… 311
デュアル SRS エアバッグ …… 53
点火プラグの型式 …… 438
電球の交換 …… 380
点検整備項目（サービスデータ） …… 438
電子カードキー …… 72
電子カードキーが使用できないとき …… 431
電池の交換 …… 393
電動格納式（ドア）ミラー …… 145
電動格納式ヒーテッドドアミラー …… 148
電動スライドドア …… 105
電動パワーステアリング警告灯 …… 162
電力回生制御 …… 292

ト

ドア …… 88
ドア（パワー）ウインド …… 120
ドアポケット …… 337
ドアミラー …… 145
ドア連動機能 …… 327
ドアロック …… 95
時計 …… 182
トップテザーアンカー …… 51
トランスファオイルのデータ …… 440
トランスミッションオイルのデータ …… 439
トリップメーター（区間距離計） …… 175
ドリンクホルダー …… 349

ナ

内気センサー …… 310

ニ

荷室床面フック …… 346
日射センサー …… 310

ネ

燃費（平均燃費） …… 176
燃料カットシステム …… 419
燃料給油口（フューエルリッド） … 126
燃料計 …… 174
燃料残量警告灯 …… 159
燃料（フューエル）タンクの容量 … 438

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ …… 216
パーキング（駐車）ブレーキの
点検基準値 …… 438
ハイビーム（ヘッドランプ上向き）
表示灯 …… 165
ハザードインジケーター
（非常点滅表示灯） …… 164
ハザード（非常点滅灯）スイッチ … 197
挟み込み防止機構
・パワーウインド …… 121
・パワースライドドア …… 113
発炎筒 …… 421
バックカメラ …… 314
バックドア …… 116
バックドアランプ …… 326
バック（ルーム）ミラー …… 145
パッシング
（ヘッドランプの切り替え） …… 185
バッテリー …… 291
バッテリーあがりの処置 …… 425
バッテリーあがり防止機能 …… 327
バッテリーの型式 …… 438
発電制御 …… 292
バニティーミラー …… 332
パノラマモニター …… 318
バルブ（電球）の交換 …… 380
パワーウインド …… 120
パワーステアリング警告灯 …… 162
パワースライドドア …… 105
パワースライドドア予約ロック
機能 …… 110
パワードアロック …… 95
パワーモード …… 219
パワーモードインジケーター …… 220
パンク応急修理セット …… 410
パンクしたとき …… 425
半ドア警告灯 …… 159
ハンドル（チルトステアリング） … 150

ヒ

ヒーター（エアコン）
・オートエアコン …… 302
・マニュアルエアコン …… 294
ヒーテッドミラー …… 148
被害軽減ブレーキアシスト …… 239
非常点滅灯スイッチ …… 197
非常点滅表示灯 …… 164
ヒューズボックス …… 377
表示灯 …… 164
ヒルスタートシステム …… 290
ヒルホールドシステム …… 229

フ

ファンベルトの点検基準値 …… 438
VSC …… 223
VSC&TRC OFF スイッチ …… 228
VSC&TRC 警告灯 …… 226
VSC OFF 表示灯 …… 227
フィルターのデータ
・オイルフィルター …… 439
・クリーンエアフィルター …… 376
フォースリミッター機構付
シートベルト …… 37
フォグランプスイッチ …… 193
フォグランプ表示灯 …… 165
プッシュボタンスタートスイッチ … 211
フット（足踏み式駐車）ブレーキ … 216
不凍液（冷却水）のデータ …… 440
フューエルウォーニング
（燃料残量警告灯）…… 159
フューエルタンクの容量 …… 438
フューエル（燃料）カット
システム …… 419
フューエルメーター（燃料計） …… 174
フューエルリッド …… 126
冬用タイヤ …… 400
プラグの型式 …… 438
プリテンショナー＆フォース
リミッター機構付シートベルト …… 37
フルタイム4WD システム …… 201
ブレーキ（ABS）…… 221
ブレーキオイルのデータ …… 440
ブレーキ警告灯 …… 155
ブレーキペダルの点検基準値 …… 438
ブレード（ワイパー）の交換 …… 372
フロントアームレスト …… 329
フロントアームレストボックス …… 336
フロントシート …… 128
フロントシートベルト …… 35
フロントドア …… 88
フロントパーソナルランプ …… 325
フロントフォグランプスイッチ …… 193
フロントワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 193

ヘ

平均燃費 …… 176
ヘッドランプ上向き表示灯 …… 165
ヘッドランプの切り替え …… 185
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 192
ヘッドレスト …… 133
ベルトの点検基準値 …… 438

ホ

ホイール（タイヤ）の交換 …… 367
ホイール（タイヤ）のデータ …… 441
方向指示スイッチ …… 196
方向指示表示灯 …… 164
ホーンスイッチ …… 196
補給口（フューエルリッド） …… 126
ポジション表示
（シフトインジケーター）…… 168
ボトルホルダー …… 350
ボンネット …… 360

マ

前倒し
・フロントシート …… 137
・リヤシート …… 132
マスターウォーニング …… 264
窓ガラス（パワーウインド） …… 120
マニュアルエアコン …… 294
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 174

ミ

ミラー
・ドアミラー …… 145
・ルームミラー …… 145

メ

メーター …… 172
メインキー …… 72
メンテナンスデータ
（サービスデータ） …… 438

ユ

油圧警告灯 …… 154
ユーティリティフック …… 344

ヨ

予約ロック機能 …… 110
4WD 車 …… 201

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 191
ライト自動消灯機能 …… 190
ライトスイッチ …… 184
ラゲージアンダートランク …… 339
ラゲージルームランプ …… 326
ラジエーター液（冷却水）の
データ …… 440
ラバー（ワイパー）の交換 …… 372

リ

リクエストスイッチ …… 91
リクライニング調整
・フロントシート …… 128
・リヤシート …… 130
リバース連動リヤワイパー …… 195
リフター …… 128
リモコンスイッチ
・キーフリーシステム …… 78
・キーレスエントリー …… 77
リヤアンダーミラー …… 149
リヤウインドデフォッガー
スイッチ …… 311
リヤシート …… 130
リヤシートベルト …… 35
リヤデファレンシャルオイルの
データ …… 440
リヤドア …… 100
リヤドアサンシェード …… 333
リヤパーソナルランプ …… 325
リヤワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 195

ル

ルーフアンテナ …… 312
ルームミラー …… 145

レ

冷却水のデータ …… 440
冷房（エアコン）
・オートエアコン …… 302
・マニュアルエアコン …… 294
レベリング警告灯 …… 161
レベリングスイッチ …… 192

ロ

ローテーション …… 366
ロービーム・オートレベリング
警告灯 …… 161

ワ

ワイパー・ウォッシャースイッチ … 193
ワイパーの交換 …… 372
ワイヤレスドアロック
（キーレスエントリー）…… 77
W 数（電球）…… 380
ワンタッチスイッチ …… 91

3

3 点式 ELR シートベルト …… 35

4

4WD 車 …… 201

A

ABS …… 221
ABS 警告灯 …… 160
A/C（エアコン）
・オートエアコン …… 302
・マニュアルエアコン …… 294

C

CVT 警告灯 …… 157
CVT シフトインジケーター …… 168
CVT 車 …… 200

D

D assist 切り替えスイッチ …… 219

E

EBD …… 221
eco IDLE OFF スイッチ …… 289
eco IDLE OFF 表示灯 …… 288
eco IDLE（エコアイドル）…… 279
eco IDLE 表示灯 …… 287
EPS（電動パワーステアリング）
警告灯 …… 162

I

ISO FIX 対応チャイルドシート
固定バー＆トップテザーアンカー …… 51

L

LLC（冷却水）のデータ …… 440

S

SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ警告灯 …… 160
SRS エアバッグコンピューター …… 62

T

TRC …… 224
TRC OFF 表示灯 …… 227

V

VSC …… 223
VSC OFF 表示灯 …… 227
VSC&TRC OFF スイッチ …… 228
VSC&TRC 警告灯 …… 226
V（ファン）ベルトの点検基準値 … 438

W

W 数（電球）…… 380

- “スマートアシスト”“eco IDLE”“キーフリーシステム”“アミックス”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
- “VSC”、“TRC”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（Aは一時使用中止時、Bは解体返納時に必要です）

- A　自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B　解体届出書
- A B　自動車検査証
- A B　車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B　軽自動車税申告書
- A B　印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

3番窓口

検査手数料収納

⇩

2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（Cは使用者・所有者を変更した場合、Dは引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- C D 自動車検査証記入申請書
- C D 自動車検査証
- C D 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後３ヶ月以内のもの）
- C 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）
- C D 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- C 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
- D 軽自動車税申告書
- C D 印鑑

C D（ナンバー変更あり）

2番窓口

申請書類の確認

⇩

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

7番窓口

ナンバー頒布

C D（ナンバー変更なし）

2番窓口

申請書類の確認

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。

お問い合わせには、あらかじめ下記の事項について確認のうえ、ご連絡願います。

⑴ 車名および型式、登録番号
⑵ ご購入年月日
⑶ 走行距離
⑷ お客様のご住所、お名前、電話番号

●印刷＝ 2021 年 3 月 31 日　●発行＝ 2021 年 4 月 7 日＜非売品＞

210407-1

01999-B2533

ダイハツ工業株式会社

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール　0800-500-0182
受付時間　9：00～17：00
〒563-8651　大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html）

シートベルトを締めましょう

車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と
一致しない場合がありますのでご了承ください。